

潟上市総合計画（後期基本計画）策定に係る

市民アンケート調査

# 調査結果報告書

令和2年1月

潟 上 市



# 目次

I	調査の概要および回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象および調査方法	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
(2)	自由記述式の回答について	1
3	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	職業	3
(4)	就学先・勤務先	3
(5)	居住地区	4
(6)	潟上市での居住歴	5
II	調査結果	6
1	市への愛着度と定住意向について	6
(1)	潟上市への愛着度	6
(2)	今後の定住意向	16
2	現状と今後の取り組みについて	26
(1)	潟上市の各環境についての現状の満足度	26
(2)	潟上市の各環境についての今後の重要度	37
(3)	各環境の取り組みの優先度	48
3	あなたの生活や地域のことについて	52
(1)	あなたの生活について	52
(2)	仕事について	93
(3)	あなたと地域との関わりについて	99
(4)	お住まいの地域のことについて	115
4	今後の社会情勢を踏まえたうえでの市の取り組みについて	138
(1)	優先的に力を入れて欲しい分野	138
(2)	取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野	142



# I 調査の概要および回答者の属性

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

本調査は、第2次潟上市総合計画（計画期間：平成28年度～令和7年度）における前期基本計画（計画期間：平成28年度～令和2年度）の終期が近づいたことから、後期基本計画（計画期間：令和3年度～7年度）を作成するにあたり、市への愛着度や定住意向をはじめ、市の現状評価や今後重視する取り組み、各分野における施策要望や市政への関心など、まちづくりに対する満18歳以上の市民の意向等を把握し、後期基本計画づくりの基礎資料とするために実施したものである。

### (2) 調査対象および調査方法

- ・調査対象者：潟上市内在住の18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
- ・実施期間：令和元年11月20日（水）～令和元年12月13日（金）
- ・実施方法：郵送による無記名式アンケート
- ・調査地域：市内全域
- ・有効回答者数：794人（回答率39.7%）

## 2 本調査報告書の基本的な事項

### (1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しており、合計が100%にならない場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載しており、各比率はnを分母として算出している。
- ③複数回答の場合は、各回答の合計が100%を超える場合がある。
- ④文中、グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化して掲載している場合がある。

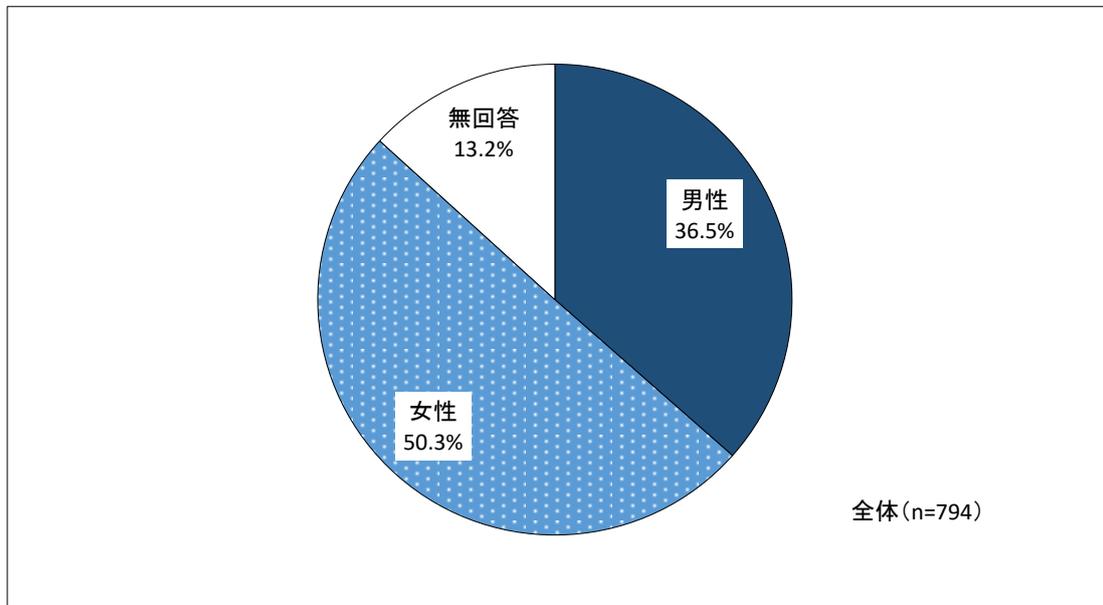
### (2) 自由記述式の回答について

選択式の設問で「その他」を選択した方の具体的内容、および、問7「あなたの生活で現在もしくは将来に向けて市政に望むことや、まちづくりに関するご意見・ご提案など」に記載いただいた内容は、別紙の各集計表に掲載している。

### 3 回答者の属性

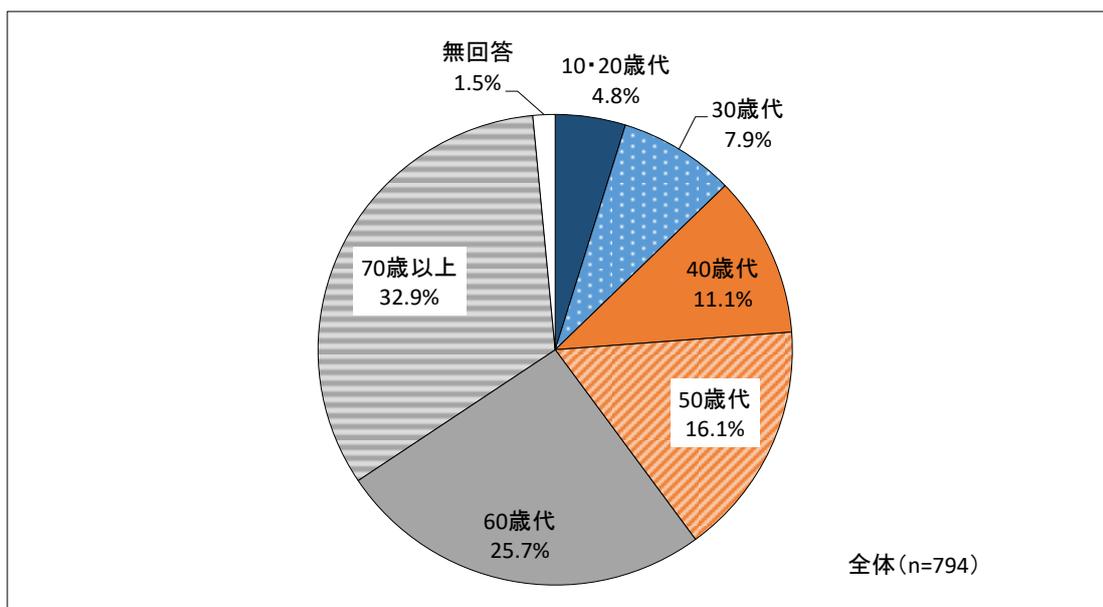
#### (1) 性別

回答者の性別については、「男性」36.5%、「女性」50.3%となっている。



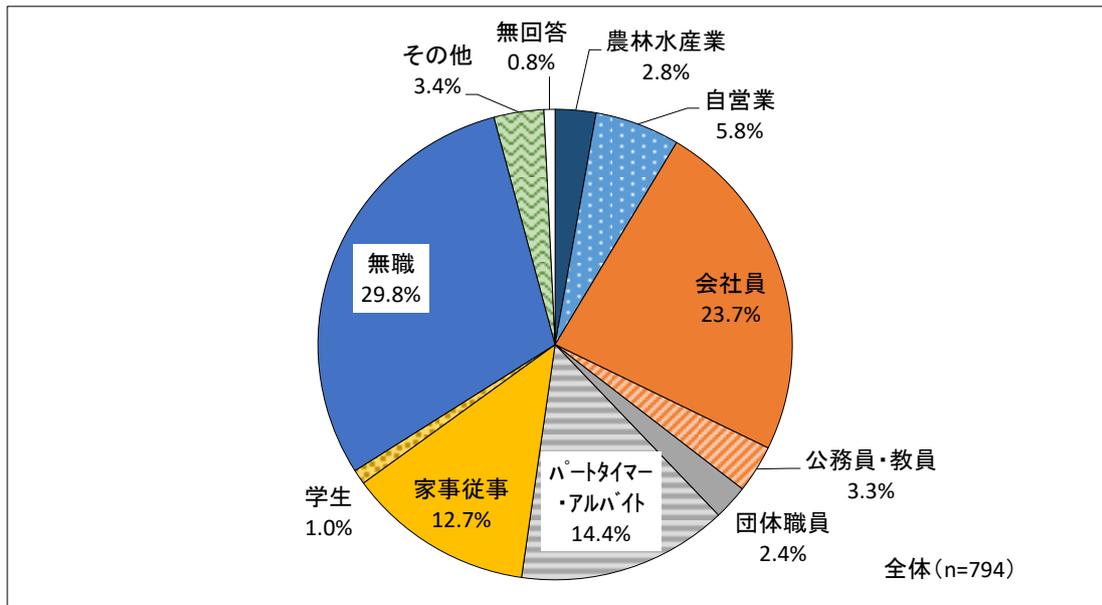
#### (2) 年齢

回答者の年齢については、70歳以上が32.9%で最も多く、次いで「60歳代」(25.7%)、「50歳代」(16.1%)、「40歳代」(11.1%)、「30歳代」(7.9%)、「10・20歳代」(4.8%)の順となっている。



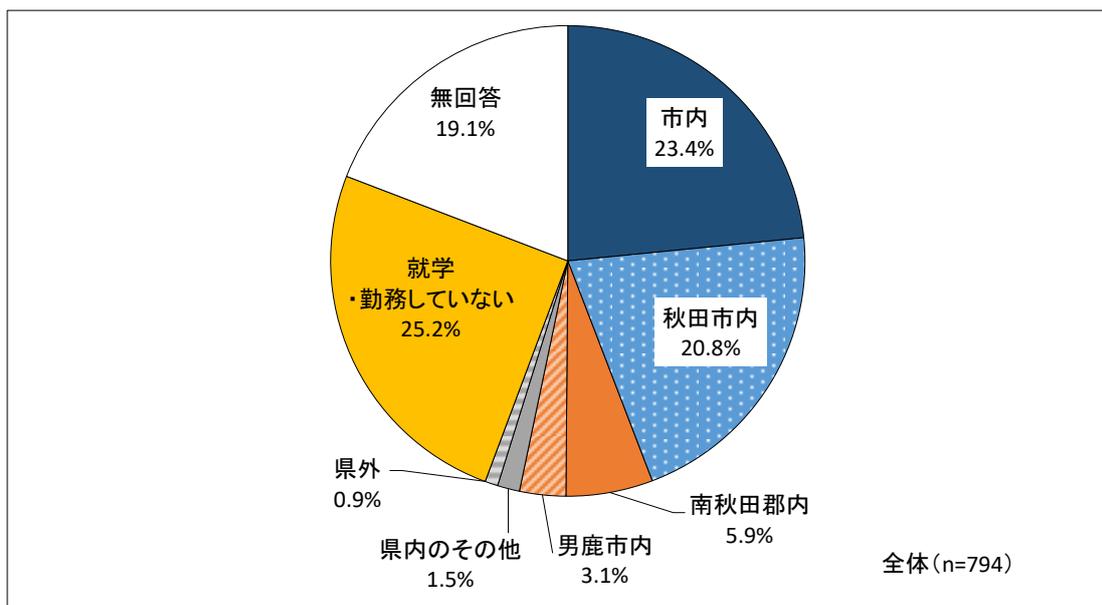
### (3) 職業

回答者の職業については、「無職」が29.8%で最も多く、次いで「会社員」(23.7%)、「パートタイマー・アルバイト」(14.4%)、「家事従事」(12.7%)、「自営業」(5.8%)、「その他」(3.4%)、「公務員・教員」(3.3%)、「農林水産業」(2.8%)、「団体職員」(2.4%)、「学生」(1.1%)の順となっている。



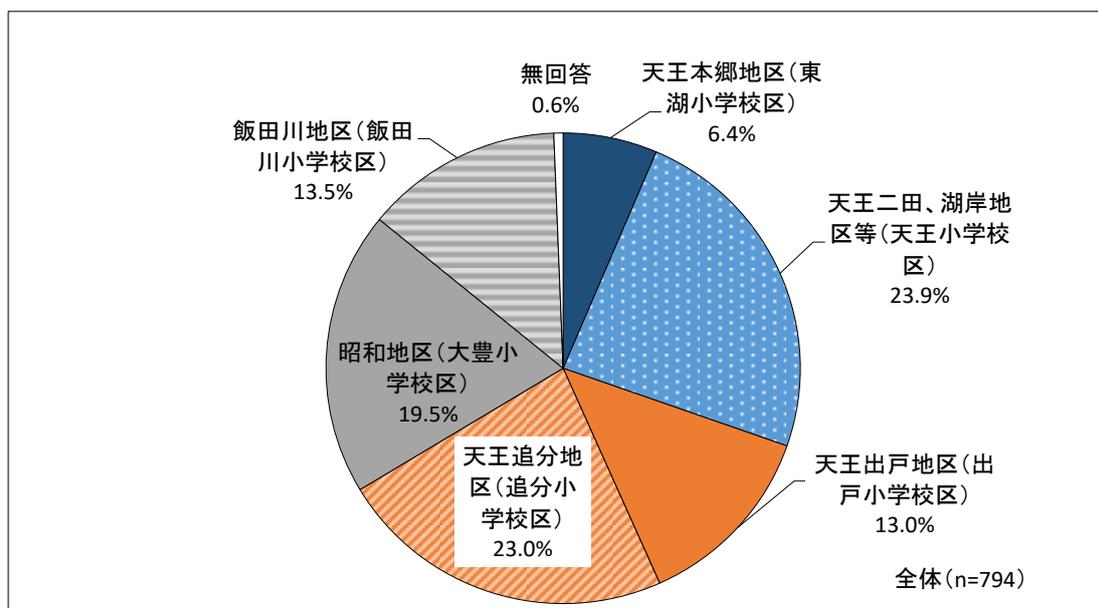
### (4) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先については、「就学・勤務していない」が25.2%で最も多く、次いで「市内」(23.4%)、「秋田市内」(20.8%)、「南秋田郡内」(5.9%)、「男鹿市内」(3.1%)、「県内のその他」(1.5%)、「県外」(0.9%)の順となっている。



### (5) 居住地区

回答者の居住地区については、「天王二田、湖岸地区等（天王小学校区）」が23.9%で最も多く、次いで「天王追分地区（追分小学校区）」（23.0%）、「昭和地区（大豊小学校区）」（19.5%）、「飯田川地区（飯田川小学校区）」（13.5%）、「天王出戸地区（出戸小学校区）」（13.0%）、「天王本郷地区（東湖小学校区）」（6.4%）の順となっている。

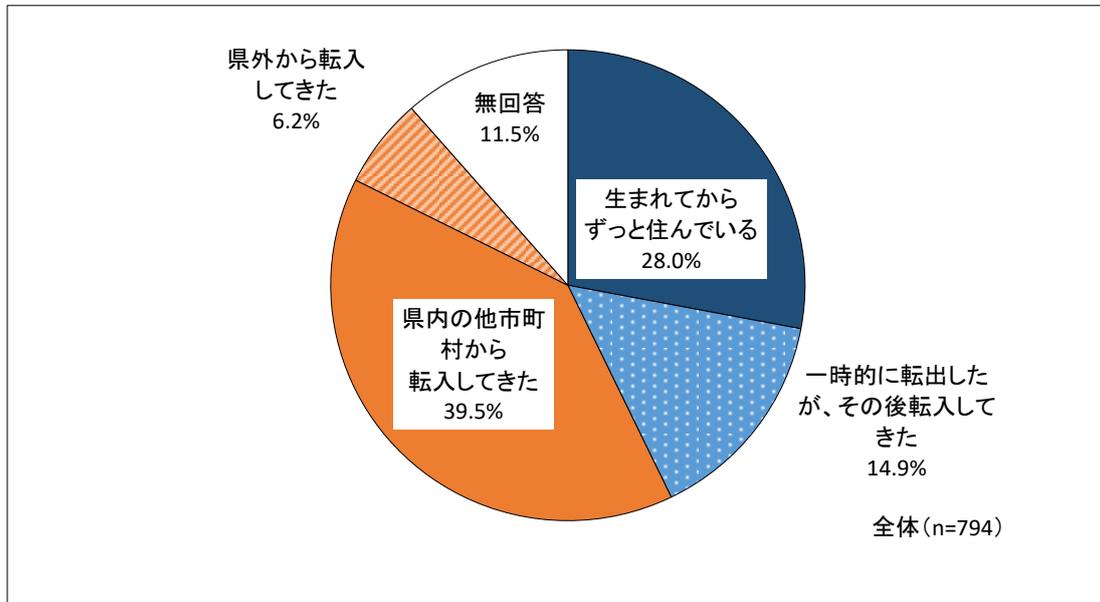


#### 〈居住地区別回答者数〉

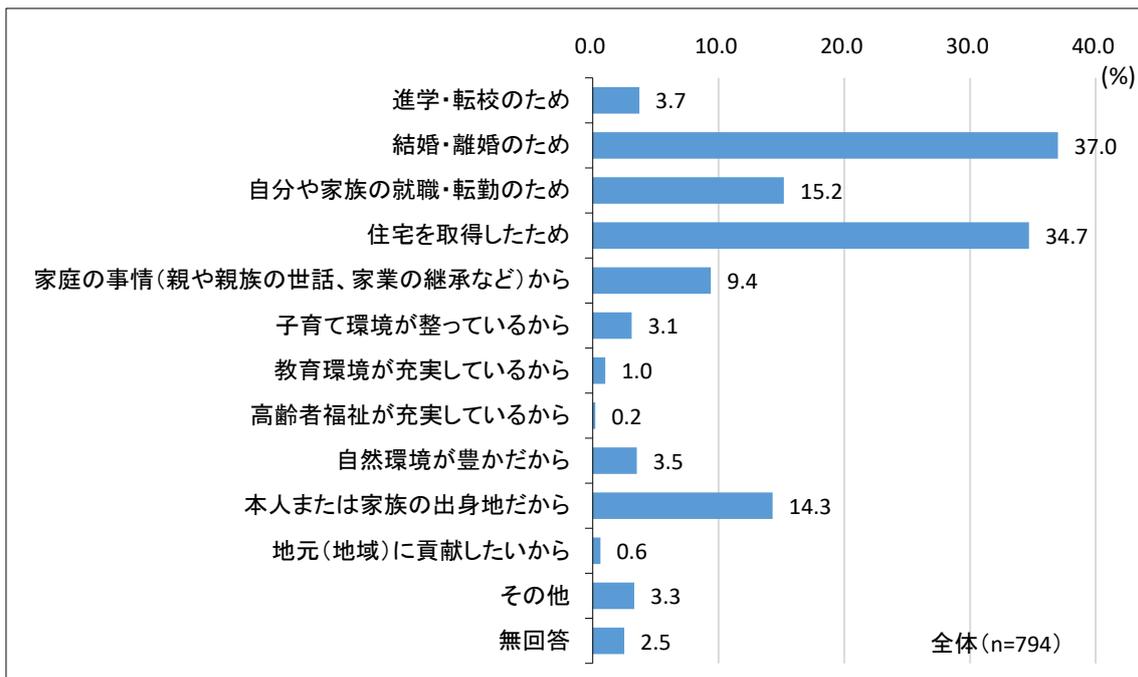
居住地区		回答者数 (人)	割合 (%)
天王本郷地区	(東湖小学校区)	51	6.4
天王二田、湖岸地区等	(天王小学校区)	190	23.9
天王出戸地区	(出戸小学校区)	103	13.0
天王追分地区	(追分小学校区)	183	23.0
昭和地区	(大豊小学校区)	155	19.5
飯田川地区	(飯田川小学校区)	107	13.5
無回答		5	0.6
全体		794	100.0

### (6) 潟上市での居住歴

回答者の潟上市での居住歴については、「県内の他市町村から転入してきた」が39.5%で最も多く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」(28.0%)、「一時的に転出したが、その後転入してきた」(14.9%)、「県外から転入してきた」(6.2%)の順となっている。



潟上市への転入（一時的転出後の転入や、県内・県外からの転入）の理由（複数回答）については、「結婚・離婚のため」が37.0%で最も多く、次いで「住宅を取得のため」(34.7%)、「本人または家族の出身地だから」(14.3%)、「家庭の事情（親や親族の世話、家業の継承など）から」(9.4%)などの順となっている。



## II 調査結果

### 1 市への愛着度と定住意向について

#### (1) 潟上市への愛着度

問2 あなたは、潟上市に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

▶ “愛着を感じている”が69.4%、一方、“愛着を感じていない”が10.7%

全体としては、「どちらかといえば愛着を感じている」と答えた人が46.2%で最も多く、これに「とても愛着を感じている」(23.2%)を加えた“愛着を感じている”と答えた人は69.4%となった。一方、「あまり愛着を感じていない」(8.1%)と「愛着を感じていない」(2.6%)を合わせた“愛着を感じていない”と答えた人は10.7%となっており、市への愛着度の高さがうかがえる結果となった。

これを属性別でみると、性別では、“愛着を感じている”の割合は男性が72.1%、女性が69.0%と、男女とも高い割合ながら、男性の方の割合が幾分高くなっている。

年齢でみると、“愛着を感じている”の割合は60歳代が71.1%で最も高く、その他の各年代も6割代後半と総じて高い割合を示している。また、「とても愛着を感じている」の割合は40歳代(12.5%)と50歳代(14.1%)では1割台ながら、30歳代(28.6%)などのその他の各年代では2割台となっている。

職業(その他を除く)でみると、“愛着を感じている”の割合は公務員・教員が88.4%で最も高く、農林水産業(77.3%)も8割近い割合となっている。一方、自営業(63.1%)と団体職員(63.2%)は6割台前半にとどまっている。また、「とても愛着を感じている」の割合は農林水産業が36.4%で最も高く、パートタイマー・アルバイトが16.7%で最も低い。

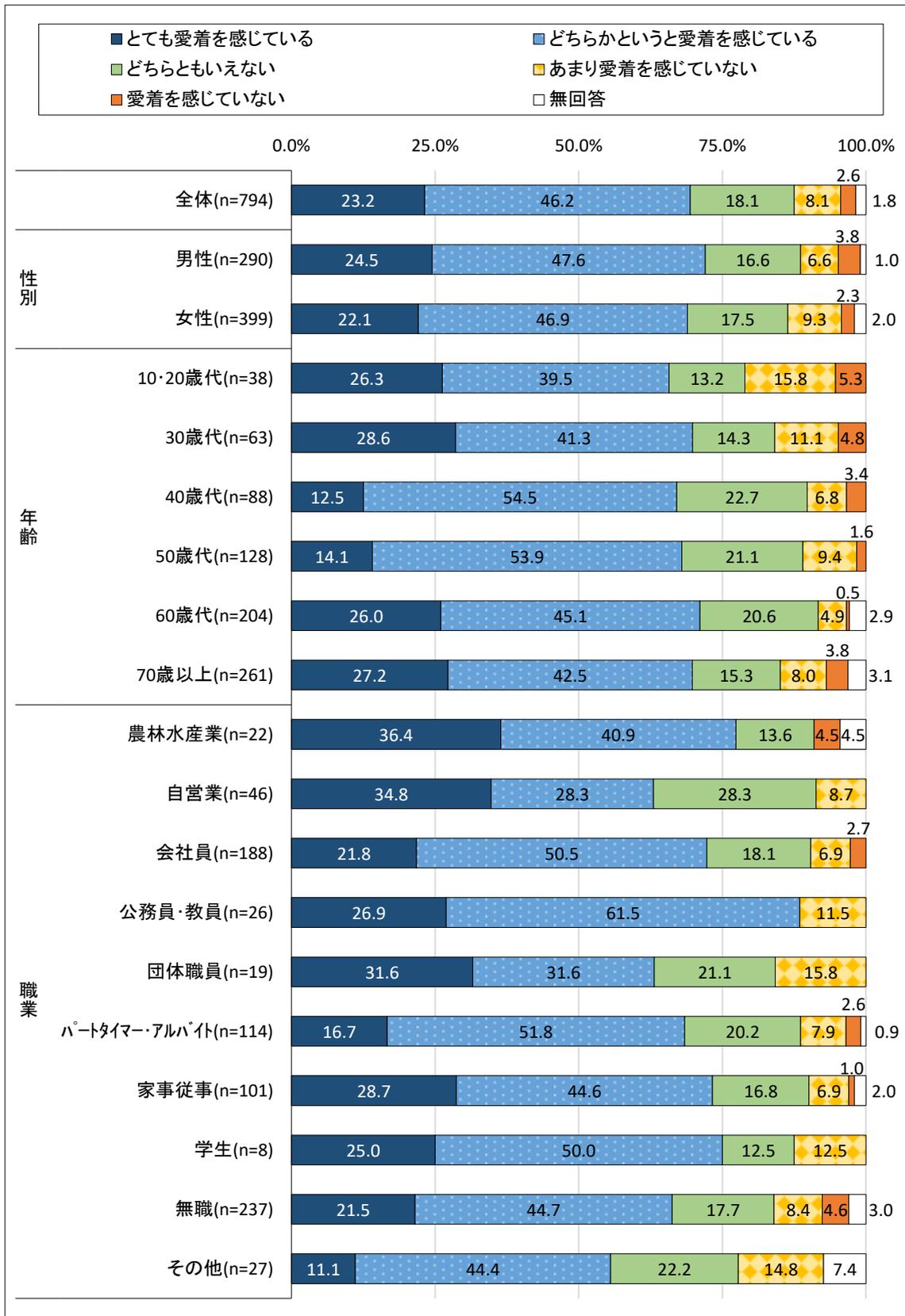
就学先・通勤先(県外を除く)でみると、“愛着を感じている”の割合は、男鹿市内(76.0%)と市内(74.2%)が7割台と高く、県内のその他(50.0%)と南秋田郡内(59.6%)が低くなっている。その他はすべて6割を超えている。

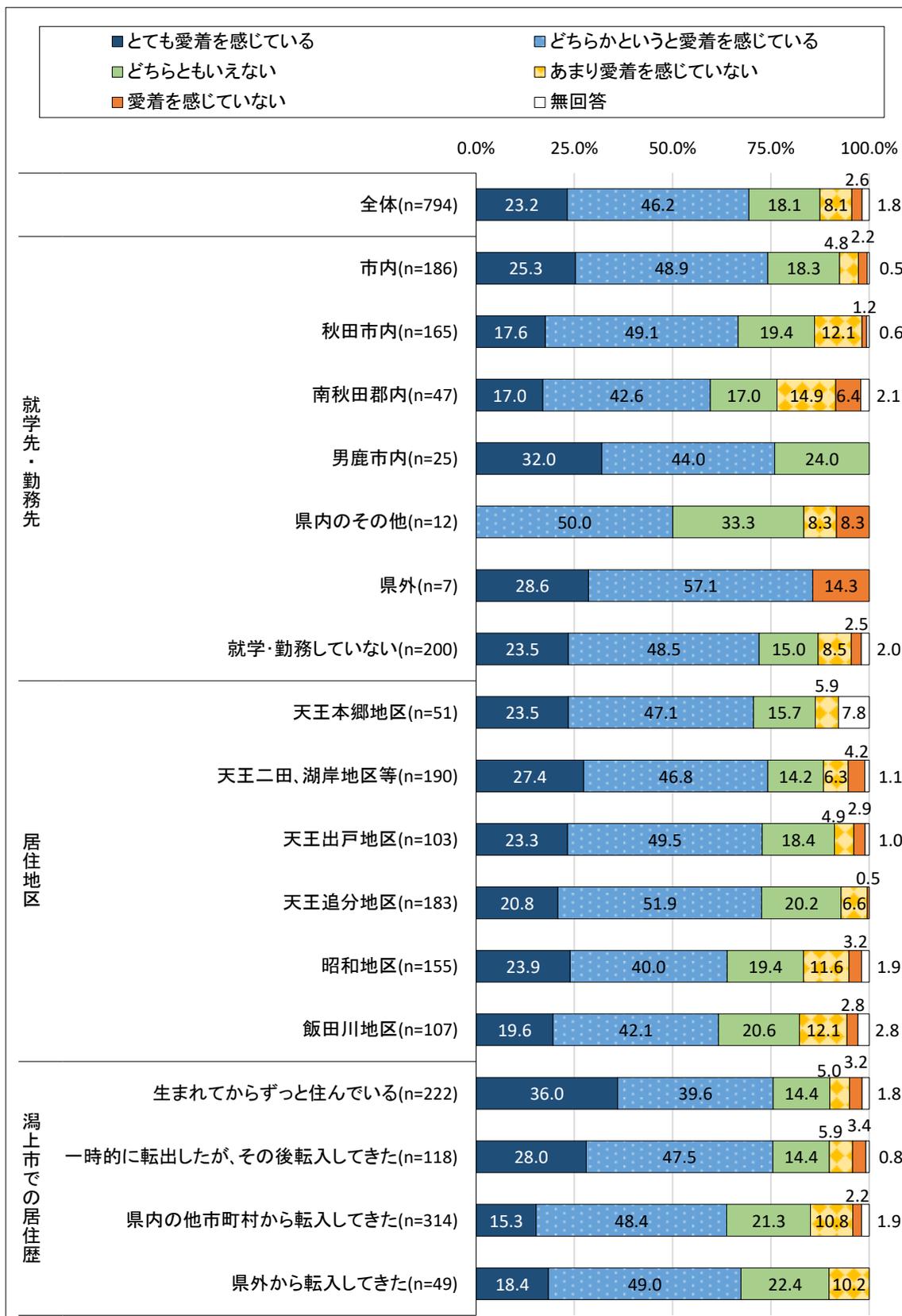
居住地区でみると、“愛着を感じている”の割合は、天王二田、湖岸地区等(74.2%)など天王の4地区でいずれも7割台となっている。一方、飯田川地区(61.7%)と昭和地区(63.9%)では6割台となっている。また、「とても愛着を感じている」の割合は天王二田、湖岸地区等が27.4%で最も高く、飯田川地区が19.6%最も低い。

潟上市での居住歴でみると、“愛着を感じている”の割合は生まれてからずっと住んでいる(75.6%)と一時的に転出したが、その後転入してきた(75.5%)が7割台、県内の各市町村から転入してきた(63.7%)と県外から転入してきた(67.4%)が6割台となり、地元出身者の方の割合が高くなっている。また、「とても愛着を感じている」の割合は生まれてからずっと住んでいるが36.0%で最も高く、県内の各市町村から転入してきたが15.3%で最も低い。[図表1参照]

図表 1 市への愛着度

(全体／性別、年齢、職業、就学先・勤務先、居住地区、潟上市での居住歴)





問2 また、その理由（原因）を下記の選択肢のなかから1つだけ選んで番号をご記入下さい。



➤ 生活環境（28.8%）、日常生活の利便性（18.0%）、地域コミュニティ（11.6%）がトップ3

全体としては、「生活環境」と答えた人が28.8%で最も多く、次いで「日常生活の利便性」（18.0%）と「地域コミュニティ（近所つき合い等）」（11.6%）が1割台で続いた。以下は、「自然環境」（8.4%）、「職場までの距離」（6.5%）、「交通の利便性」（5.3%）、「保健・福祉・医療サービス」（4.5%）の順となるなど、総じてみれば居住環境や利便性を重視する姿勢がうかがえた。

これを属性別でみると、性別では、男女ともトップ3は、「生活環境」（男性29.3%、女性28.3%）、「日常生活の利便性」（男性18.6%、女性18.5%）、「地域コミュニティ（近所つき合い等）」（男性13.1%、女性9.0%）の順となった。総じてみれば男女ともほぼ同様の割合ながら、「地域コミュニティ（近所つき合い等）」は男性が高い割合を示している。

年齢でみると、40歳代の37.5%をはじめとして、いずれの年代でも「生活環境」の割合が最も高く、「日常生活の利便性」と「地域コミュニティ（近所つき合い等）」も各年代で総じて高めの割合を示している。また、30歳代では「子どもの生活・教育環境」（11.1%）が他の年代より高い割合となっている。

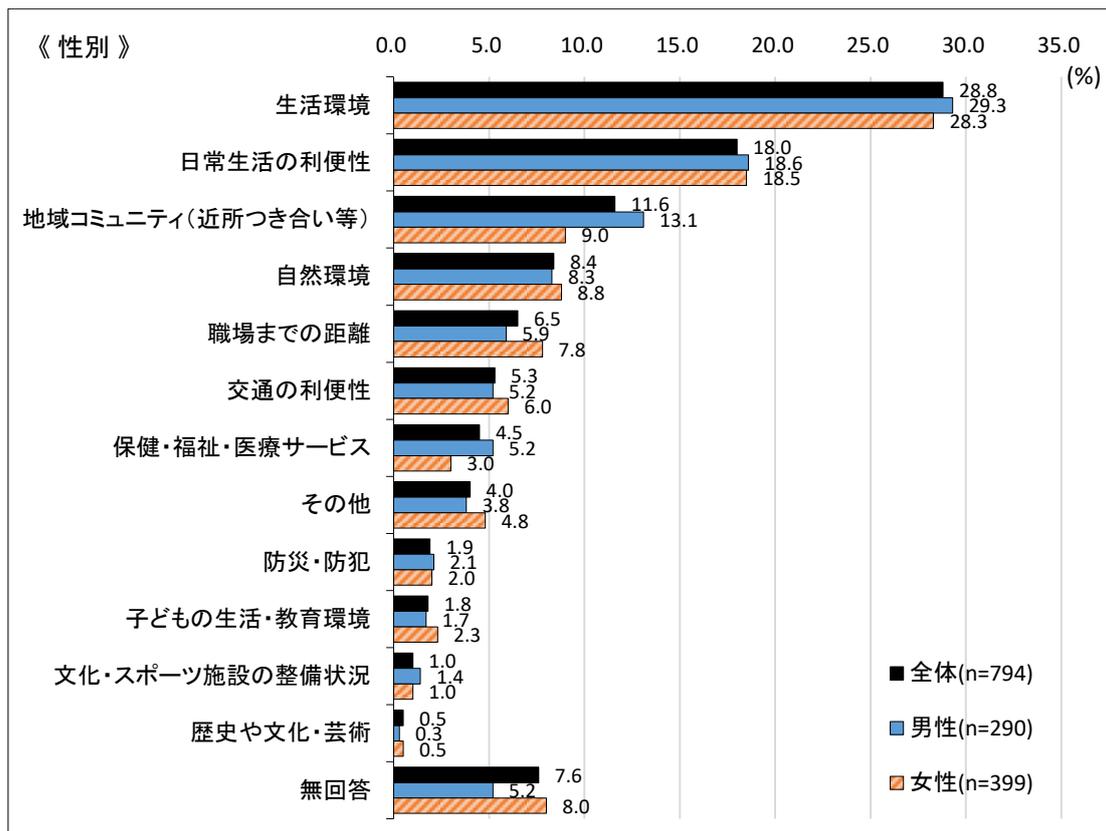
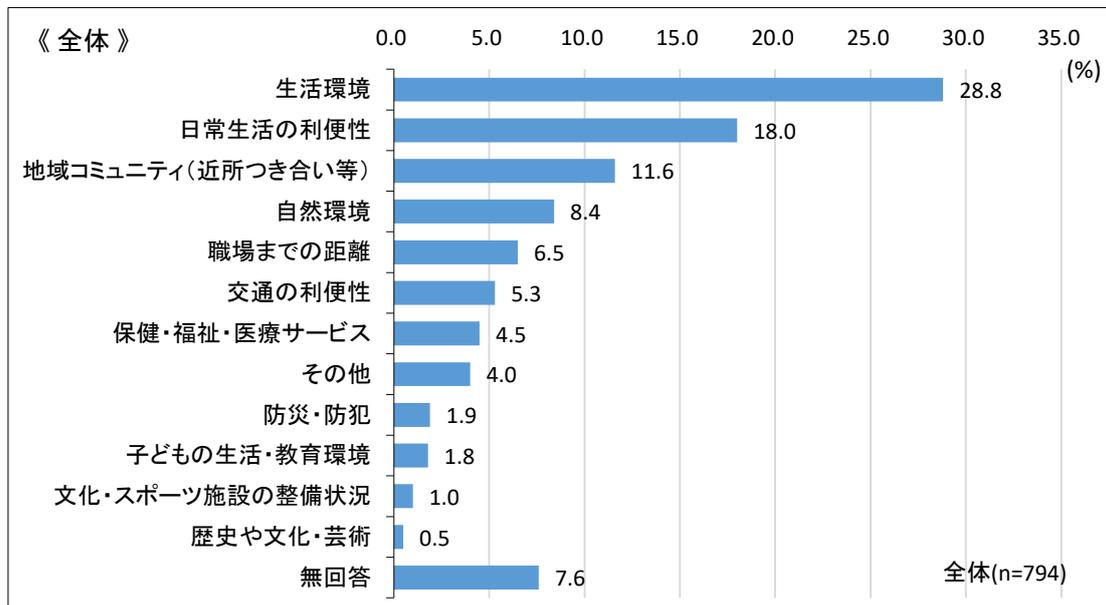
職業（その他を除く）でみると、団体職員を除く各職業では「生活環境」の割合が最も高く、「日常生活の利便性」も総じて高めの割合を示している。また、公務員では「地域コミュニティ（近所つき合い等）」（26.9%）が他の職業に比べ高い割合となっている。

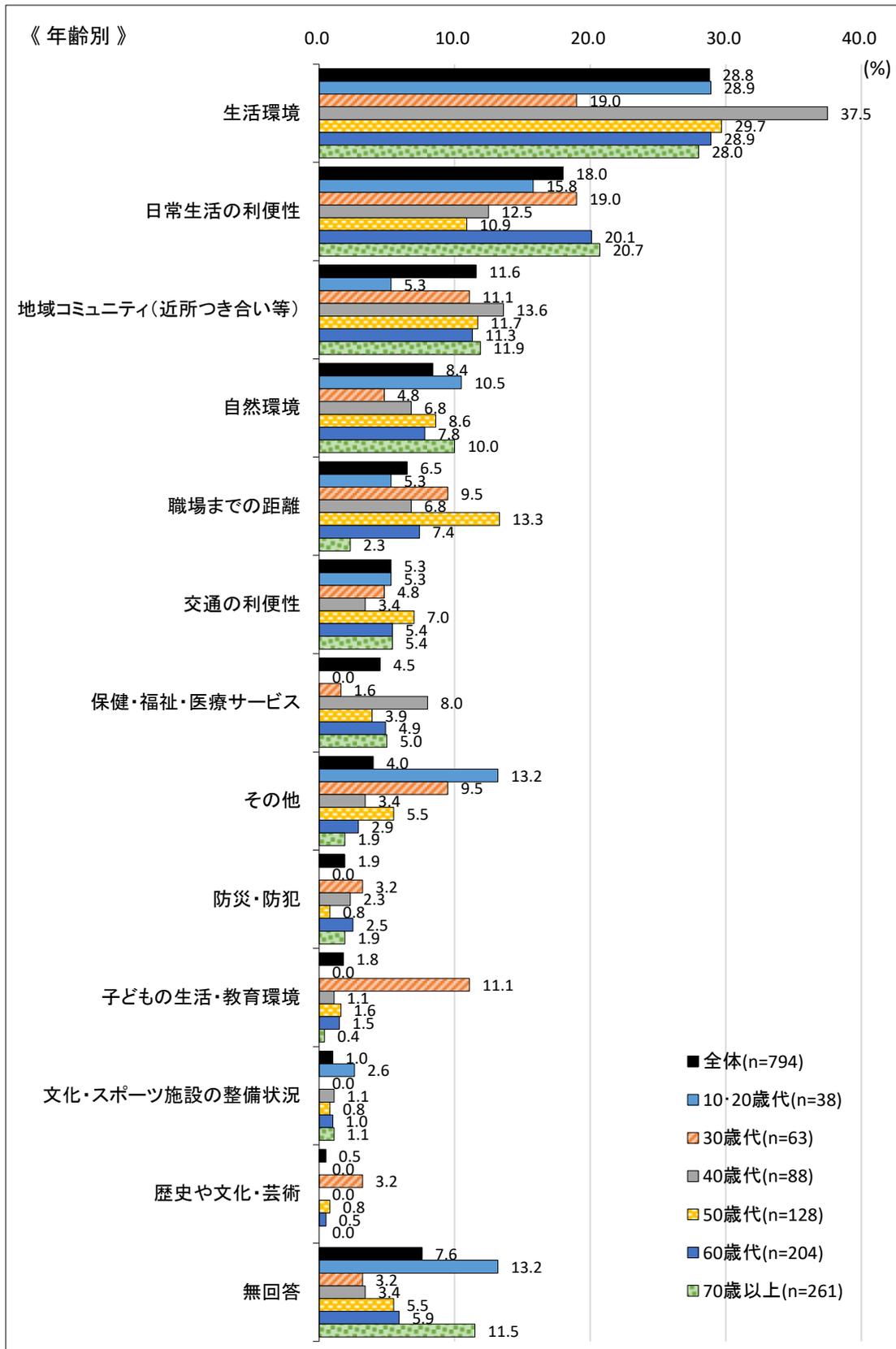
就学先・通勤先（県外を除く）でみると、県内のその他で「日常生活の利便性」（41.7%）が最も高かったほかは、いずれも「生活環境」の割合が最も高くなっている。

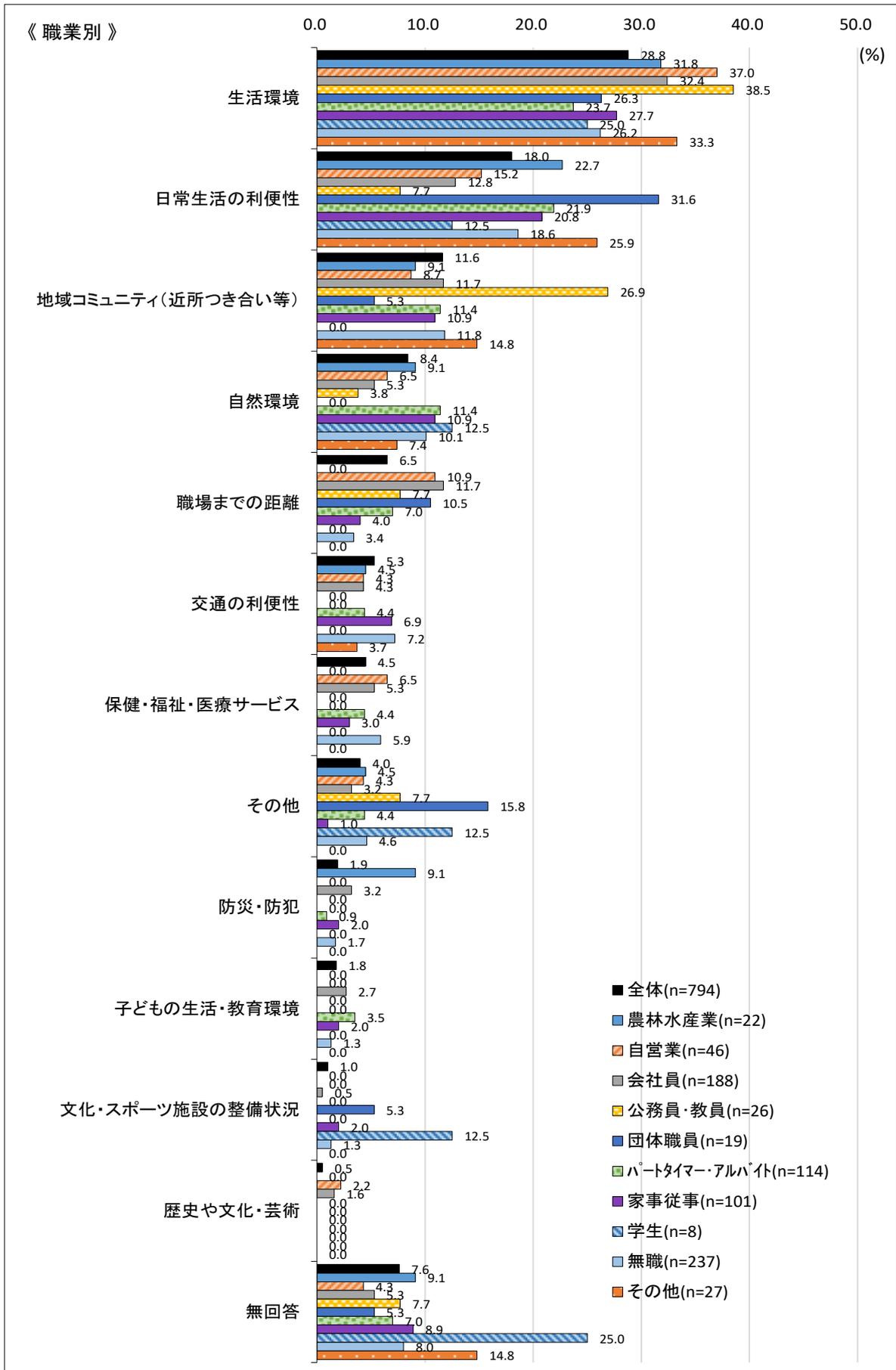
居住地区でみると、天王本郷地区の33.3%をはじめとして、いずれの地区でも「生活環境」の割合が最も高く、「日常生活の利便性」が総じて高めの割合で続いている。また、天王本郷地区では「自然環境」（17.6%）が他の地区に比べ高くなっている。

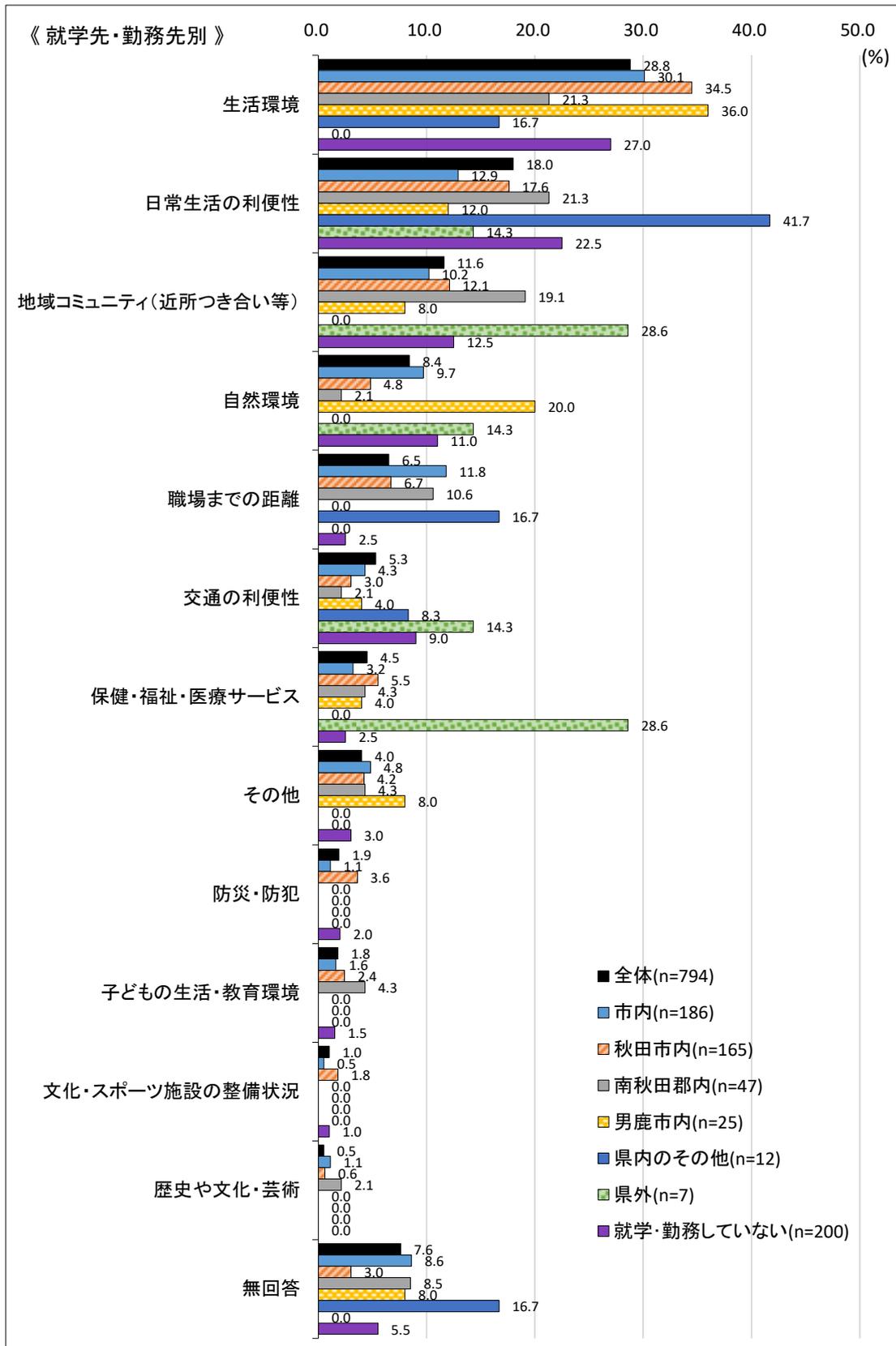
潟上市での居住歴でみると、生まれてからずっと住んでいる（34.7%）をはじめとして、いずれも「生活環境」の割合が最も高く、これに総じて「日常生活の利便性」が続いている。この両項目をみると、「生活環境」は地元出身者の方の割合が高い一方、「日常生活の利便性」は他地域からの転入者の割合の方が高い傾向にある。[図表2参照]

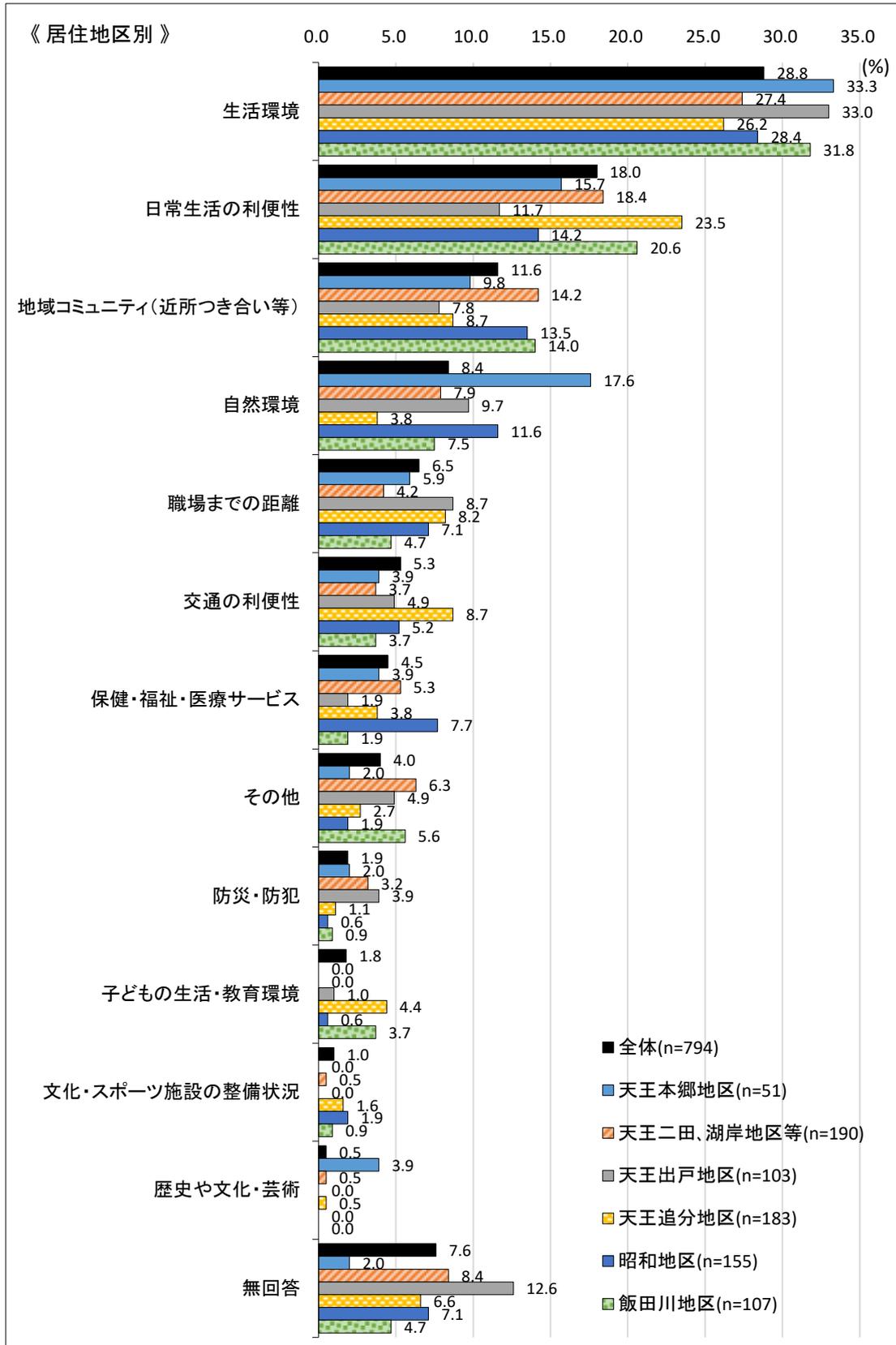
図表 2 「市への愛着度」を選択した理由（原因）  
 （全体／性別、年齢、職業、就学先・勤務先、居住地区、潟上市での居住歴）

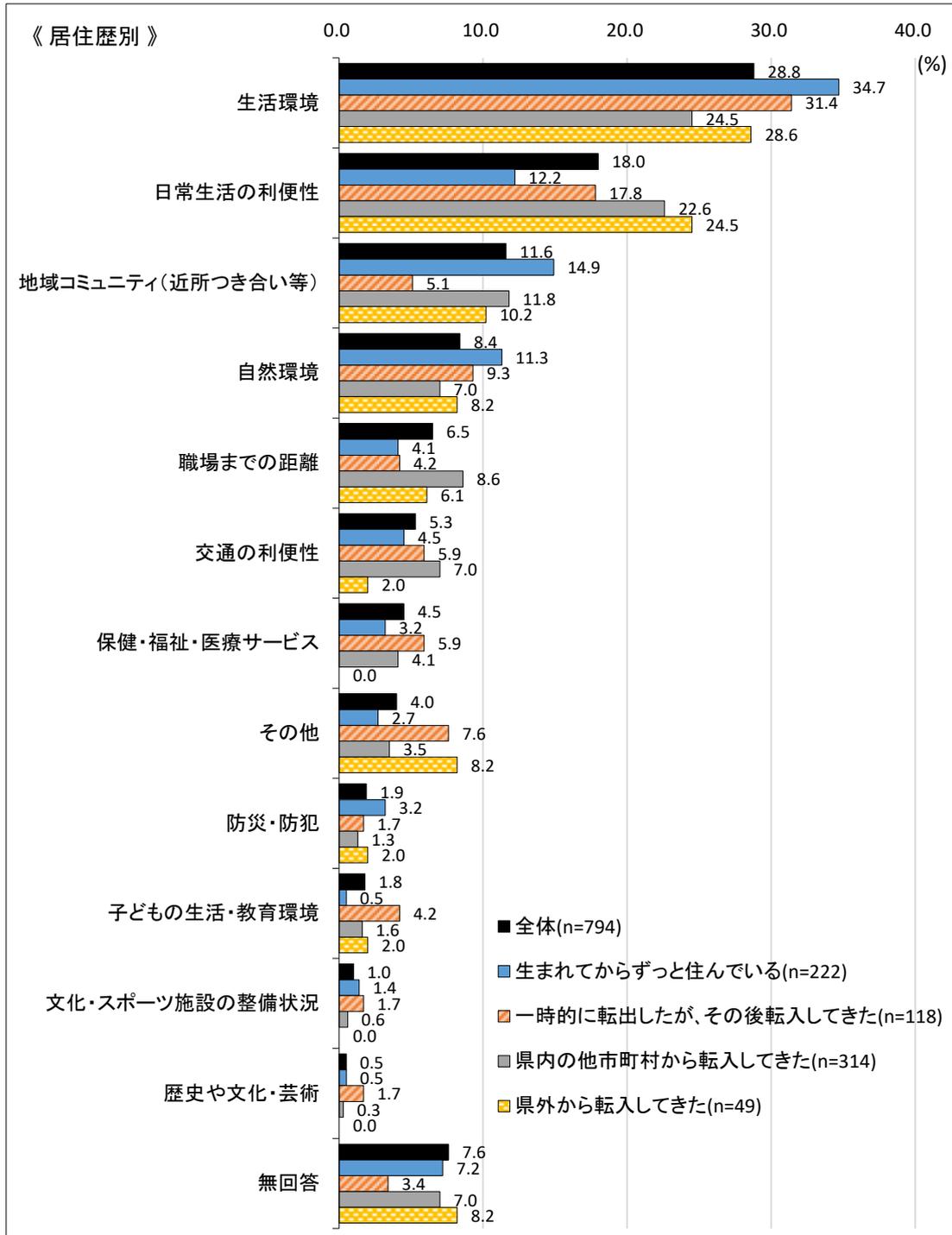












## (2) 今後の定住意向

問3 あなたは、これからも潟上市に住みたいと思いますか。あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

▶ “住みたい”が75.1%、一方、“住みたくない”が6.4%

全体としては、「住みたい」と答えた人が45.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば住みたい」が29.6%で続き、これらを合わせた75.1%の人が“住みたい”と答えている。一方、「どちらかといえば住みたくない」(4.4%)と「住みたくない」(2.0%)を合わせた“住みたくない”と答えた人は6.4%にとどまり、市民の定住意向は高いと言える。

これを属性別でみると、性別では、「住みたい」の割合は男性が44.5%、女性が46.6%と女性の方が幾分高いものの、“住みたい”の割合では男性が77.3%、女性が73.7%となり、男性の定住意向の方がやや高い傾向にある。

年齢でみると、「住みたい」の割合は70歳以上が53.3%と最も高く、次いで60歳代が49.0%で続いている。一方、40歳代で29.5%と最も低い割合となっている。また、“住みたい”の割合では70歳以上が80.1%と最も高く、その他の各年代も7割近くから7割台と総じて高い割合となっている。

職業でみると、「住みたい」の割合は農林水産業が72.7%で最も高く、公務員・教員が30.8%と最も低くなっている。また、“住みたい”の割合では農林水産業が95.4%と最も高く、学生が50.0%と最も低くなっている。その他の各年代では7割近くから7割台と総じて高い割合となっている。

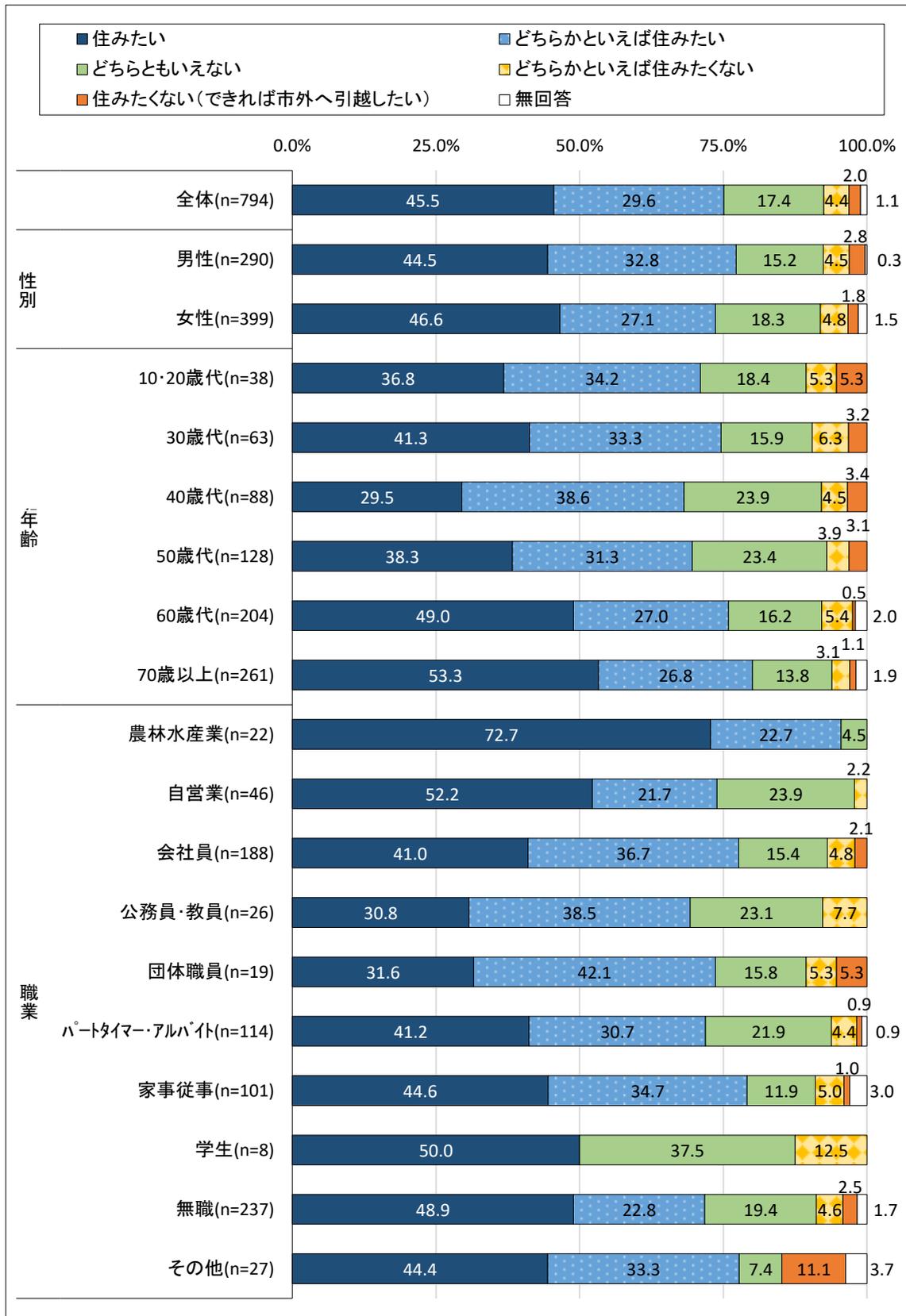
就学先・通勤先(県外を除く)でみると、「住みたい」の割合は就学・勤務していない(51.5%)が5割台と最も高く、県内のその他(33.3%)と秋田市内(35.8%)では3割台で低くなっている。また、“住みたい”の割合では就学・勤務していないが77.0%で最も高く、その他も6割台から7割台と総じて高い割合となっている。

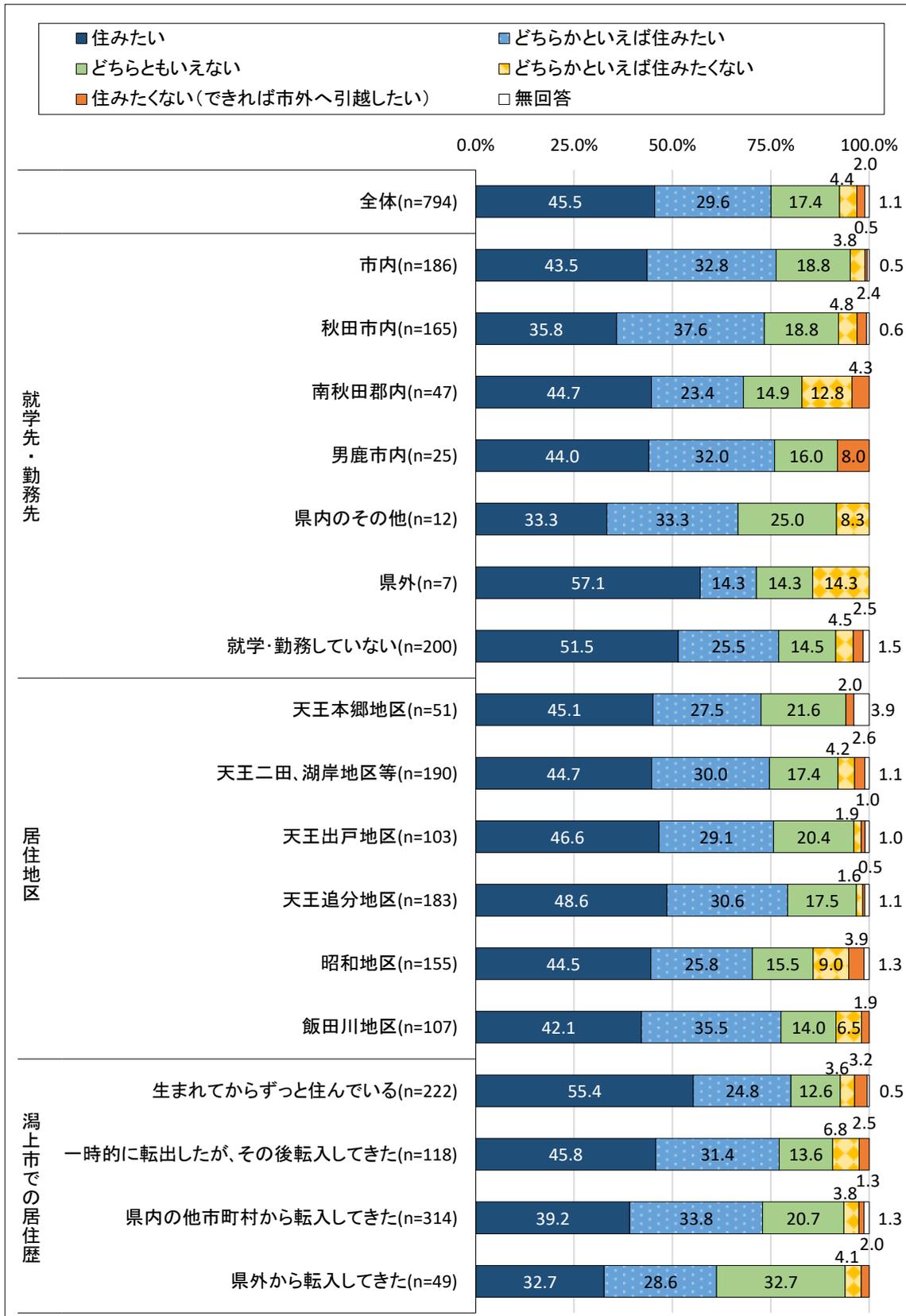
居住地区でみると、「住みたい」の割合は天王追分地区が48.0%と最も高く、その他の各地区でもいずれも4割台とほぼ同様の割合を示している。また、“住みたい”の割合では天王追分地区が79.2%と8割近くを占めたほか、他の各地域でも7割台といずれも高い割合となっている。

潟上市での居住歴でみると、「住みたい」の割合は生まれてからずっと住んでいる(55.4%)が5割台で最も高く、県外から転入してきた(32.7%)が3割台で最も低くなっている。また、“住みたい”の割合では生まれてからずっと住んでいる(80.2%)が8割強で最も高く、県外から転入してきた(61.3%)が6割強で最も低くなっている。[図表3参照]

図表 3 今後の定住意向

(全体／性別、年齢、職業、就学先・勤務先、居住地区、潟上市での居住歴)





問3 また、その理由（原因）を下記の選択肢のなかから1つだけ選んで番号をご記入下さい。



➤ 生活環境（30.6%）が最多で、次いで日常生活の利便性（19.8%）が続く。

全体としては、「生活環境」と答えた人が30.6%で最も多く、次いで「日常生活の利便性」（19.8%）が2割近くで続いた。以下は、「地域コミュニティ（近所つき合い等）」（7.9%）、「自然環境」（7.8%）、「交通の利便性」（5.9%）、「職場までの距離」（4.4%）の順となるなど、総じてみれば居住環境や利便性重視の姿勢が色濃くうかがえた。

これを属性別でみると、性別では、男女とも「生活環境」（男性29.7%、女性29.3%）が最も高く、次いで「日常生活の利便性」（男性20.3%、女性21.1%）が続き、上位2項目は男女ともほぼ同様の割合となった。以下については男性が「地域コミュニティ（近所つき合い等）」（11.4%）、「自然環境」（7.9%）、「職場までの距離」（5.2%）の順で、女性では「自然環境」、「交通の利便性」（各7.8%）、「子どもの生活・教育環境」（6.0%）の順となるなど、男女間で順位や割合に違いが見られた。

年齢でみると、30歳代で「子どもの生活・教育環境」（30.2%）が最も高かったほかは、40歳代の43.2%をはじめとして、各年代とも「生活環境」の割合が最も高くなっている。また、「日常生活の利便性」の割合は各年代で1割台から2割台と高めの割合を示している。

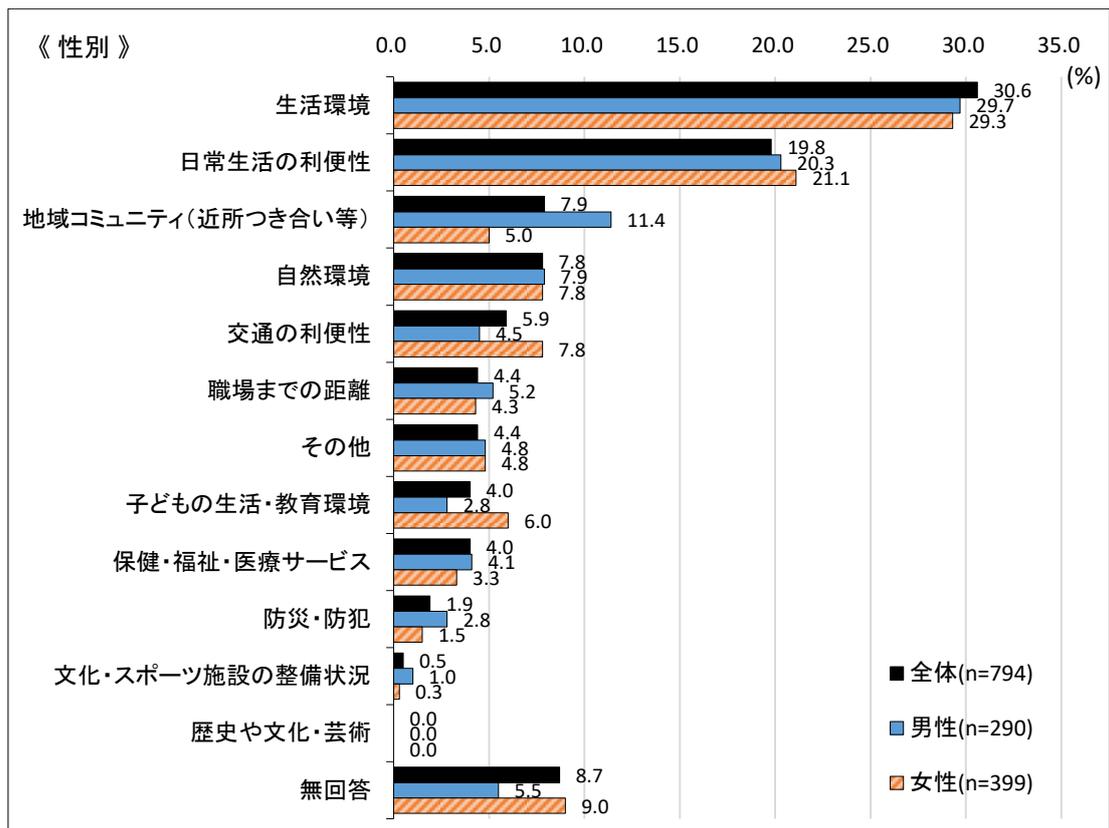
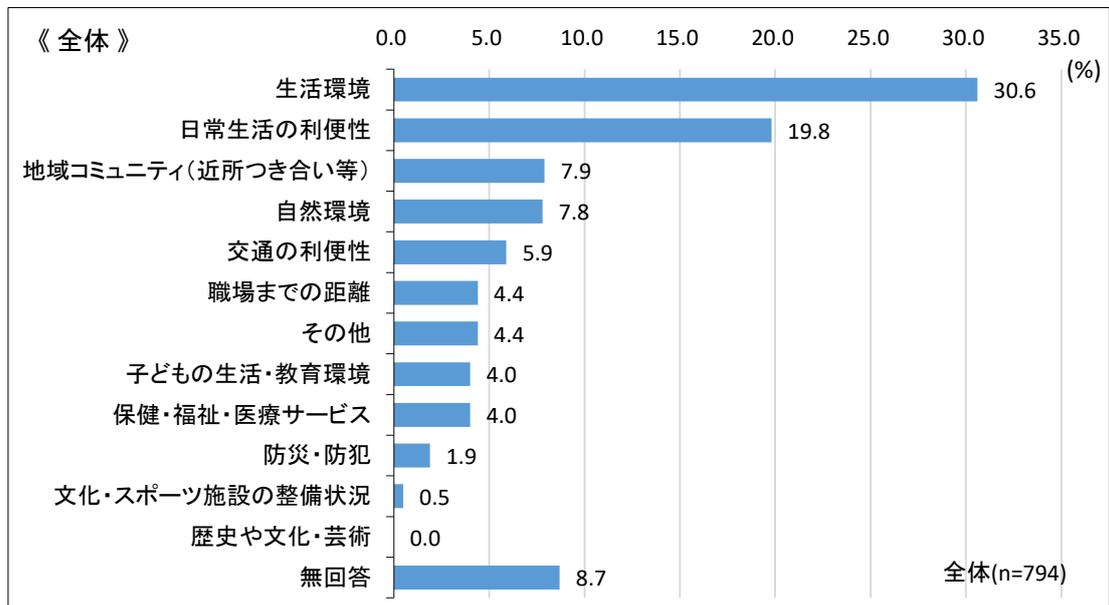
職業（その他を除く）でみると、団体職員で「日常生活の利便性」（36.8%）が最も高かったほかは、農林水産業の40.9%をはじめとして、各職業とも「生活環境」の割合が最も高くなっている。また、「日常生活の利便性」も総じて各年代で高めの割合を示している。

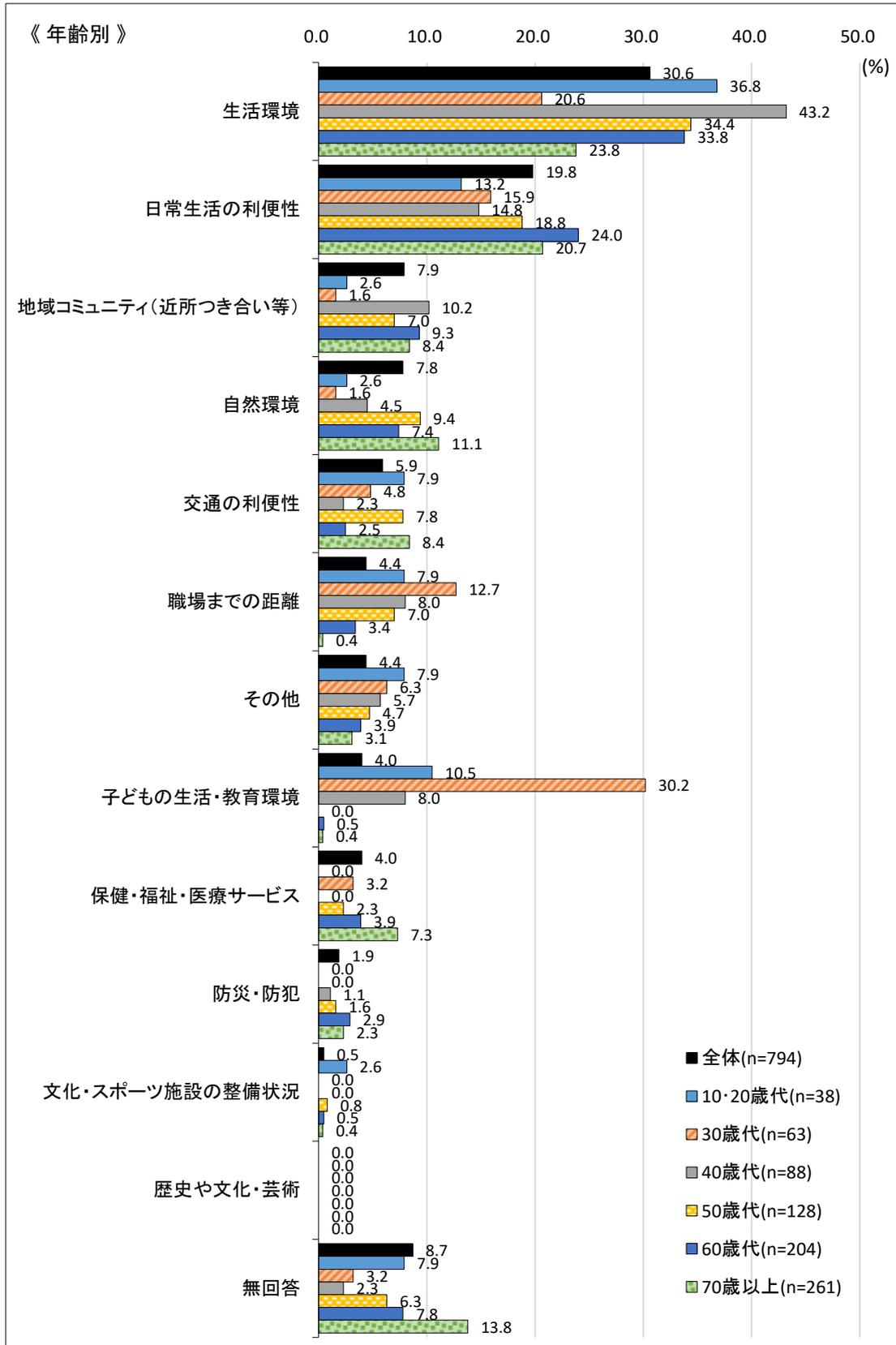
就学先・通勤先（県外を除く）でみると、県内のその他（41.7%）と南秋田郡内（27.7%）で「日常生活の利便性」が最も高かったほかは、いずれも「生活環境」の割合が最も高くなっている（南秋田郡内は同率トップ）。

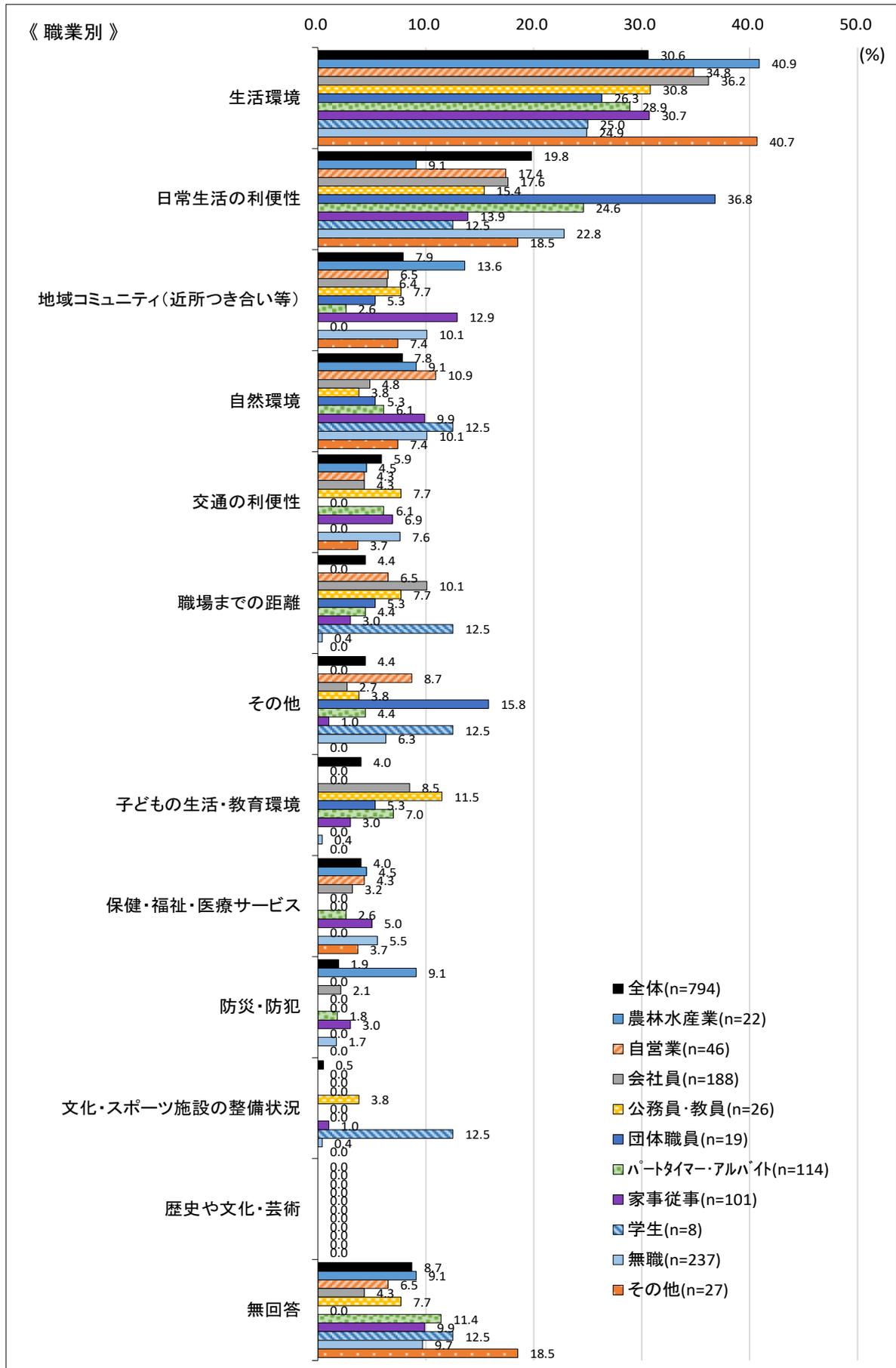
居住地区でみると、天王本郷地区の39.2%をはじめとして、いずれの地区でも「生活環境」の割合が最も高く、次いで「日常生活の利便性」が続いている（天王追分地区は同率でトップ）。

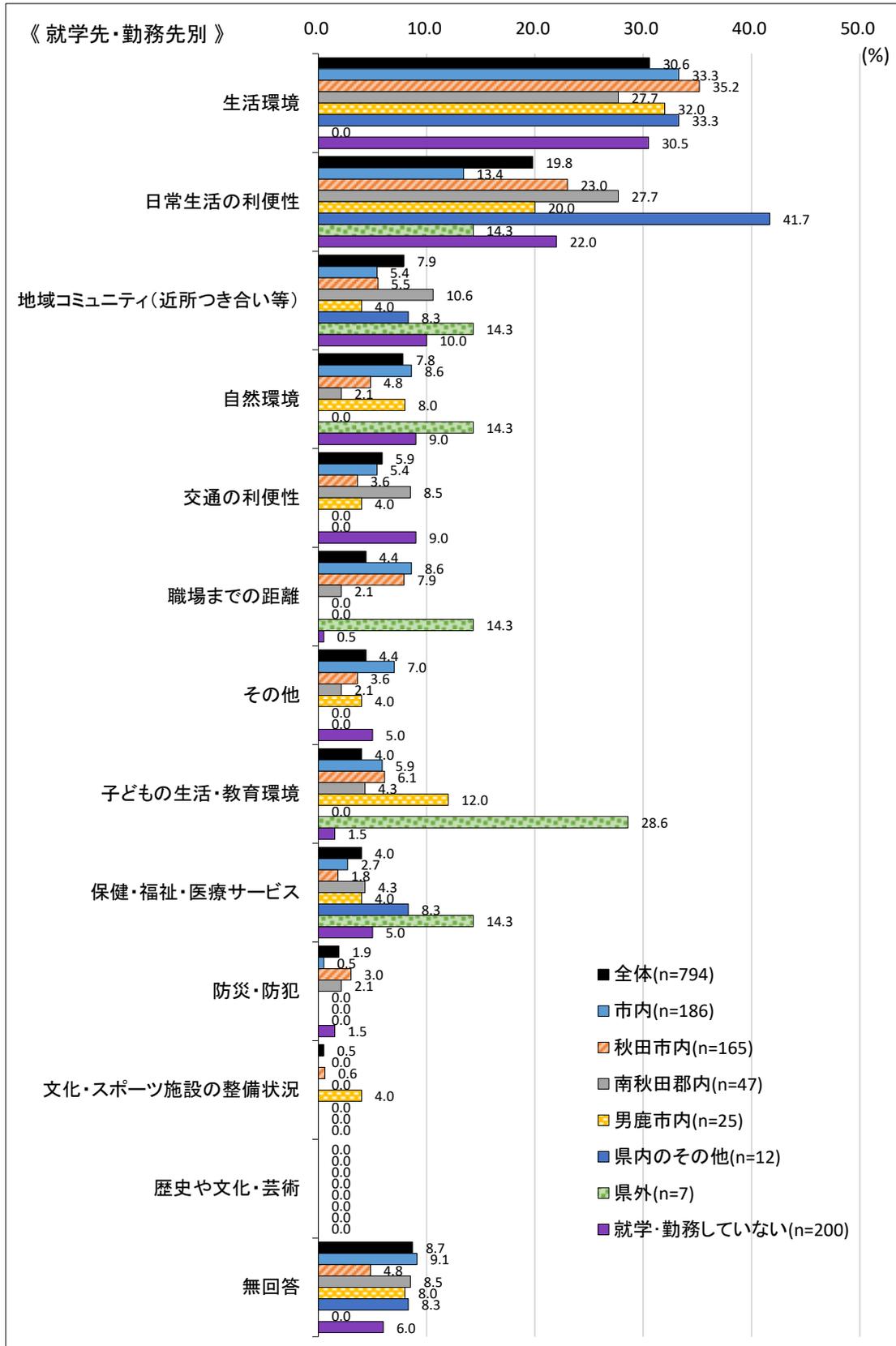
潟上市での居住歴でみると、一時的に転出したが、その後転入してきた生まれてからずっと住んでいる（34.7%）をはじめとして、いずれも「生活環境」の割合が最も高く、これに「日常生活の利便性」が続いている。この両項目をみると、「生活環境」は地元出身者の方の割合が幾分高い一方、「日常生活の利便性」は他地域からの転入者の方が高めの割合となっている。[図表4参照]

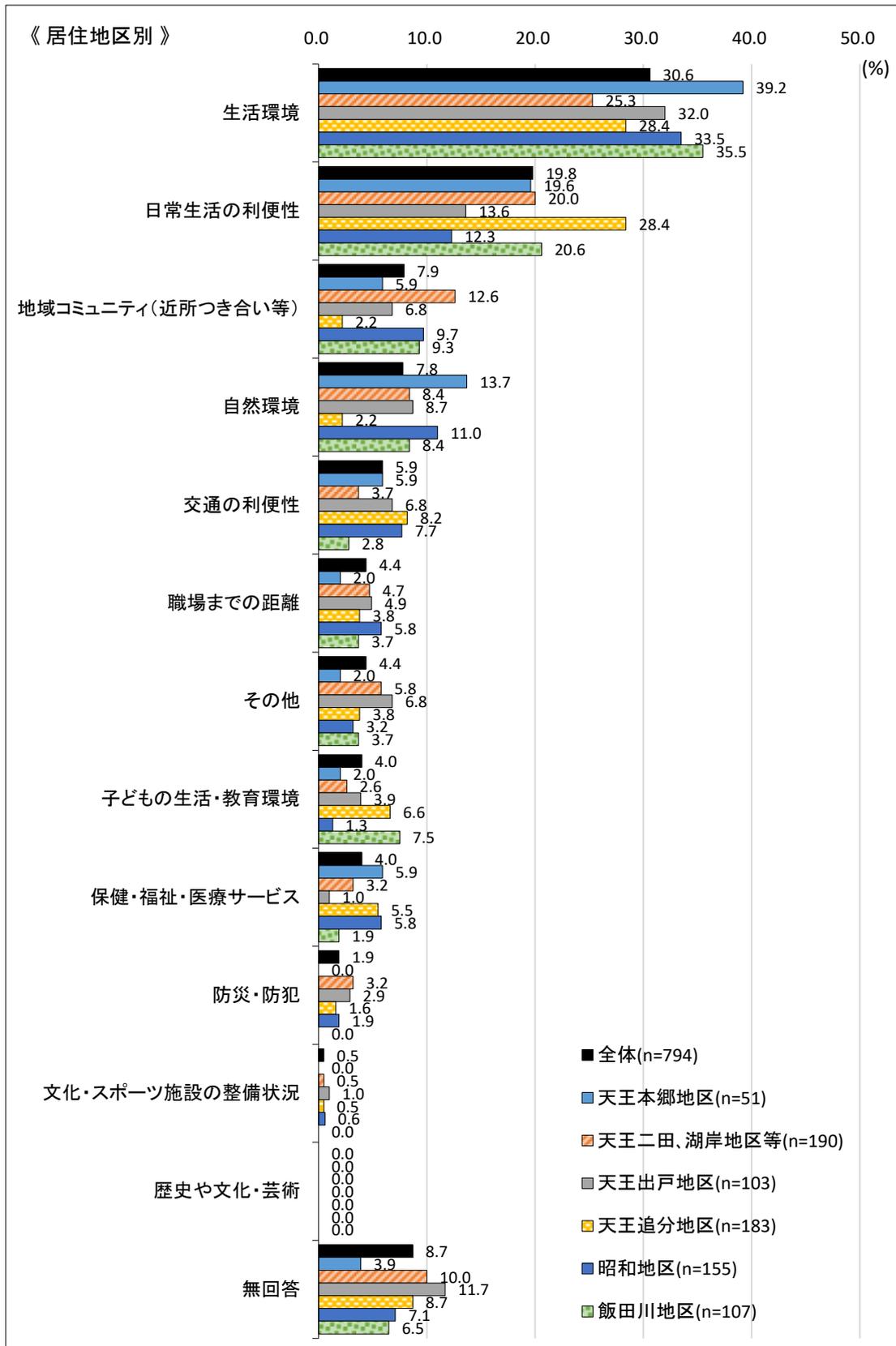
図表 4 「今後の定住意向」を選択した理由（原因）  
 （全体／性別、年齢、職業、就学先・勤務先、居住地区、潟上市での居住歴）

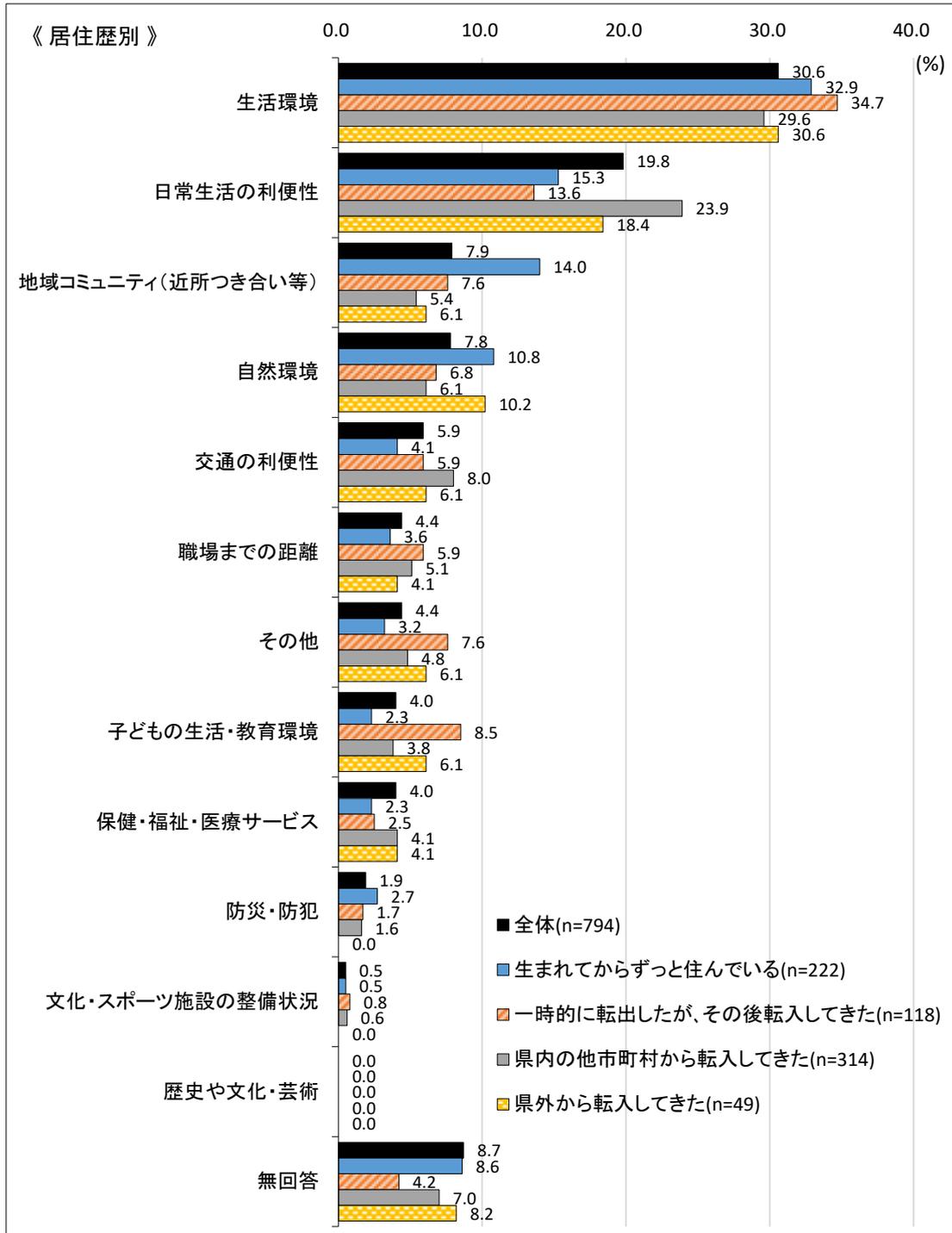












## 2 現状と今後の取り組みについて

### (1) 潟上市の各環境についての現状の満足度

問4 潟上市の現在の状況と今後のまちづくりにおける重要度についておたずねします。

(1) 満足度 潟上市の今の状況についてどう思いますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。



- ▶ 満足度が最も高い項目は「1-①自然環境の豊かさ」で、次いで「1-⑩下水道の整備」が続き、以下は「1-⑨上水道の整備」、「1-②景観の美しさ」などの順。
- ▶ 満足度が最も低い項目は「3-④就業の場や機会」、次いで「1-⑥公共交通機関の便利さ」が続き、「3-③観光産業の振興」、「3-②商工業の振興」などの順。

潟上市の各環境について、現在どの程度満足しているかを把握するため、1生活環境 2安全 3産業・観光 4保健・医療・福祉 5教育・文化 6住民参画・行財政の6分野39項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらった。その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出した。

この結果（全体）をみると、満足度評価が最も高い項目は「1-①自然環境の豊かさ」（4.67点）となっており、次いで「1-⑩下水道の整備」（4.46点）が続き、以下は「1-⑨上水道の整備」（4.18点）、「1-②景観の美しさ」（2.76点）、「5-①義務教育の充実度」（2.42点）などの順となっている。

一方、満足度評価の最も低い項目は「3-④就業の場や機会」（-2.44点）となっており、次いで「1-⑥公共交通機関の便利さ」（-1.25点）が続き、以下は「3-③観光産業の振興」（-1.09点）、「3-②商工業の振興」（-0.48点）、「6-④国際交流活動の充実度」（-0.23点）などの順となっている。

39項目全体をみると、満足度がプラス評価の項目が34項目、マイナス評価の項目が5項目となっている。〔図表5、12参照〕

※居住地区別の満足度については〔図表6～11、13～18参照〕

○満足度（加重平均値）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、満足度の評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、} \\ \text{「どちらかといえば満足} \\ \text{している」、「どちらとも} \\ \text{いえない」、「どちらかと} \\ \text{いえば不満である」、「不} \\ \text{満である」} \\ \text{の回答者数合計} \end{array}}$$

この算出方法による満足度の評価点は 10 点～-10 点の間に分布し、中間点の 0 点を境に、10 点に近くなるほど評価は高く、-10 点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表 5 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（全体）

	項目	評価点
上位5位	1-①自然環境の豊かさ	4.67
	1-⑩下水道の整備	4.46
	1-⑨上水道の整備	4.18
	1-②景観の美しさ	2.76
	5-②義務教育の充実度	2.42
下位5位	3-④就業の場や機会	-2.44
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-1.25
	3-③観光産業の振興	-1.09
	3-②商工業の振興	-0.48
	6-④国際交流活動の充実度	-0.23

図表 6 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王本郷地区）

	項目	評価点
上位5位	1-①自然環境の豊かさ	5.40
	1-⑩下水道の整備	3.59
	1-②景観の美しさ	2.71
	4-①高齢者福祉対策	2.45
	1-⑤道路網の充実度	2.19
下位5位	3-④就業の場や機会	-3.48
	1-⑦買物の便利さ	-1.67
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-1.25
	3-②商工業の振興	-0.89
	3-③観光産業の振興	-0.43

図表 7 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王二田、湖岸地区等）

	項目	評価点
上位5位	1-⑩下水道の整備	4.60
	1-①自然環境の豊かさ	4.49
	1-⑨上水道の整備	3.95
	5-②義務教育の充実度	2.63
	1-②景観の美しさ	2.39
下位5位	3-④就業の場や機会	-2.28
	3-③観光産業の振興	-1.49
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-1.12
	3-②商工業の振興	-0.35
	6-④国際交流活動の充実度	-0.12

図表 8 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王出戸地区）

	項目	評価点
上位5位	1-⑩下水道の整備	4.95
	1-⑨上水道の整備	4.90
	1-①自然環境の豊かさ	4.85
	1-②景観の美しさ	3.04
	5-②義務教育の充実度	2.47
下位5位	3-④就業の場や機会	-2.08
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-1.68
	3-③観光産業の振興	-0.74
	6-④国際交流活動の充実度	-0.53
	1-⑦買物の便利さ	-0.46

図表 9 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王追分地区）

	項目	評価点
上位5位	1-①自然環境の豊かさ	4.53
	1-⑩下水道の整備	4.27
	1-⑨上水道の整備	4.23
	1-⑦買物の便利さ	3.62
	5-②義務教育の充実度	2.53
下位5位	3-④就業の場や機会	-1.96
	3-③観光産業の振興	-0.57
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-0.35
	6-④国際交流活動の充実度	-0.03
	1-⑤道路網の充実度	0.06

図表 10 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（居住地区別 昭和地区）

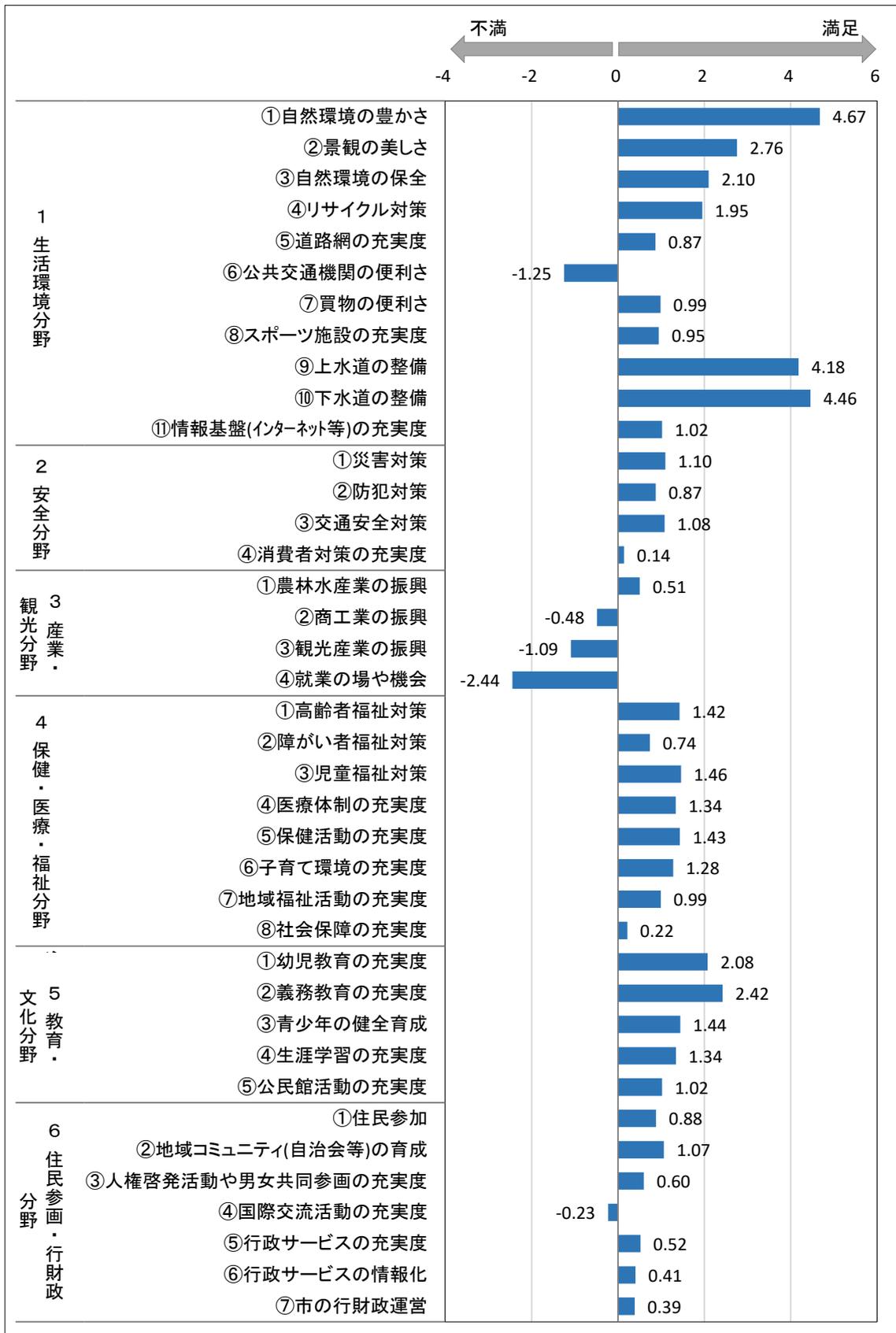
	項目	評価点
上位5位	1-①自然環境の豊かさ	4.57
	1-⑨上水道の整備	4.16
	1-⑩下水道の整備	4.00
	1-②景観の美しさ	3.07
	1-③自然環境の保全	2.12
下位5位	3-④就業の場や機会	-2.64
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-1.69
	3-③観光産業の振興	-1.40
	3-②商工業の振興	-1.07
	1-⑦買物の便利さ	-0.40

図表 11 市の各環境に関する満足度 上位・下位 5 項目（居住地区別 飯田川地区）

	項目	評価点
上位5位	1-①自然環境の豊かさ	5.20
	1-⑩下水道の整備	5.20
	1-⑨上水道の整備	4.95
	1-②景観の美しさ	3.75
	5-②義務教育の充実度	3.11
下位5位	3-④就業の場や機会	-3.00
	1-⑥公共交通機関の便利さ	-1.73
	3-③観光産業の振興	-1.45
	3-②商工業の振興	-0.91
	6-④国際交流活動の充実度	-0.52

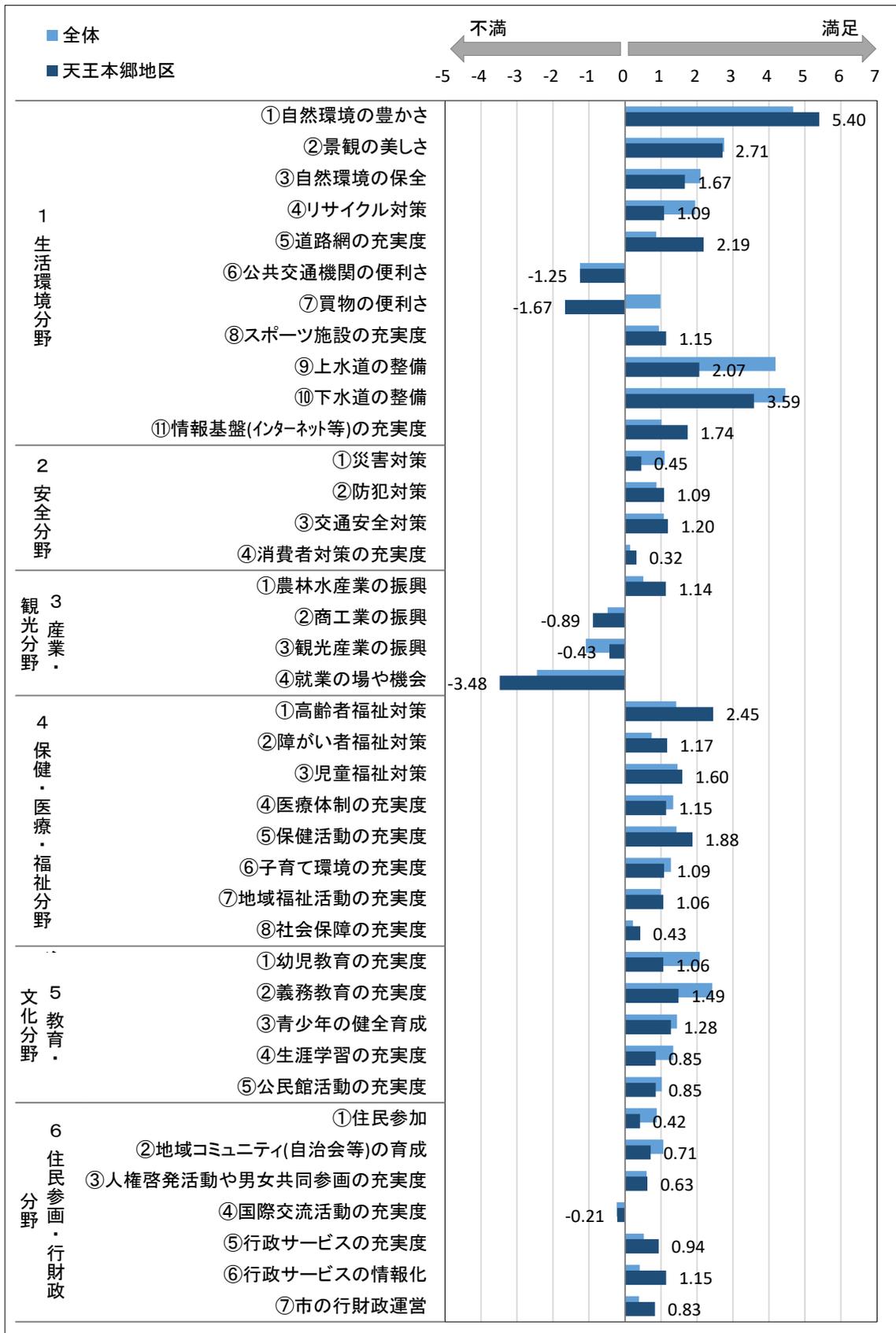
図表 12 市の各環境に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



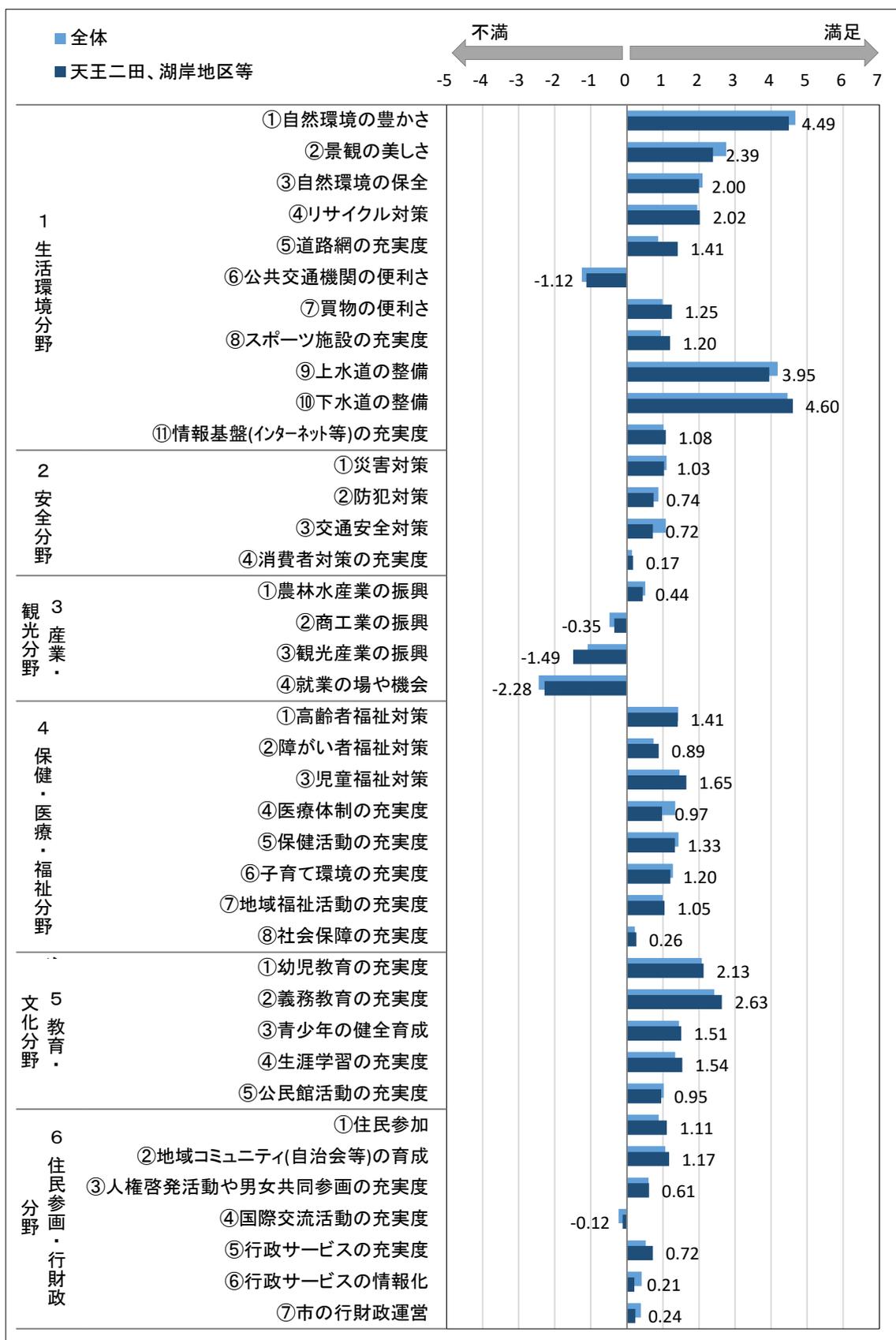
図表 13 市の各環境に関する満足度（居住地区別 天王本郷地区）

（単位：評価点）



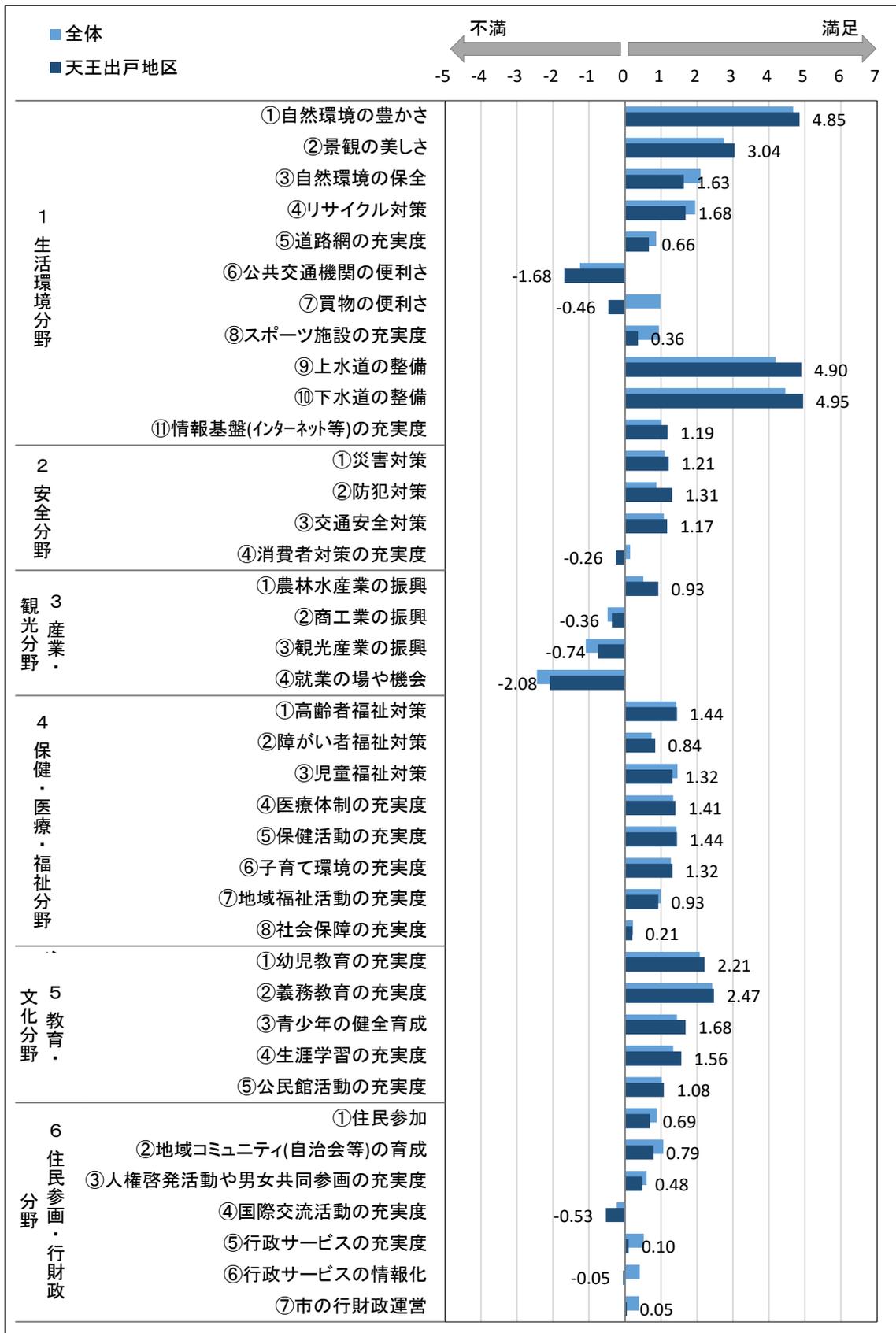
図表 14 市の各環境に関する満足度（居住地区別 天王二田、湖岸地区等）

（単位：評価点）



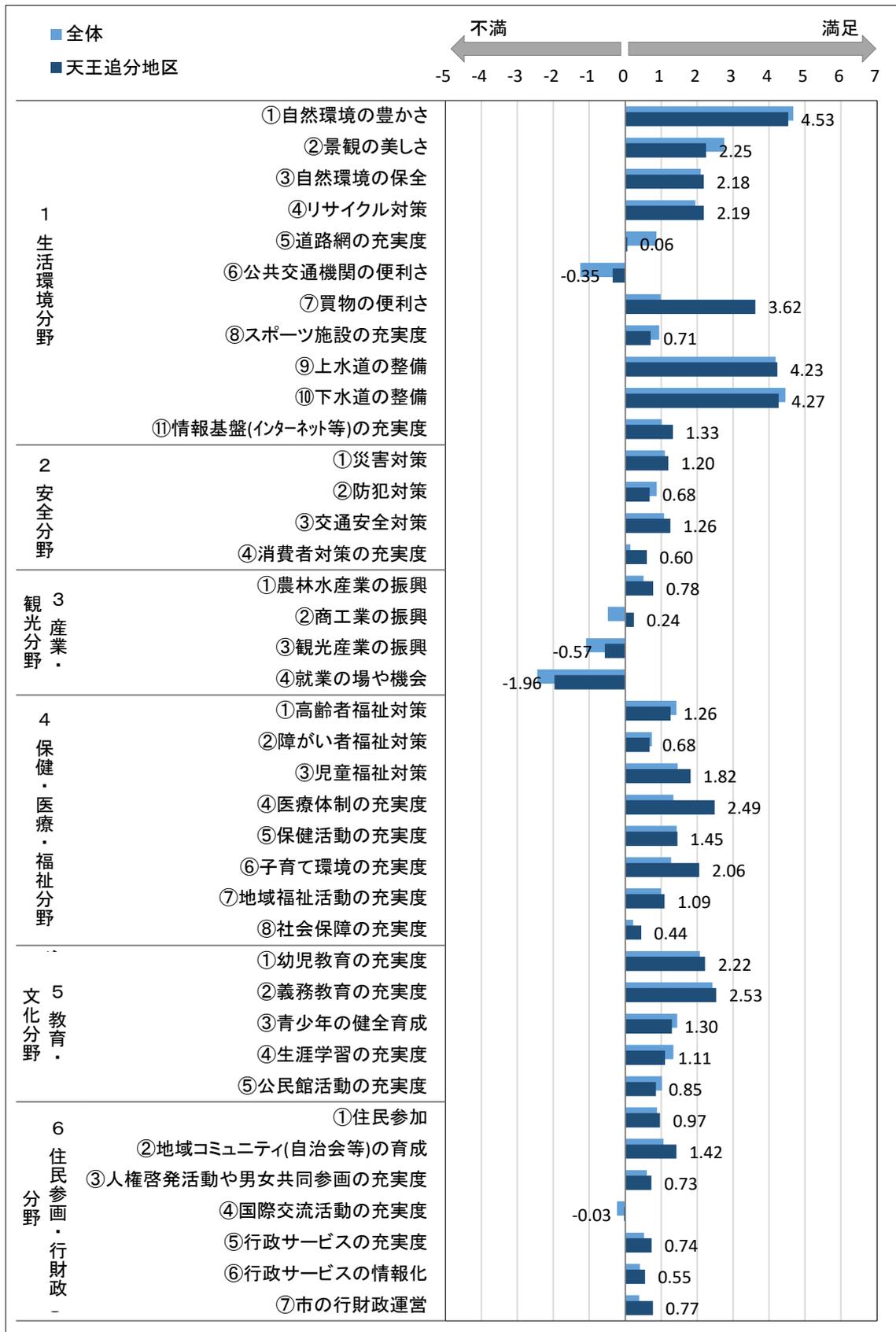
図表 15 市の各環境に関する満足度（居住地区別 天王出戸地区）

（単位：評価点）



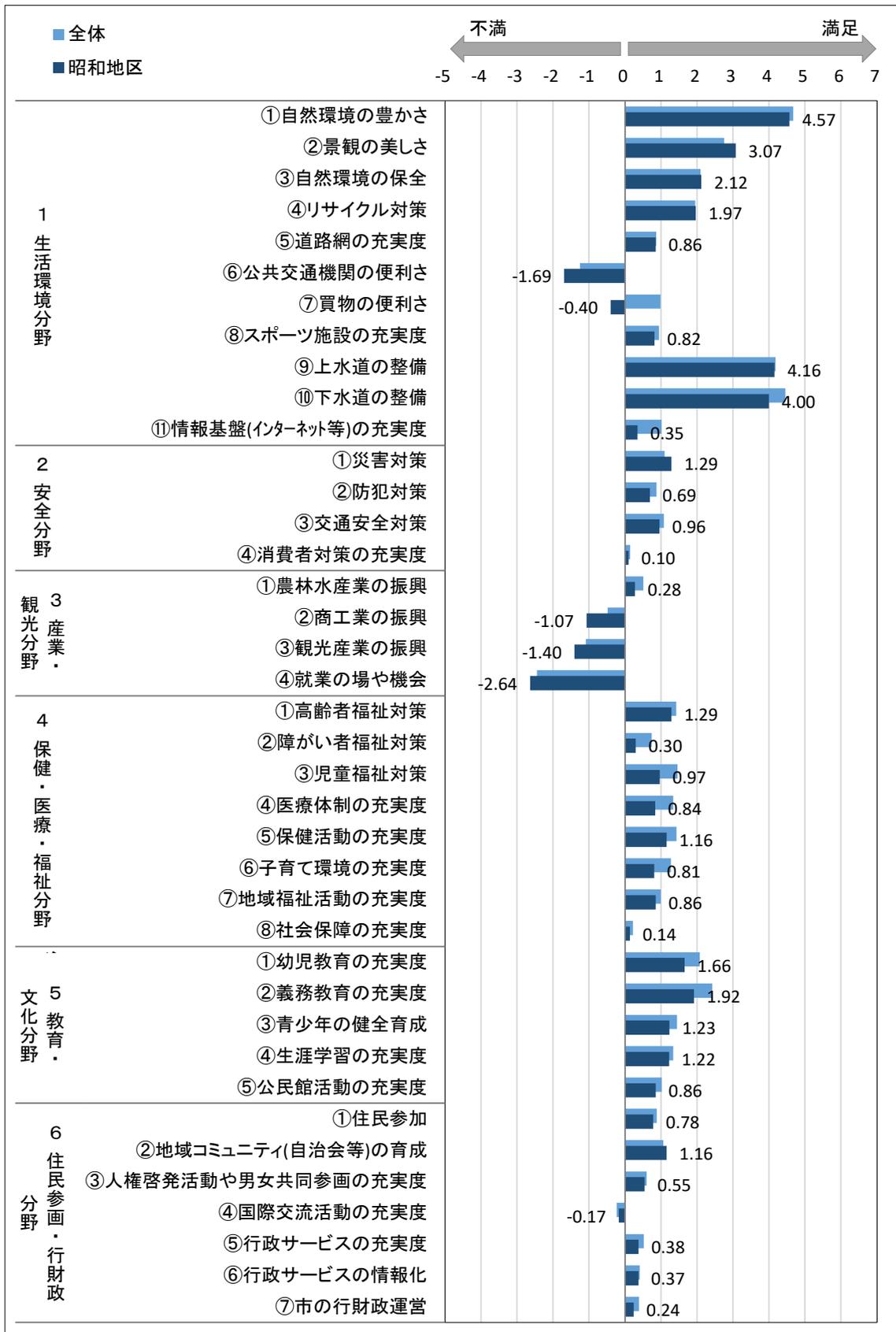
図表 16 市の各環境に関する満足度（居住地区別 天王追分地区）

（単位：評価点）



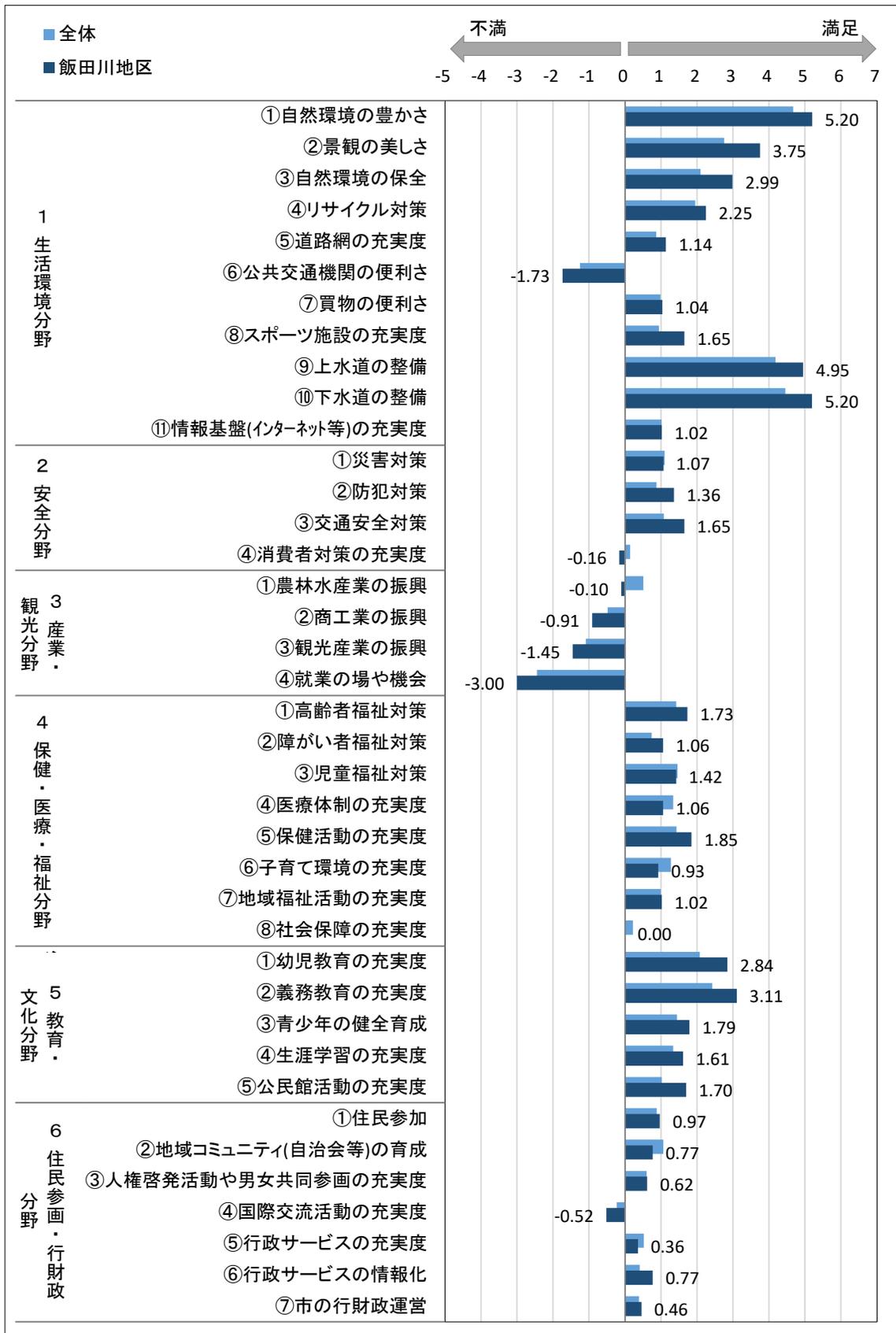
図表 17 市の各環境に関する満足度（居住地区別 昭和地区）

（単位：評価点）



図表 18 市の各環境に関する満足度（居住地区別 飯田川地区）

（単位：評価点）



## (2) 潟上市の各環境についての今後の重要度

問4 潟上市の現在の状況と今後のまちづくりにおける重要度についておたずねします。

(2) 重要度 今後のまちづくりにおける重要度についてどう思いますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。



- 重要度が最も高い項目は「2-①災害対策」、次いで、「4-③医療体制の充実度」が続き、以下は「2-②防犯対策」、「3-④就業の場や機会」などの順。
- 重要度が最も低い項目は「6-④国際交流活動の充実度」、次いで「6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度」が続き、以下は「1-⑧スポーツ施設の充実度」、「6-①住民参加」などの順。

潟上市の各環境について、今後どの程度重要と考えているかを把握するため、満足度と同様の6分野39項目について、「重要である」、「やや重要である」、「どちらともいえない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出した。

この結果（全体）をみると、重要度評価が最も高い項目は、「2-①災害対策」（7.42点）となっており、次いで、「4-③医療体制の充実度」（7.13点）が続き、以下は「2-②防犯対策」（7.04点）、「3-④就業の場や機会」（6.83点）、「1-⑦買い物の便利さ」（6.71点）などの順となっている。

一方、重要度評価が最も低い項目は、「6-④国際交流活動の充実度」（2.57点）となっており、次いで「6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度」（2.82点）が続き、以下は「1-⑧スポーツ施設の充実度」（3.26点）、「6-①住民参加」（3.66点）、「6-②地域コミュニティ（自治会等）の育成」（3.72点）などの順となっている。〔図表19、26参照〕

※居住地区別の重要度については〔図表20～25、27～32参照〕

○重要度（加重平均値）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、重要度の評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重要である」の回答者数} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや重要である」の回答者数} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「重要でない」の回答者数} \times -10 \text{点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重要である」、} \\ \text{「やや重要である」、} \\ \text{「どちらともいえない」、} \\ \text{「あまり重要でない」、} \\ \text{「重要でない」} \\ \text{の回答者数合計} \end{array}}$$

この算出方法による重要度の評価点は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高く、-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表 19 市の各環境に関する重要度 上位・下位5項目（全体）

	項目	評価点
上位5位	2-①災害対策	7.42
	4-④医療体制の充実度	7.13
	2-②防犯対策	7.04
	3-④就業の場や機会	6.83
	1-⑦買物の便利さ	6.71
下位5位	6-④国際交流活動の充実度	2.57
	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	2.82
	1-⑧スポーツ施設の充実度	3.26
	6-①住民参加	3.66
	6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	3.72

図表 20 市の各環境に関する重要度 上位・下位5項目（居住地区別 天王本郷地区）

	項目	評価点
上位5位	2-①災害対策	7.98
	1-⑩下水道の整備	7.93
	1-⑨上水道の整備	7.62
	4-③児童福祉対策	7.50
	1-⑦買物の便利さ	7.44
	2-②防犯対策	7.44
下位5位	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	2.95
	6-④国際交流活動の充実度	2.95
	5-⑤公民館活動の充実度	3.49
	1-⑧スポーツ施設の充実度	3.57
	6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	3.67

図表 21 市の各環境に関する重要度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王二田、湖岸地区等）

	項目	評価点
上位5位	2-①災害対策	7.36
	4-④医療体制の充実度	7.09
	2-②防犯対策	6.79
	3-④就業の場や機会	6.53
	4-①高齢者福祉対策	6.47
下位5位	6-④国際交流活動の充実度	2.31
	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	2.45
	1-⑧スポーツ施設の充実度	3.45
	6-①住民参加	3.62
	1-⑪情報基盤(インターネット等)の充実度	3.66

図表 22 市の各環境に関する重要度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王出戸地区）

	項目	評価点
上位5位	4-④医療体制の充実度	7.55
	3-④就業の場や機会	7.42
	2-①災害対策	7.25
	4-③児童福祉対策	7.23
	4-⑥子育て環境の充実度	7.15
下位5位	6-④国際交流活動の充実度	3.28
	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	3.48
	1-⑧スポーツ施設の充実度	3.93
	6-①住民参加	4.02
	6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	4.24

図表 23 市の各環境に関する重要度 上位・下位 5 項目（居住地区別 天王追分地区）

	項目	評価点
上位5位	2-①災害対策	7.52
	2-②防犯対策	7.28
	2-③交通安全対策	7.10
	4-④医療体制の充実度	7.01
	1-⑤道路網の充実度	6.76
下位5位	6-④国際交流活動の充実度	2.55
	1-⑧スポーツ施設の充実度	2.85
	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	2.88
	5-⑤公民館活動の充実度	3.60
	6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	3.63

図表 24 市の各環境に関する重要度 上位・下位 5 項目（居住地区別 昭和地区）

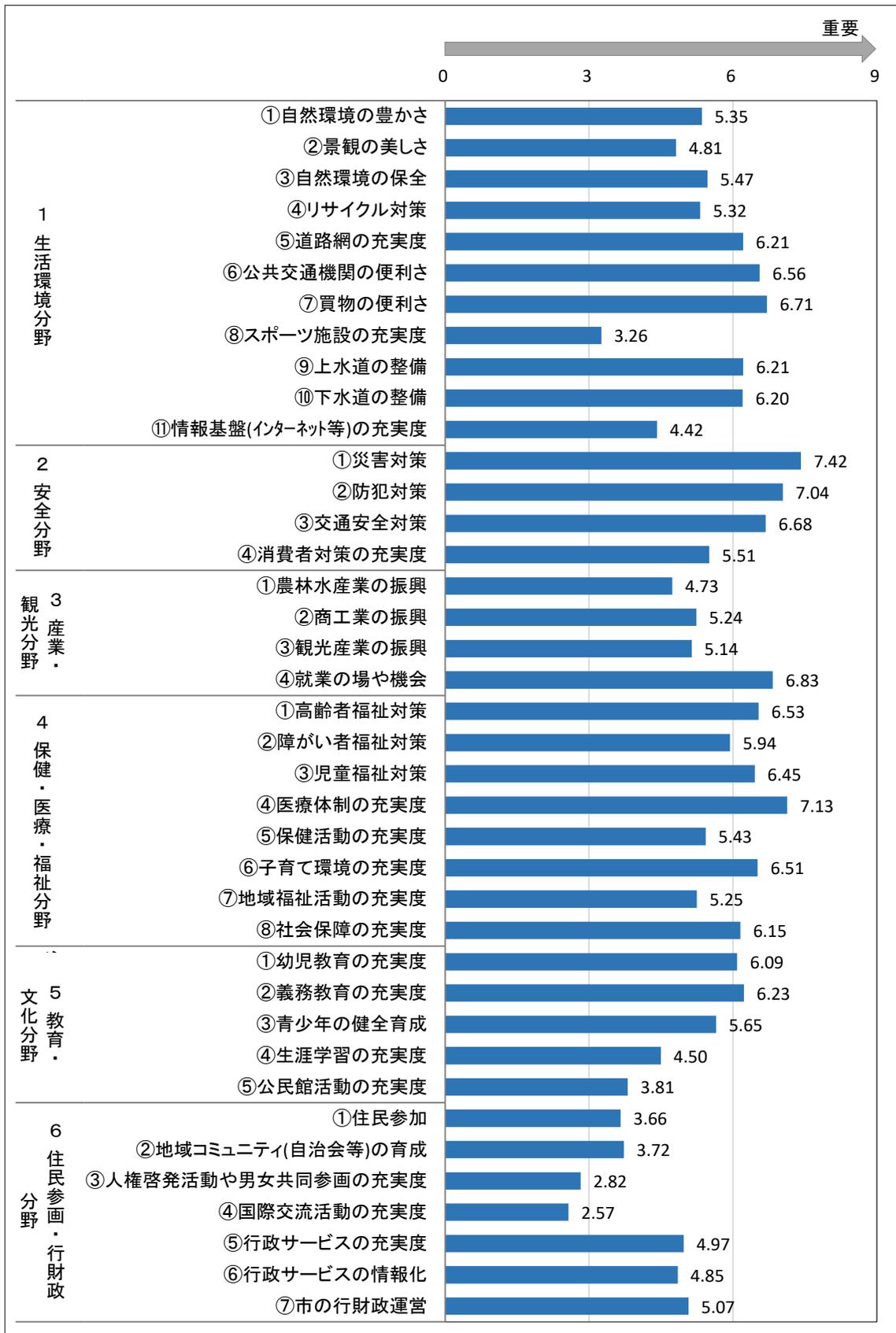
	項目	評価点
上位5位	2-①災害対策	7.13
	2-②防犯対策	7.01
	1-⑦買物の便利さ	6.91
	2-③交通安全対策	6.76
	1-⑥公共交通機関の便利さ	6.69
下位5位	6-④国際交流活動の充実度	2.07
	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	2.18
	1-⑧スポーツ施設の充実度	2.61
	6-①住民参加	2.87
	6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	3.11

図表 25 市の各環境に関する重要度 上位・下位 5 項目（居住地区別 飯田川地区）

	項目	評価点
上位5位	2-①災害対策	7.93
	4-④医療体制の充実度	7.61
	3-④就業の場や機会	7.58
	2-②防犯対策	7.25
	1-⑦買物の便利さ	7.20
下位5位	6-④国際交流活動の充実度	2.93
	6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	3.66
	1-⑧スポーツ施設の充実度	3.92
	6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	4.30
	6-①住民参加	4.30

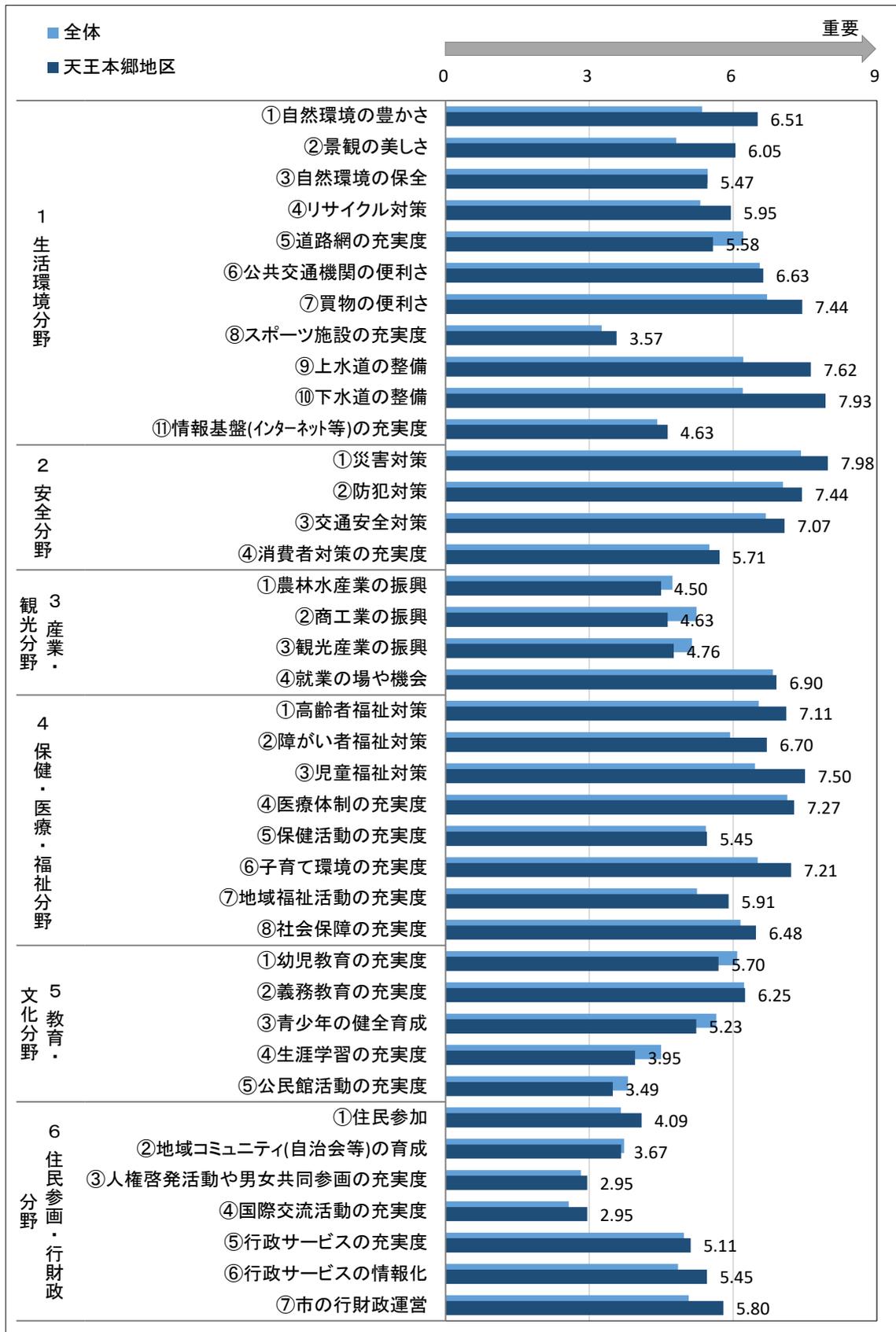
図表 26 市の各環境に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



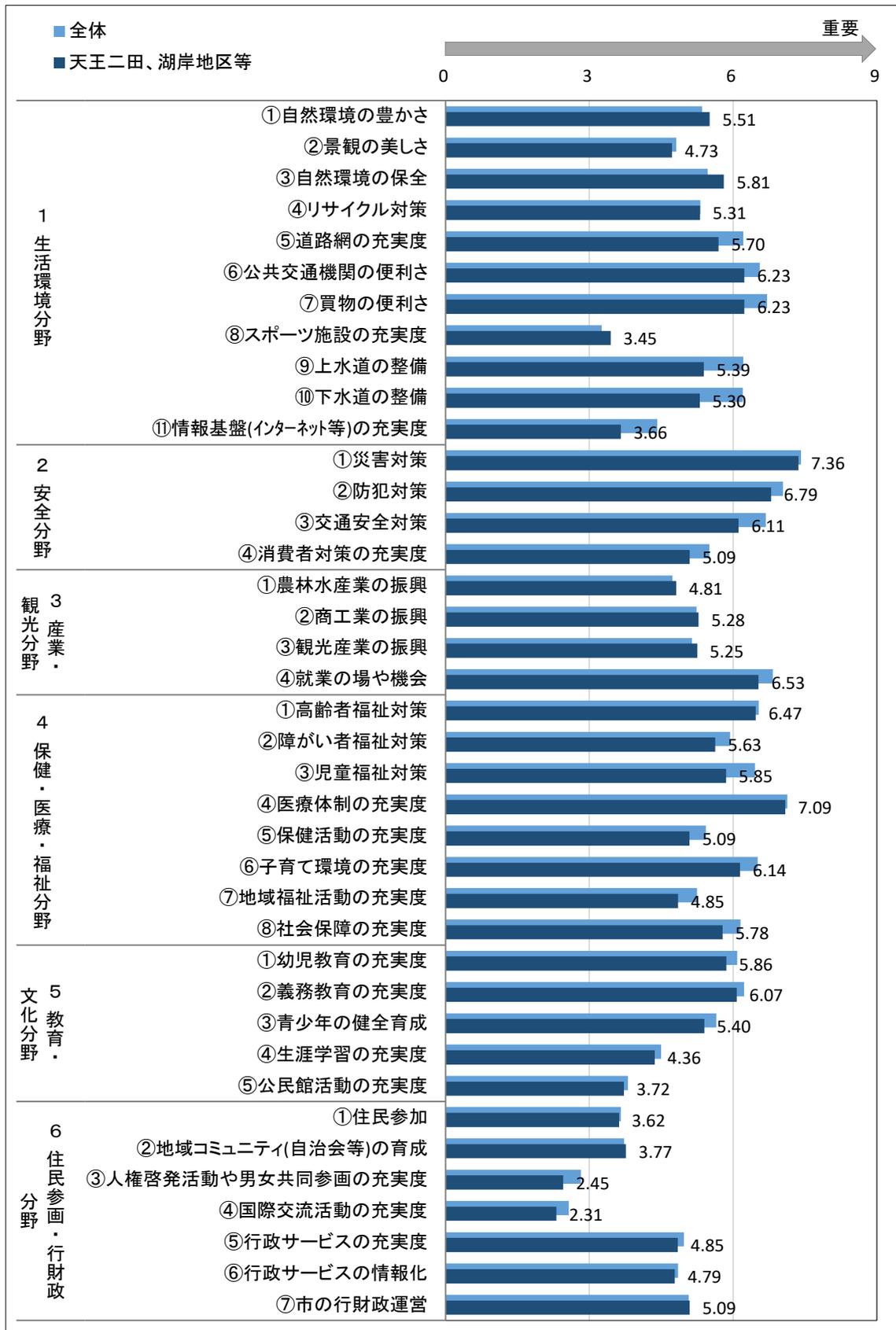
図表 27 市の各環境に関する重要度（居住地区別 天王本郷地区）

（単位：評価点）



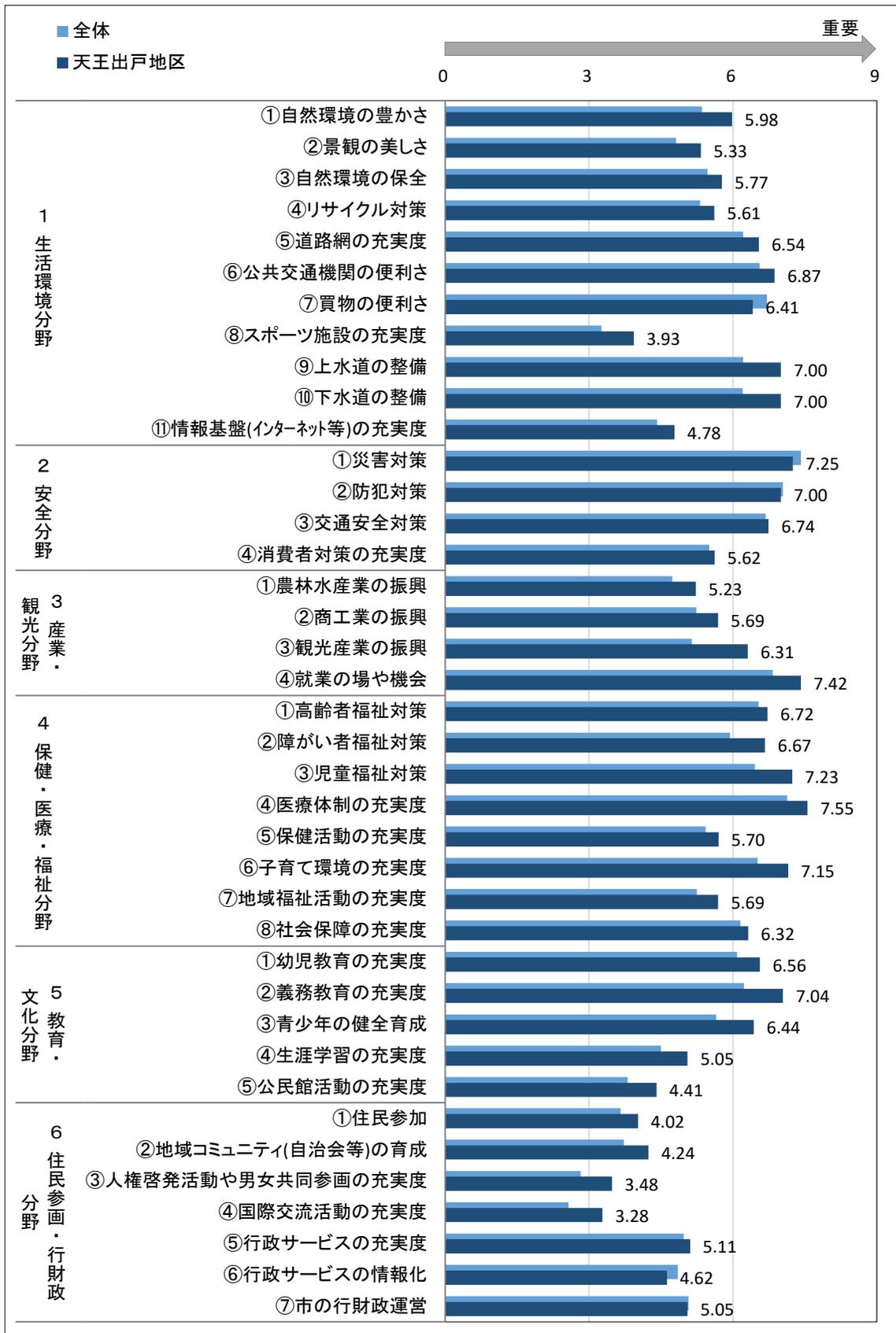
図表 28 市の各環境に関する重要度（居住地区別 天王二田、湖岸地区等）

（単位：評価点）



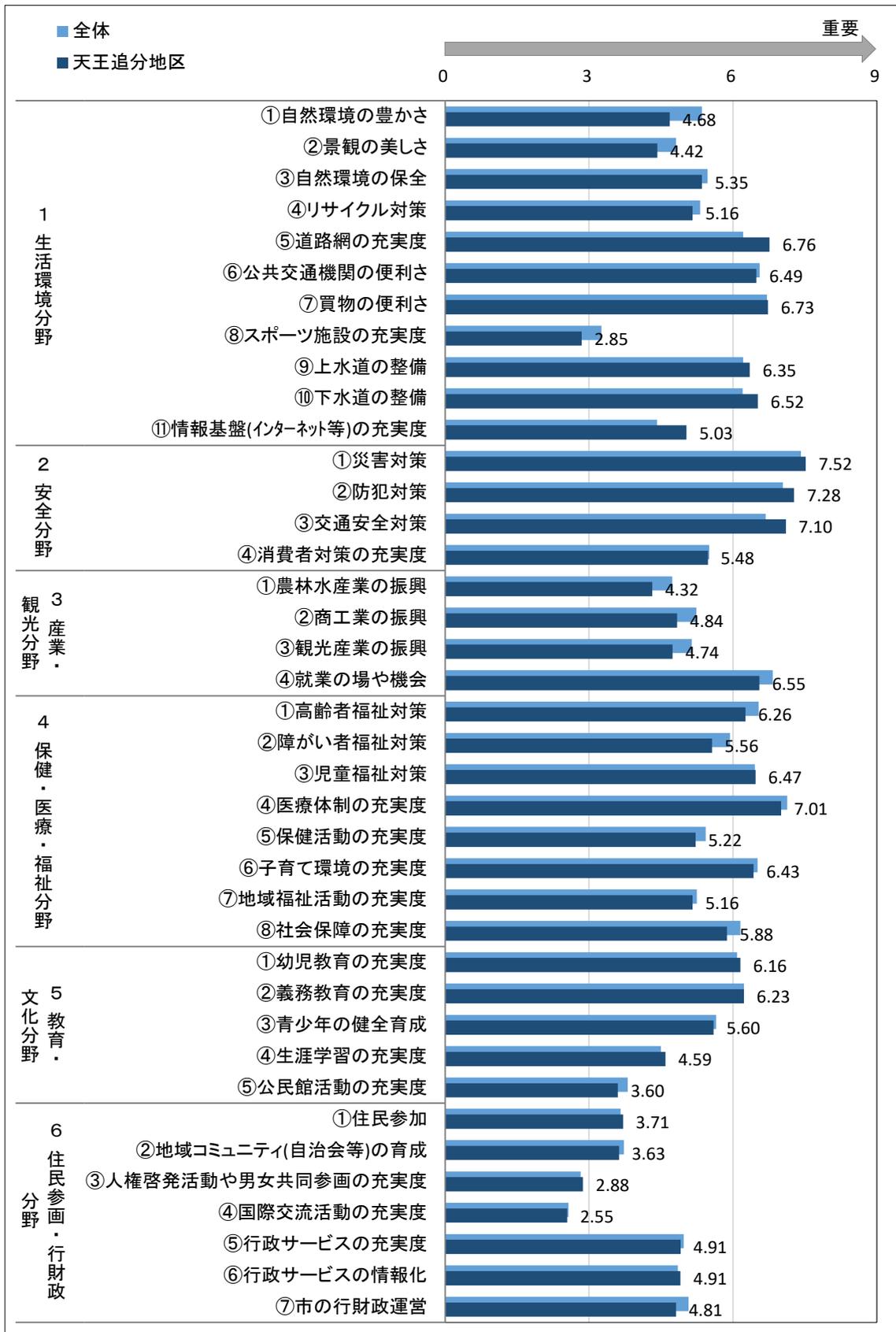
図表 29 市の各環境に関する重要度（居住地区別 天王出戸地区）

（単位：評価点）



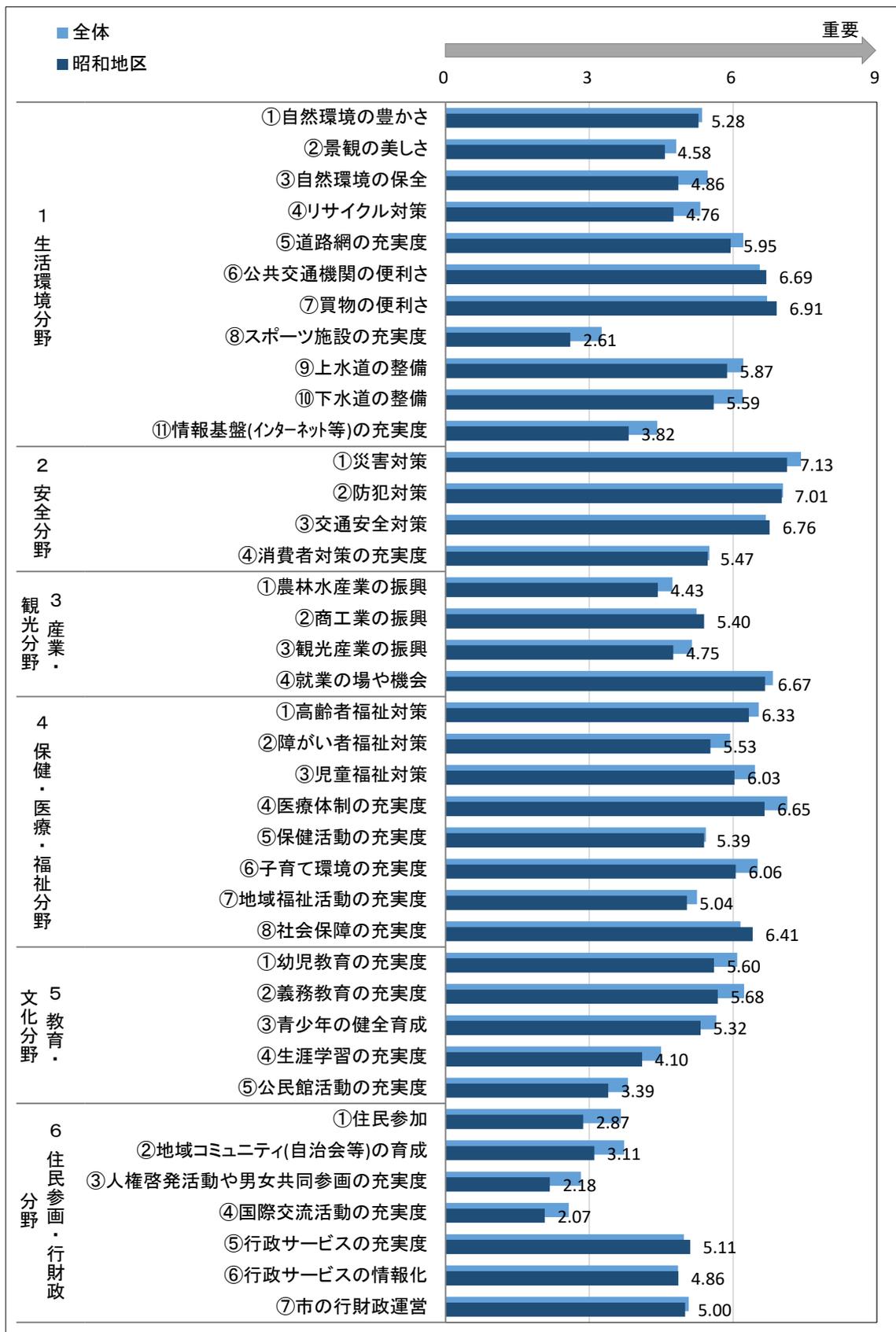
図表 30 市の各環境に関する重要度（居住地区別 天王追分地区）

（単位：評価点）



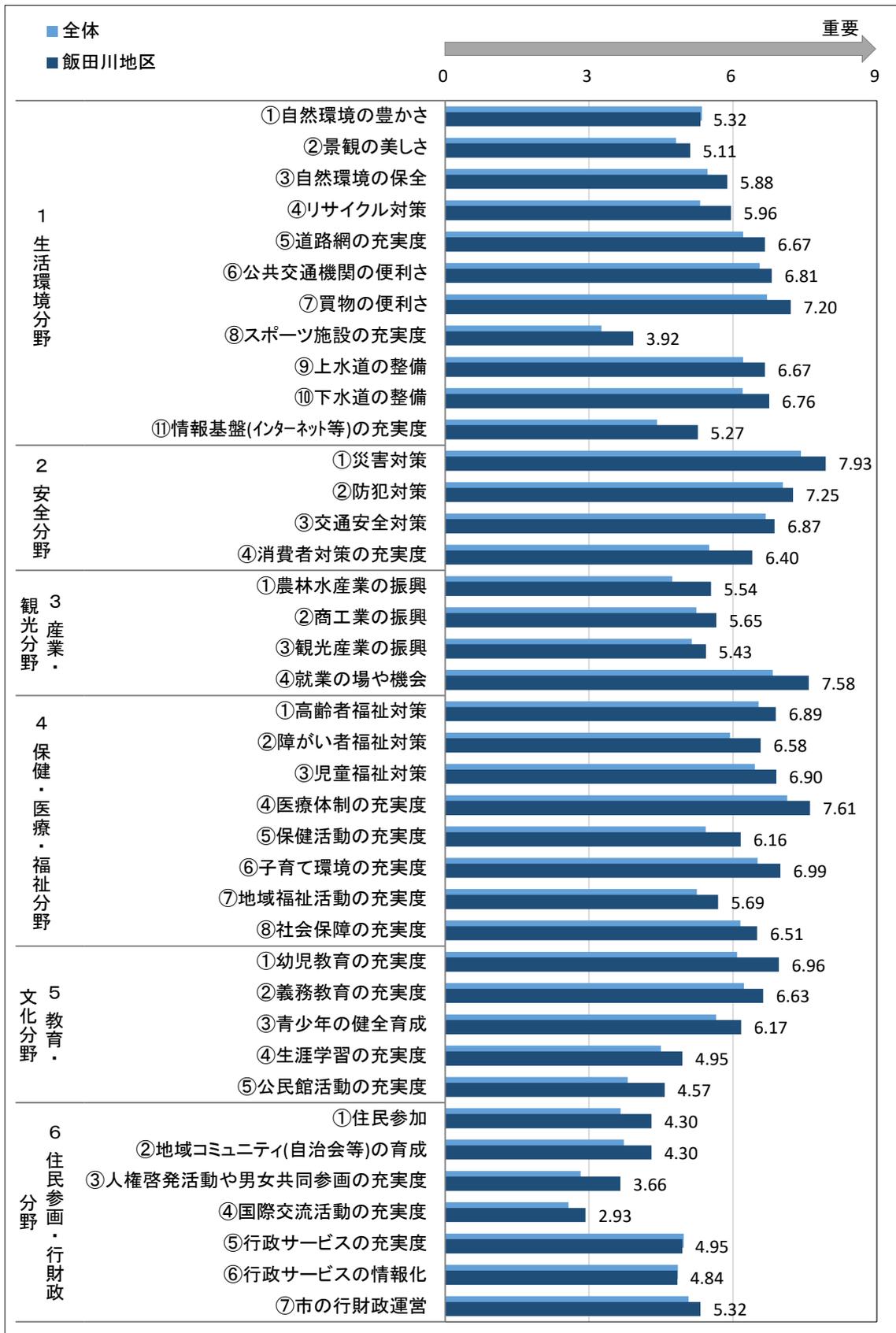
図表 31 市の各環境に関する重要度（居住地区別 昭和地区）

（単位：評価点）



図表 32 市の各環境に関する重要度（居住地区別 飯田川地区）

（単位：評価点）



### (3) 各環境の取り組みの優先度

- 優先度が最も高い項目は「3-④就業の場や機会」で、次いで「1-⑥公共交通機関の便利さ」が続き、以下は「4-⑧社会保障の充実度」、「2-①災害対策」などの順。
- 優先度が最も低い項目は「1-①自然環境の豊かさ」で、次いで「1-②景観の美しさ」が続き、以下は「6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度」、「1-⑩下水道の整備」などの順。

前述の(1)満足度と(2)重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するため、満足度評価と重要度評価を基にした優先度を算出した。

この結果をみると、優先度評価が最も高い項目は、「3-④就業の場や機会」(21.9点)となっており、次いで「1-⑥公共交通機関の便利さ」(16.02点)が続き、以下は「4-⑧社会保障の充実度」(8.56点)、「2-①災害対策」(8.34点)、「2-②防犯対策」(7.86点)などの順となっている。

一方、優先度評価が最も低い項目は、「1-①自然環境の豊かさ」(-13.61点)となっており、次いで「1-②景観の美しさ」(-10.12点)、「6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度」(-8.82点)、「1-⑩下水道の整備」(-8.59点)「1-⑧スポーツ施設の充実度」(-8.49点)などの順となっている。[図表 33、34、35 参照]

#### ○散布図について

満足度と重要度それぞれの評価点の偏差値を算出し、重要度偏差値を縦軸に、満足度偏差値を横軸にした散布図を作成します。

満足度と重要度の平均値座標(50,50)を中心にグラフエリアを4分割することができます。

重点維持分野：満足度、重要度ともに高い分野

重点改善分野：満足度が低く、重要度が高い分野 ⇒ 優先的に改善すべき分野

改善分野：満足度、重要度ともに低い分野

維持分野：満足度が高く、重要度が低い分野

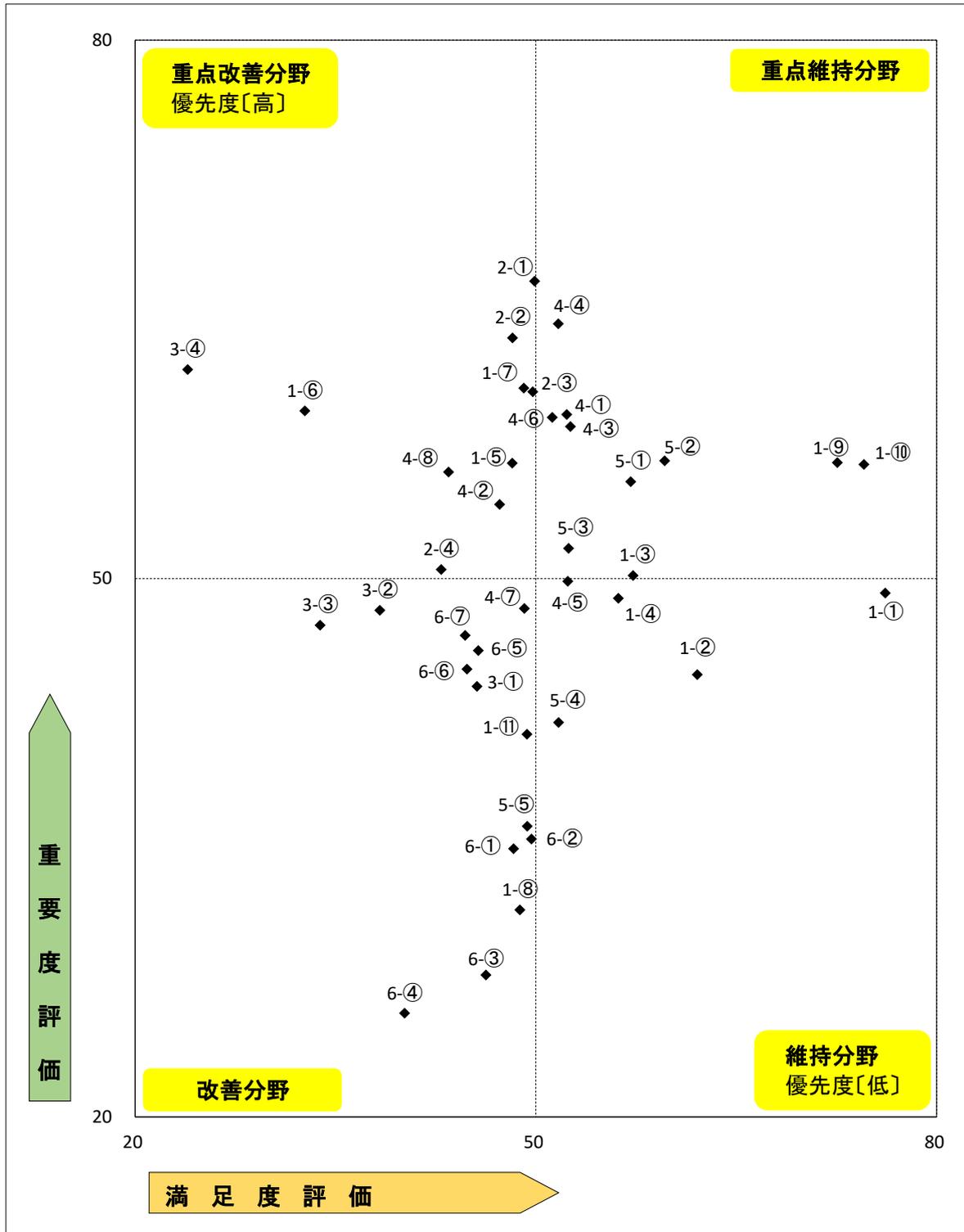
#### ○優先度の算出方法

満足度と重要度からなる座標位置をもとに、改善すべき優先順位に応じた得点を算出することができます(優先度)。

- ① 平均値座標(50,50)から各項目の座標位置(満足度,重要度)までの距離を求める
- ② 平均値座標から各項目の座標までの直線と、平均値座標を通る垂直線との角度を求める
- ③ 平均値座標から座標点(20,80)までの直線と、平均値座標から各項目の座標までの直線との角度を求める
- ④ ③で求めた角度から、角度の修正指数を求める。
- ⑤ ①×④により、優先度を求める。

図表 33 市の各環境の満足度と重要度 散布図（全体）

（単位：評価点偏差値）

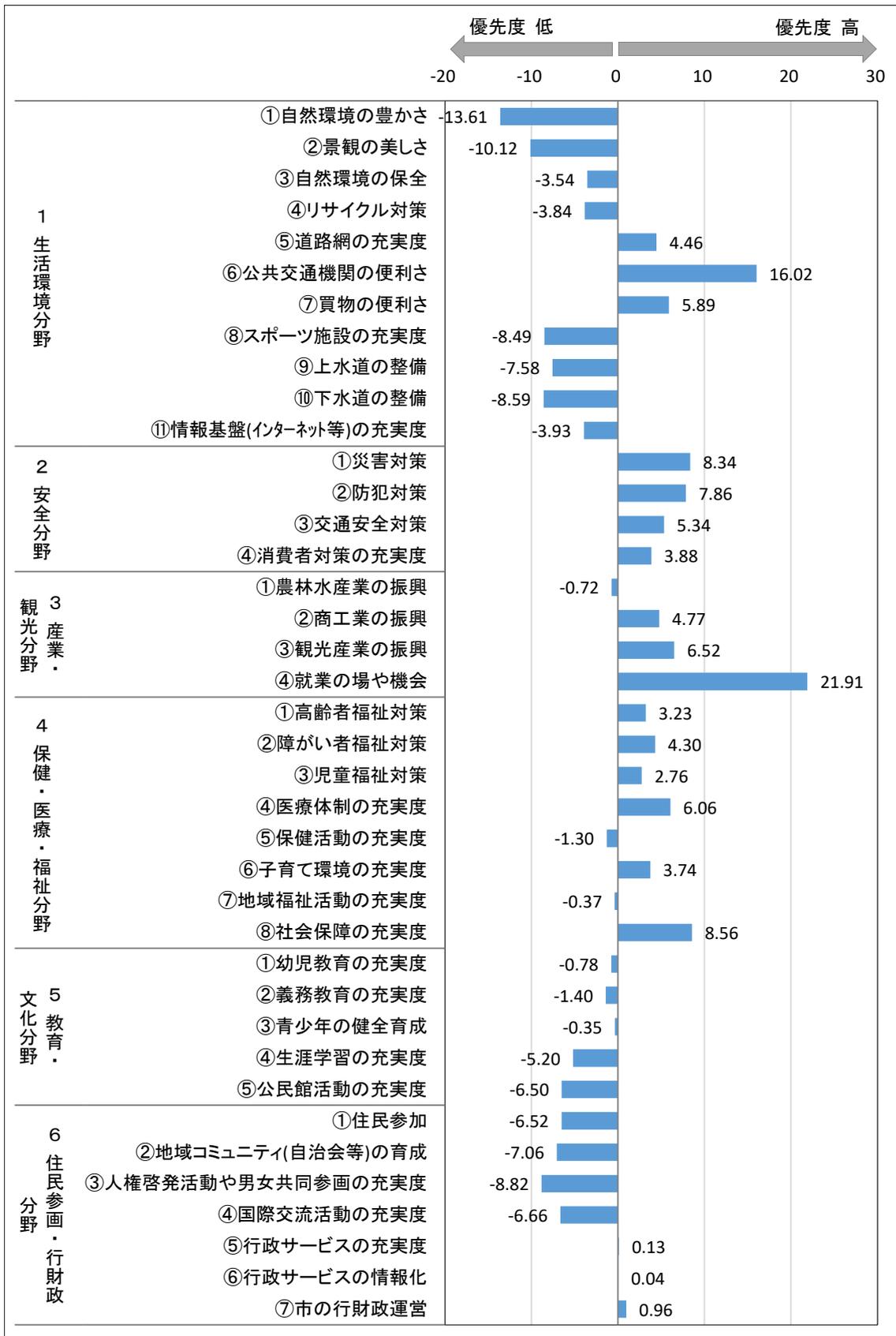


図表 34 優先度一覧（全体）

	満足度 (偏差値)	重要度 (偏差値)	優先度
3-④就業の場や機会	23.94	61.65	21.91
1-⑥公共交通機関の便利さ	32.72	59.34	16.02
4-⑧社会保障の充実度	43.47	55.94	8.56
2-①災害対策	49.92	66.58	8.34
2-②防犯対策	48.27	63.41	7.86
3-③観光産業の振興	33.86	47.41	6.52
4-④医療体制の充実度	51.70	64.19	6.06
1-⑦買物の便利さ	49.11	60.61	5.89
2-③交通安全対策	49.79	60.41	5.34
3-②商工業の振興	38.33	48.23	4.77
1-⑤道路網の充実度	48.25	56.44	4.46
4-②障がい者福祉対策	47.29	54.14	4.30
2-④消費者対策の充実度	42.92	50.51	3.88
4-⑥子育て環境の充実度	51.24	58.99	3.74
4-①高齢者福祉対策	52.32	59.15	3.23
4-③児童福祉対策	52.59	58.47	2.76
6-⑦市の行財政運営	44.72	46.84	0.96
6-⑤行政サービスの充実度	45.71	45.99	0.13
6-⑥行政サービスの情報化	44.86	44.96	0.04
5-③青少年の健全育成	52.47	51.69	-0.35
4-⑦地域福祉活動の充実度	49.14	48.33	-0.37
3-①農林水産業の振興	45.60	44.00	-0.72
5-①幼児教育の充実度	57.12	55.39	-0.78
4-⑤保健活動の充実度	52.39	49.85	-1.30
5-②義務教育の充実度	59.65	56.56	-1.40
1-③自然環境の保全	57.28	50.17	-3.54
1-④リサイクル対策	56.19	48.91	-3.84
1-⑪情報基盤(インターネット等)の充実度	49.35	41.32	-3.93
5-④生涯学習の充実度	51.72	41.99	-5.20
5-⑤公民館活動の充実度	49.37	36.20	-6.50
6-①住民参加	48.34	34.95	-6.52
6-④国際交流活動の充実度	40.19	25.78	-6.66
6-②地域コミュニティ(自治会等)の育成	49.69	35.49	-7.06
1-⑨上水道の整備	72.57	56.46	-7.58
1-⑧スポーツ施設の充実度	48.82	31.55	-8.49
1-⑩下水道の整備	74.57	56.37	-8.59
6-③人権啓発活動や男女共同参画の充実度	46.27	27.91	-8.82
1-②景観の美しさ	62.10	44.65	-10.12
1-①自然環境の豊かさ	76.17	49.19	-13.61

図表 35 市の各環境の優先度（全体）

（単位：優先度）



### 3 あなたの生活や地域のことについて

#### (1) あなたの生活について

問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

① 健康づくりに取り組んでいますか。



➤ “取り組んでいる”が52.3%、一方、“取り組んでいない”が32.9%

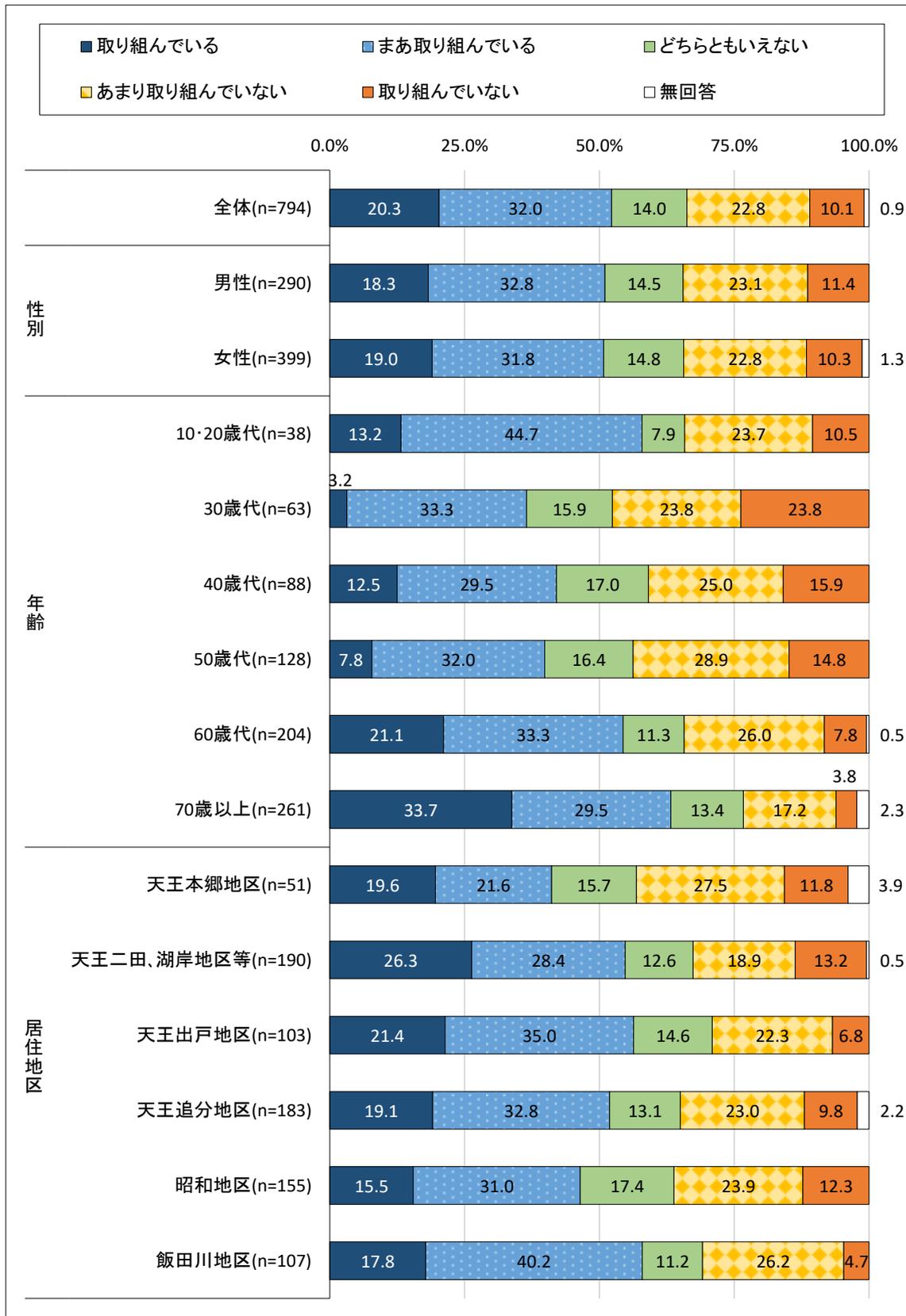
健康づくりの取り組みについて聞いたところ、全体では「まあ取り組んでいる」と答えた人が32.0%で最も多く、これに「取り組んでいる」(20.3%)を加えた52.3%の人が“取り組んでいる”と答えている。一方、「取り組んでいない」(10.1%)と「あまり取り組んでいない」(22.8%)を合わせた“取り組んでいない”と答えた人は32.9%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“取り組んでいる”の割合は男性が51.1%、女性が50.8%と、男女ともほぼ同様の割合ながら、男性が幾分高くなっている。

年齢でみると、“取り組んでいる”の割合は70歳以上が63.2%で最も高く、一方、30歳代(36.5%)、50歳代(39.8%)、40歳代(42.0%)では低い割合となっている。また、“取り組んでいない”の割合は30歳代(47.6%)、50歳代(43.7%)、40歳代(40.9%)で4割台と高くなっており、30歳代、40歳代、50歳代では、他の年代に比べて健康づくりへの取り組みの意向が低い傾向にある。

居住地区でみると、“取り組んでいる”の割合は飯田川地区(58.0%)、天王出戸地区(56.4%)で5割台後半と高く、天王本郷地区(41.2%)と昭和地区(46.5%)では4割台と低くなっている。[図表36参照]

図表 36 健康づくりに取り組んでいるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

② 運動・スポーツ（通勤途上に意識的にウォーキングをする場合なども含む）を行った日数はどのくらいですか。



➤ 「週1～2日」が24.9%で最も多く、次いで「週3日以上」が22.3%で続き、47.2%の人が“1週間に一度は運動をしている”

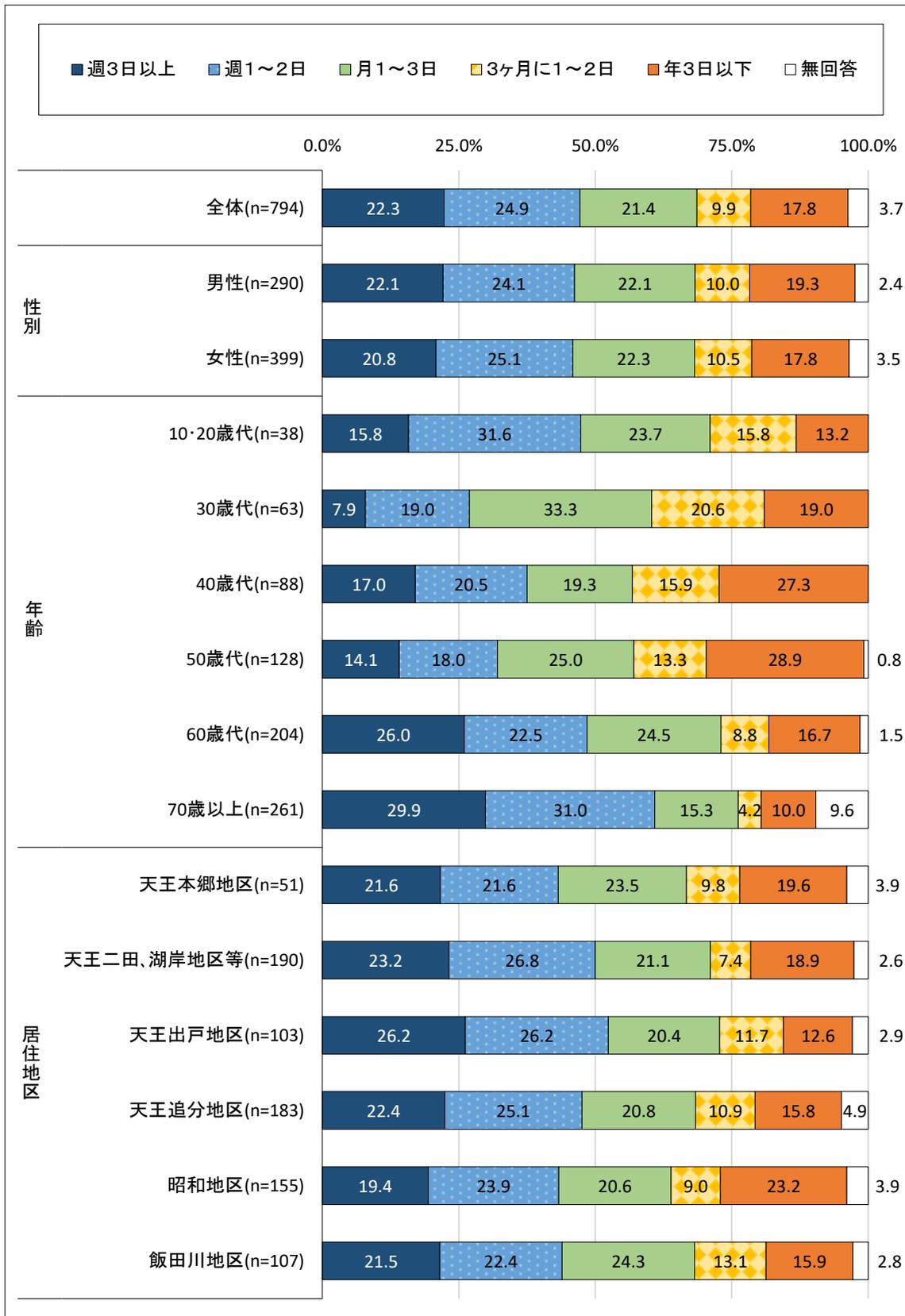
運動・スポーツに取り組む日数について聞いたところ、全体では「週1～2日」が24.9%で最も多く、次いで「週3日以上」が22.3%で続き、以下は「月1～3日」(21.4%)、「年3日以下」(17.8%)、「3ヶ月に1～2日」(9.9%)の順となっている。結果として「週1～2日」(24.9%)と「週3日以上」(22.3%)を合わせた47.2%の人が“1週間に一度は運動をしている”と答えている。

これを属性別でみると、性別では、“1週間に一度は運動をしている”割合は男性が46.2%、女性が45.9%と、ほぼ同様の割合ながら、男性がやや高くなっている。

年齢でみると、“1週間に一度は運動をしている”割合は70歳以上が60.9%で最も高く、一方、30歳代(26.9%)と50歳代(32.1%)、40歳代(37.5%)では低い割合となっている。

居住地区でみると、“1週間に一度は運動をしている”割合は天王出戸地区(52.4%)と天王二田、湖岸地区等(50.0%)で5割台と高く、一方、天王本郷地区(43.2%)、昭和地区(43.3%)などその他の4地区ではいずれも4割台と低くなっている。[図表37参照]

図表 37 運動・スポーツを行った日数  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

③ 目的をもって学んでいるものがありますか。(学生の方は学校以外で。)



➤ “ない”が53.1%、一方、“ある”が32.3%

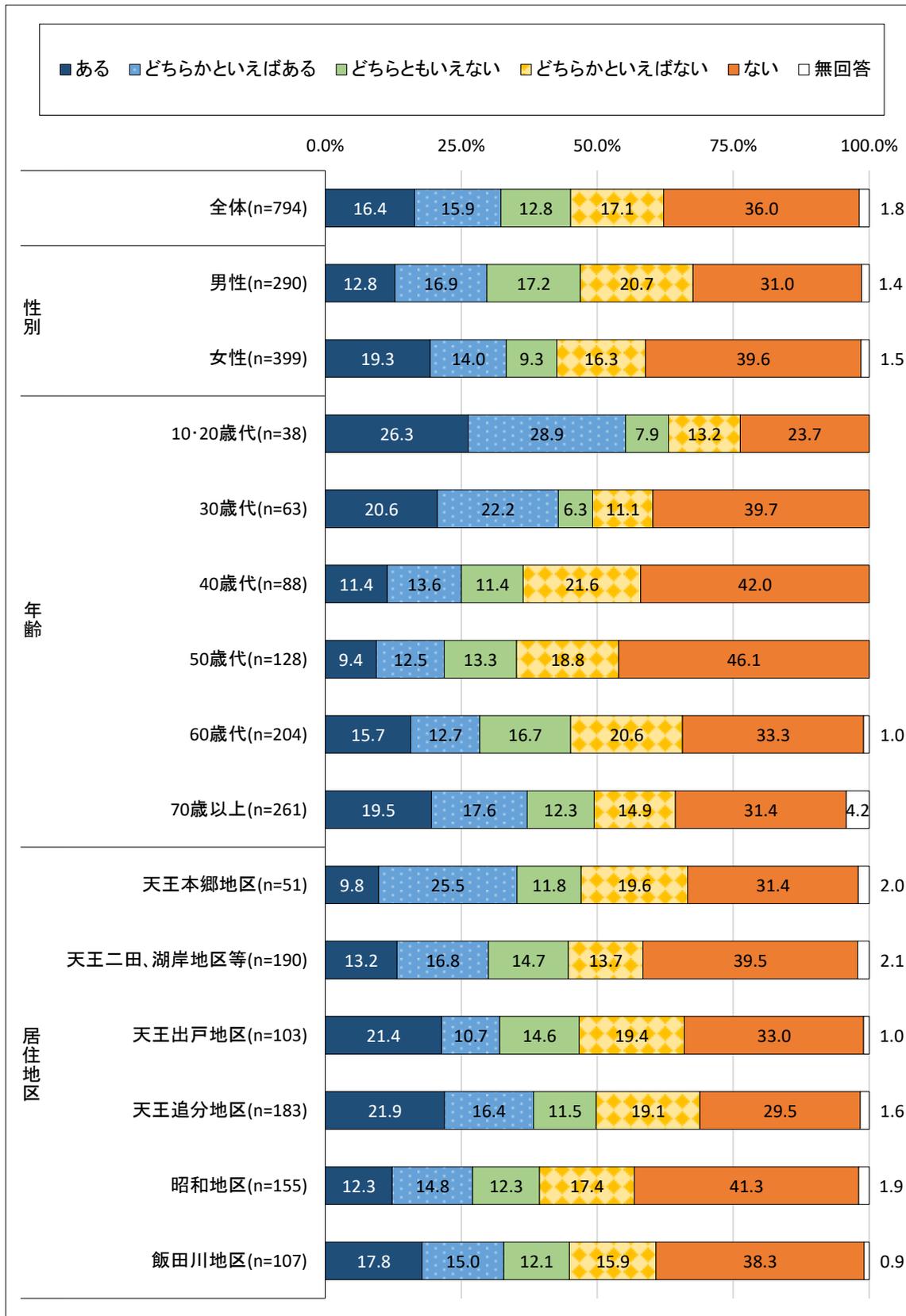
目的をもって学んでいるものがあるかについて聞いたところ、全体では「ない」と答えた人が36.0%で最も多く、次いで「どちらかといえばない」が17.1%で続き、これらを合わせた53.1%の人が“ない”と答えている。一方、「ある」(16.4%)と「どちらかといえばある」(15.9%)を合わせた“ある”と答えた人は32.3%となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“ある”の割合は男性が29.7%、女性が33.3%となっている。一方、“ない”の割合は男性が51.7%、女性が55.9%となっており、両項目とも女性の方が幾分高い割合となっている。

年齢で見ると、“ある”の割合は10・20歳代が55.2%で最も高く、一方、50歳代(21.9%)、40歳代(25.0%)、60歳代(28.4%)では2割台と低い割合となっている。

居住地区で見ると、“ある”の割合は昭和地区では27.1%と2割台ながら、天王追分地区の38.3%をはじめとして、他の5地区ではいずれも3割台となっている。[図表 38 参照]

図表 38 目的をもって学んでいるものがあるか  
(全体／性別、年齢、職業)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

④ この1年の間に、芸術に触れて感動したことがありますか。



➤ “ない”が50.6%、一方、“ある”が38.0%

この1年の間に、芸術に触れて感動したことがあるかどうかについて聞いたところ、全体では「ない」と答えた人が31.6%で最も多く、これに「あまりない」(19.0%)を加えた50.6%の人が“ない”と答えている。一方、「ある」(19.5%)と「まあある」(18.5%)を合わせた“ある”と答えた人は38.0%となっている。

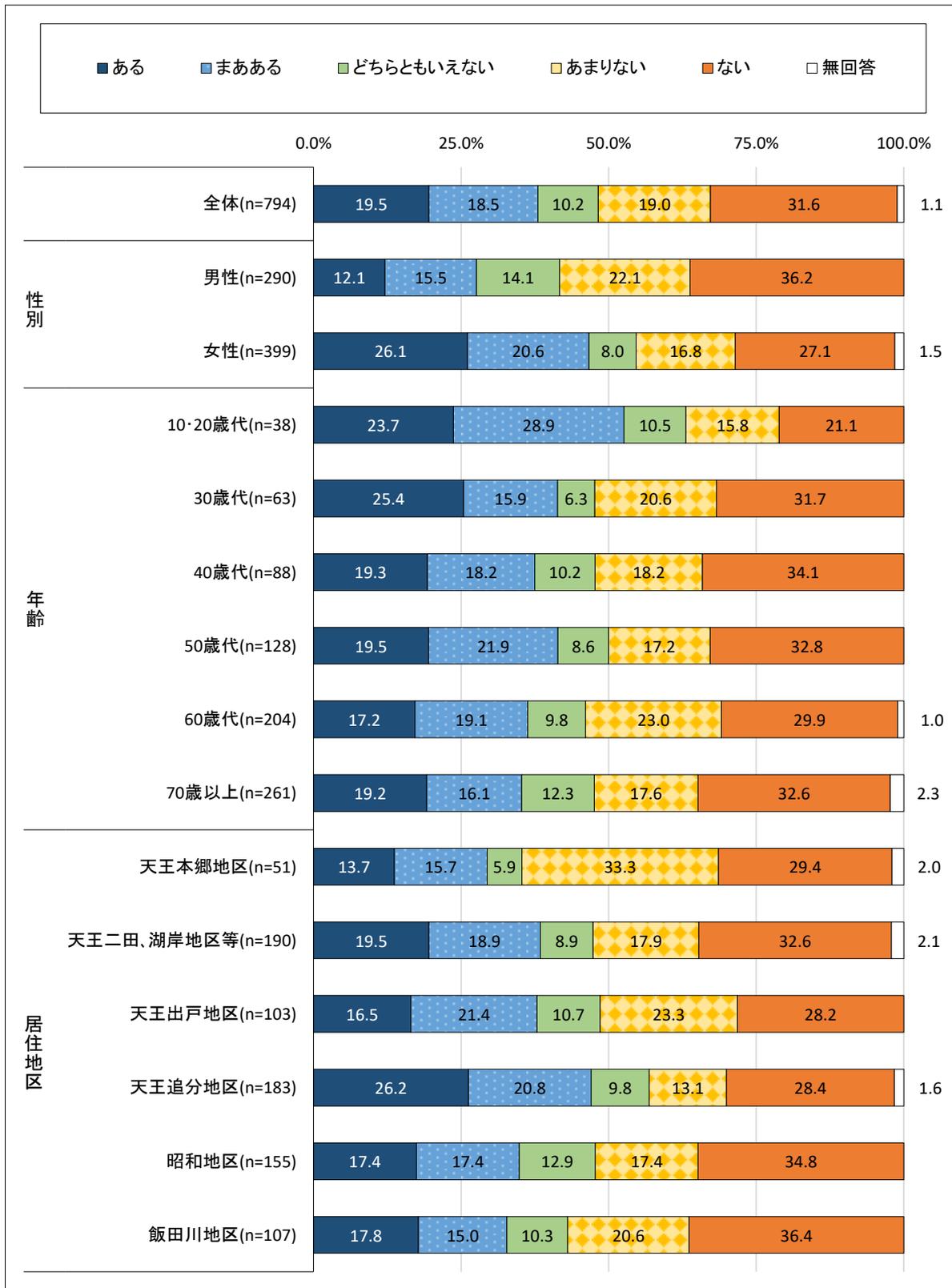
これを属性別で見ると、性別では、“ある”の割合は男性が27.6%、女性が46.7%となっている。一方、“ない”の割合は男性が58.3%、女性が43.9%となっており、女性の方が芸術に触れる機会が多い傾向が色濃く見られた。

年齢で見ると、“ある”の割合はでは10・20歳代が52.6%で最も高く、一方、70歳代(35.3%)、60歳代(36.3%)、40歳代(37.5%)では3割台と低い割合となっている。

居住地区で見ると、“ある”の割合は天王本郷地区では29.4%と2割台ながら、天王追分地区(47.0%)の4割台をはじめとして、他の5地区ではいずれも3割以上となっている。

[図表 39 参照]

図表 39 芸術に触れて感動したことがあるか  
(全体／性別、年齢、職業)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑤ この1年の間に、仕事やレジャーを問わず、森や山に入ったことがありますか。



➤ “ない”が50.2%、一方、“ある”が44.9%

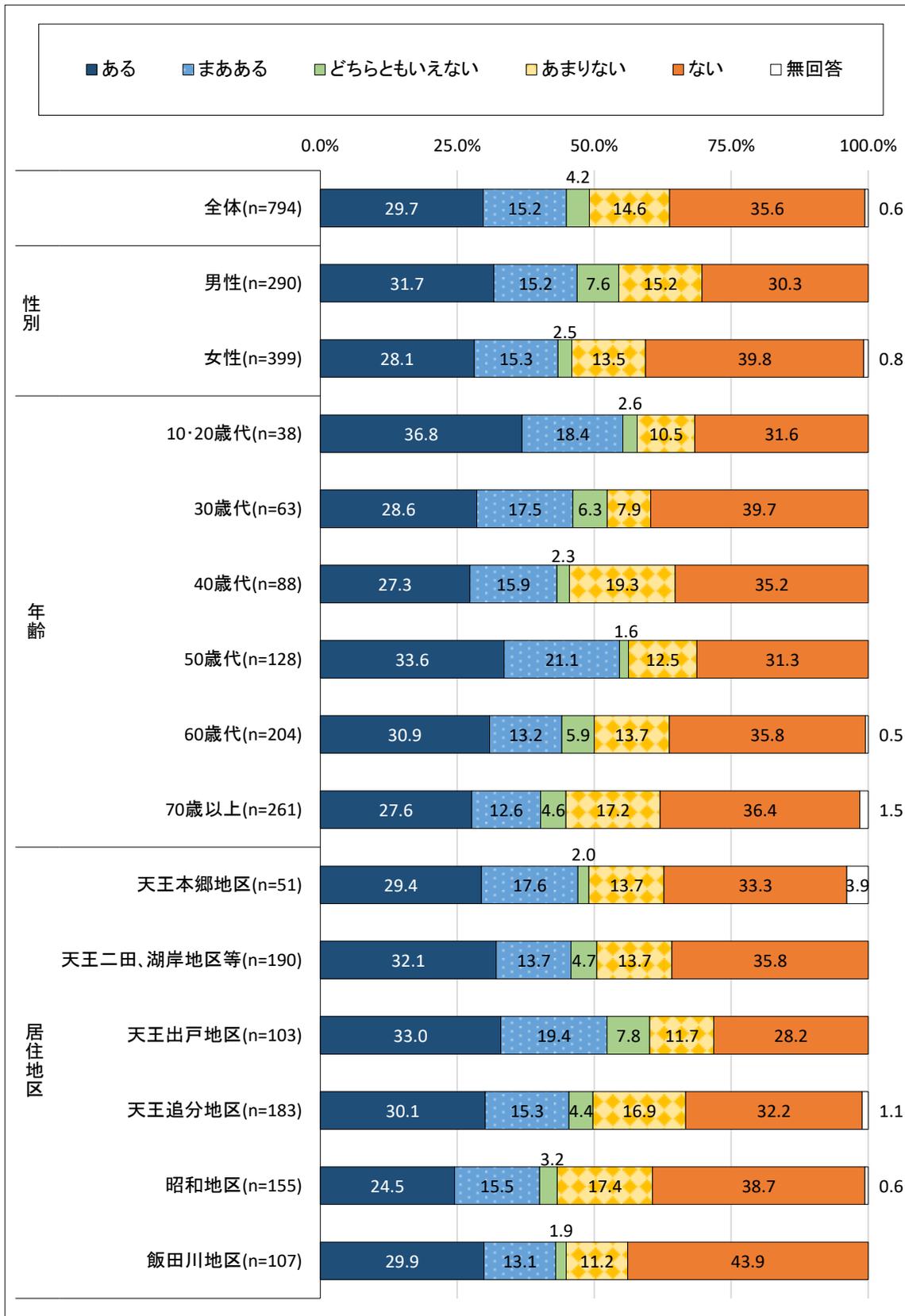
この1年の間に、森や山に入ったことがあるかについて聞いたところ、全体では「ない」と答えた人が35.6%で最も多く、これに「あまりない」(14.6%)を加えた50.2%の人が“ない”と答えている。一方、「ある」(29.7%)と「まあある」(15.2%)を合わせた“ある”と答えた人は44.9%となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“ある”の割合は男性が46.9%、女性が43.4%となっている。一方、“ない”の割合は男性が45.5%、女性が53.3%となっており、男性の方が森や山に入る機会が幾分多い傾向がうかがえた。

年齢で見ると、“ある”では10・20歳代(55.2%)と50歳代(54.7%)で5割台と高く、70歳代以上の40.2%をはじめとして、他の各年代ではいずれも4割台と低くなっている。

居住地区で見ると、“ある”の割合は天王出戸地区(52.4%)で5割台となったほか、その他の5地区ではいずれも4割台となっている。[図表40参照]

図表 40 森や山に入ったことがあるか  
(全体／性別、年齢、職業)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑥ 水を大切に使っていますか。



➤ “大切に使っている”が83.5%、一方、“大切にしていない”が5.2%

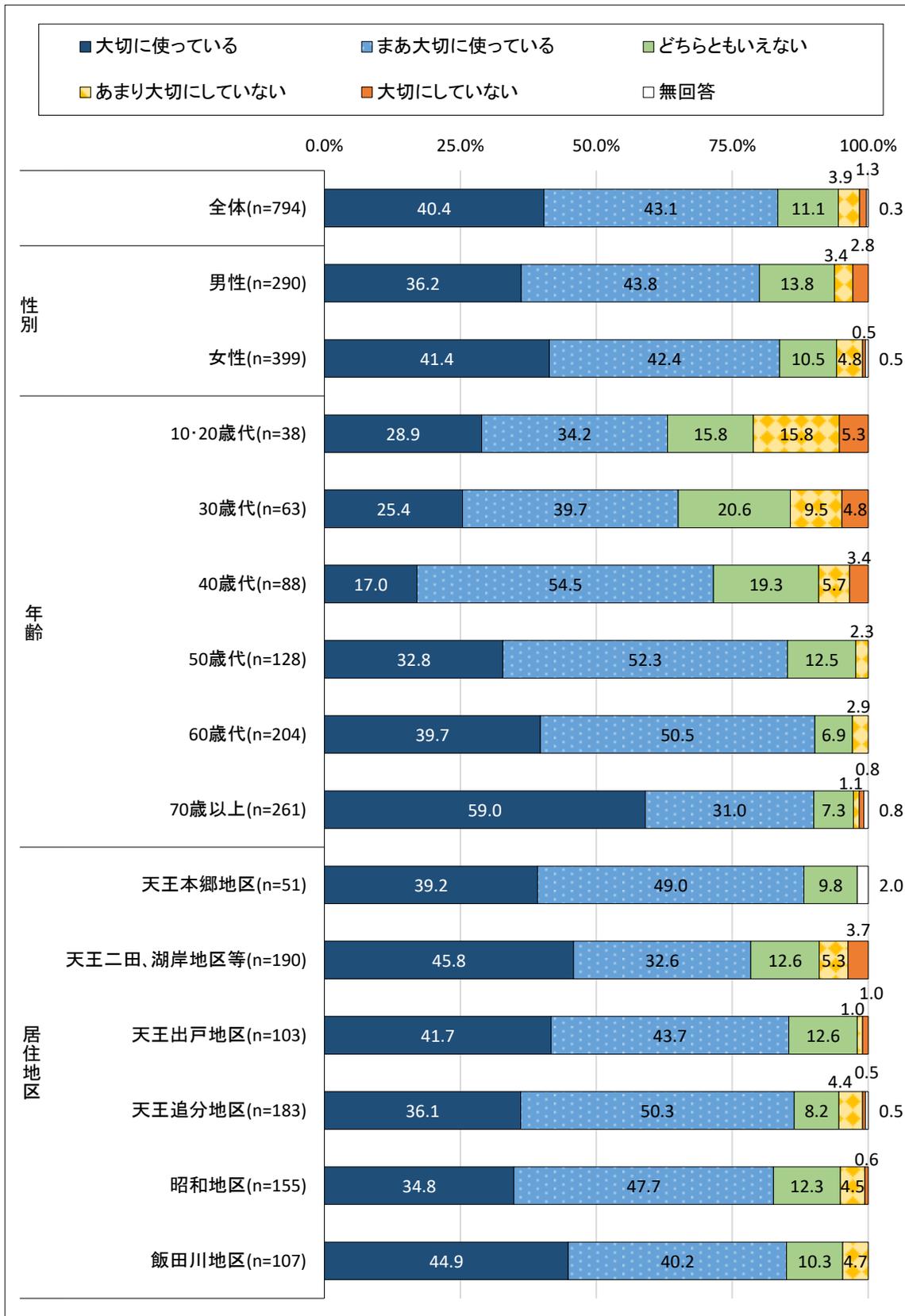
水を大切に使っているかどうかについて聞いたところ、全体では「まあ大切に使っている」と答えた人が43.1%で最も多く、次いで「大切に使っている」が40.4%とほぼ同様の割合で続き、これらを合わせた83.5%の人が“大切に使っている”と答えている。一方、「大切にしていない」(1.3%)と「あまり大切にしていない」(3.9%)を合わせた“大切にしていない”と答えた人は5.2%と1割未満となっている。

これを属性別でみると、性別では、“ある”の割合は男性が80.0%、女性が83.8%となっており、男女とも8割台とほぼ同様の割合ながら、女性の方に大切にしたい意向が幾分強めにうかがえた。

年齢で見ると、“大切に使っている”の割合は60歳代(90.2%)と70歳以上(90.0%)で9割台と高く、一方、10・20歳代(63.1%)と30歳代(65.1%)では6割台と低くなっている。

居住地区で見ると、“大切に使っている”の割合は天王二田、湖岸地区等(78.4%)では7割台ながら、天王本郷地区の88.2%をはじめとして、その他の5地区ではいずれも8割台となっている。[図表41参照]

図表 41 水を大切にしているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑦ ごみの分別やりサイクルに協力していますか。



➤ “協力している”が96.2%、一方、“協力していない”が1.5%

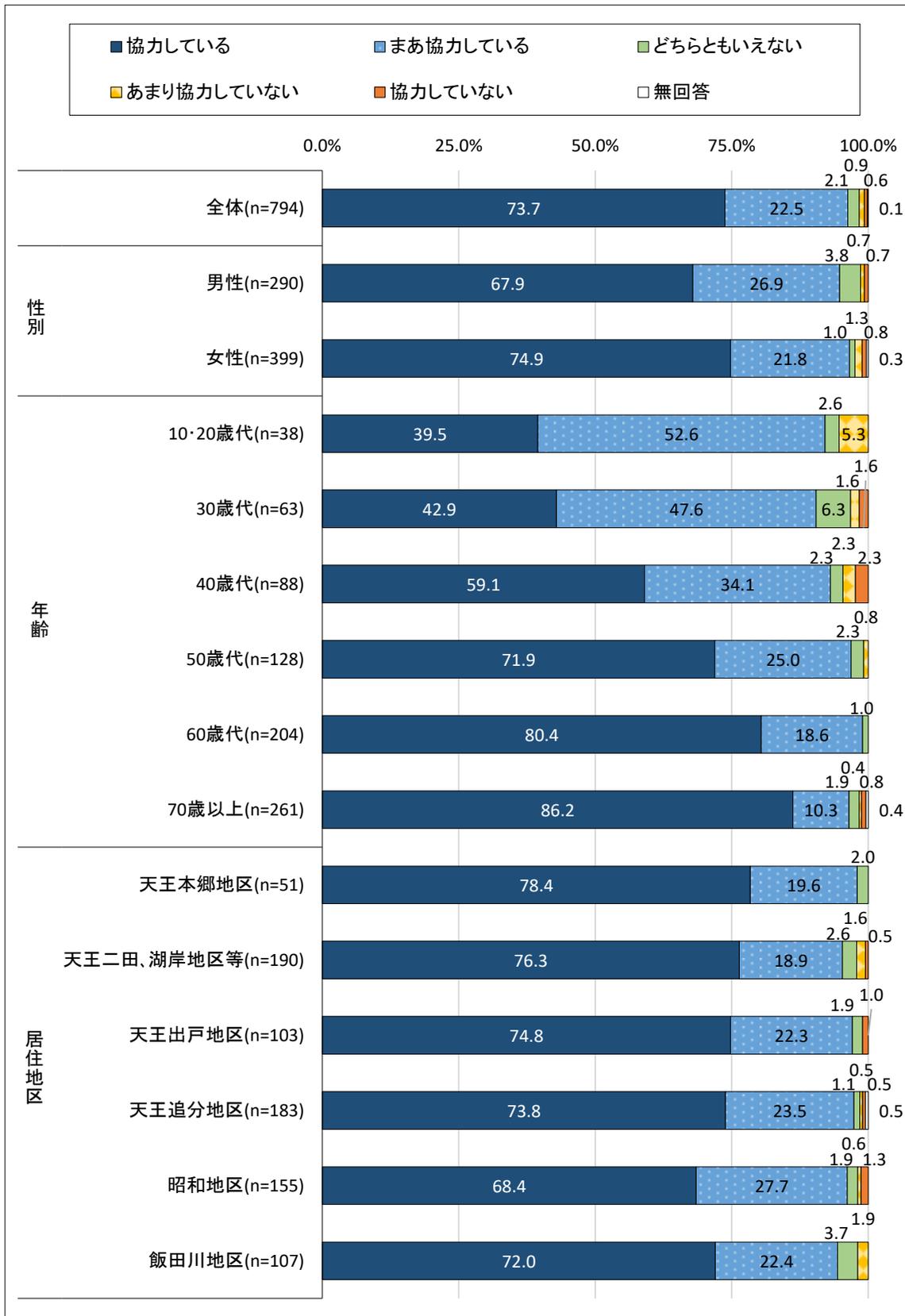
ごみの分別やりサイクルに協力しているかどうかについて聞いたところ、全体では「協力している」と答えた人が73.7%で最も多く、次いで「まあ協力している」が22.5%で続き、これらを合わせた96.2%の人が“協力している”と答えている。一方、「協力していない」(0.6%)と「あまり協力していない」(0.9%)を合わせた“協力していない”と答えた人は1.5%となっており、市民はごみの分別やりサイクルについて強い協力姿勢を示している。

これを属性別で見ると、性別では、“協力している”の割合は男性が94.8%、女性が96.7%となっており、男女とも非常に協力意識が高いものの、こうした意識は女性の方により強くうかがえた。

年齢で見ると、“協力している”との回答はいずれの年代でも9割台と高い割合ながら、30歳代(90.5%)が最も低く、60歳代(99.0%)が最も高くなっている。

居住地区で見ると、“協力している”との回答は6地区すべてで9割台を占めており、天王本郷地区の98.0%とはじめとして、各地域ともほぼ同様の高い割合となっている。[図表42 参照]

図表 42 ごみの分別やリサイクルに協力しているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑧ 電気のムダ使いを気にかけるなど、環境に配慮していますか。



➤ “配慮している”が87.3%、一方、“配慮していない”が4.3%

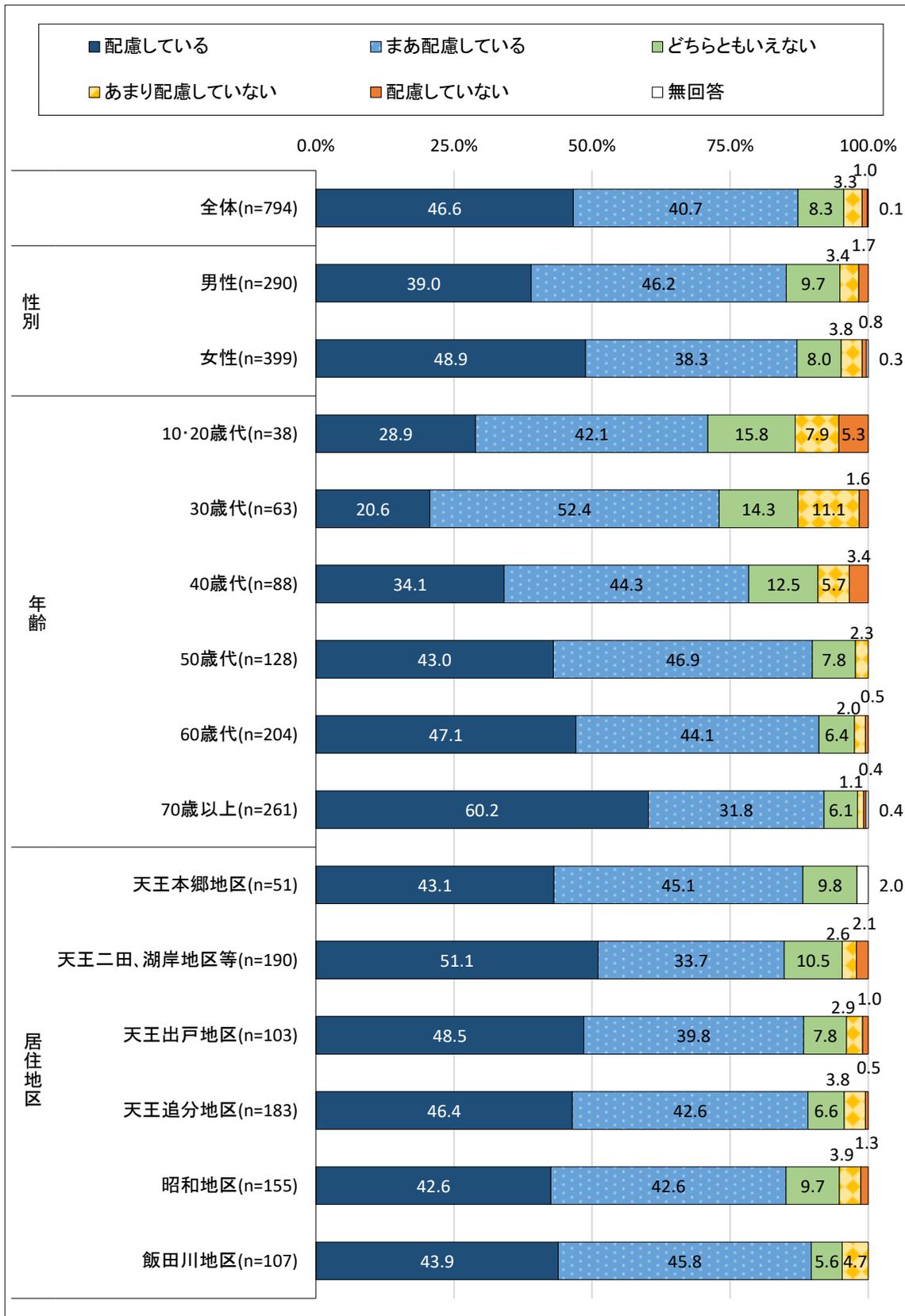
電気のムダ使いを気にかけるなど、環境に配慮しているかについて聞いたところ、「配慮している」と答えた人が46.6%で最も多く、次いで「まあ配慮している」が40.7%と4割台で続き、これらを合わせた87.3%の人が“配慮している”と答えている。一方、「配慮していない」(1.0%)と「あまり配慮していない」(3.3%)を合わせた“配慮していない”と答えた人は4.3%と1割未満となっている。

これを属性別でみると、性別では、“配慮している”の割合は男性が85.2%、女性が87.2%となり、男女とも8割台とほぼ同様の高い割合ながら、女性の方が配慮姿勢を幾分強めに示している。

年齢でみると、“配慮している”の割合は70歳以上(92.0%)、60歳代(91.2%)、50歳代(89.9%)の各年代で9割前後と高い割合を占めた一方、10・20歳代(71.0%)、30歳代(73.0%)、40歳代(78.4%)の各年代では7割台と低くなっている。

居住地区でみると、“配慮している”の割合は6地区すべてで8割台となっており、飯田川地区(89.7%)の9割近くをはじめとして、各地域ともほぼ同様の高い割合となっている。また、「配慮している」の割合は天王二田、湖岸地区等(51.1%)のみが5割以上となり、他の地区に比べて高い割合を示している。[図表43参照]

図表 43 環境に配慮しているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑨ 製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいますか。



➤ “選んでいる”が58.7%、一方、“選んでいない”が13.0%

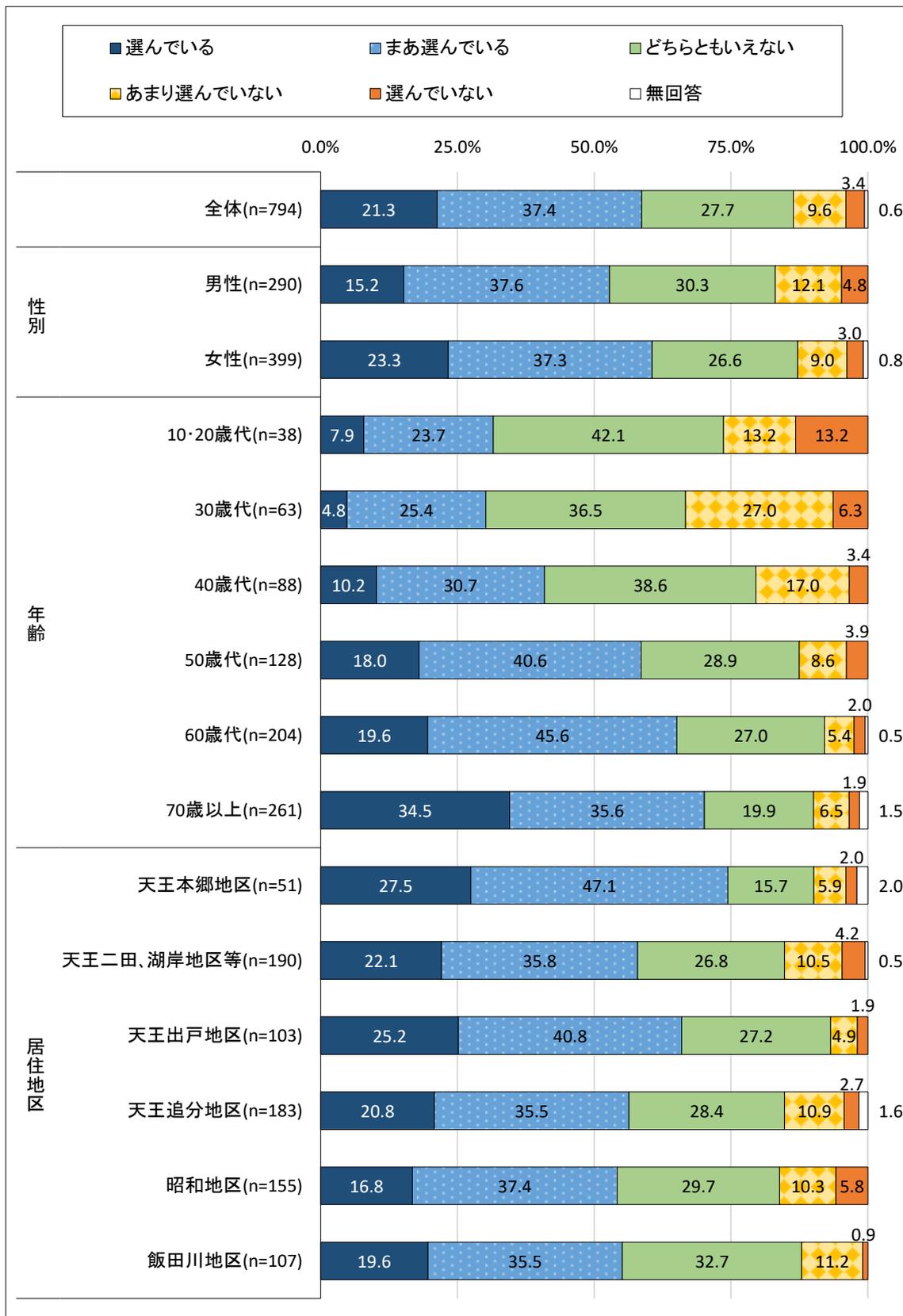
製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいるかについて聞いたところ、全体では「まあ選んでいる」と答えた人が37.4%で最も多く、これに「選んでいる」(21.3%)を加えた58.7%の人が“選んでいる”と答えている。一方、「選んでいない」(3.4%)と「あまり選んでいない」(9.6%)を合わせた“選んでいない”と答えた人は13.0%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は27.7%と高めの割合を示している。

これを属性別で見ると、性別では、“選んでいる”の割合は男性が52.8%、女性が60.6%と、女性の方が高い割合となっており、環境への配慮姿勢を幾分強く示している。

年齢で見ると、“選んでいる”の割合は70歳以上が70.1%で最も高く、一方、30歳代(30.2%)と10・20歳代(31.6%)では3割台と低くなっており、総じてみれば年代が上がるにつれて、この割合が高くなる傾向がうかがえる。

居住地区で見ると、“選んでいる”の割合は天王本郷地区(74.6%)と天王出戸地区(66.0%)で高く、両地区に比べて他の4地区ではいずれも5割台と低くなっている。[図表44参照]

図表 44 製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑩ 山・川を守るための取り組みに協力したいと思いますか。



➤ “そう思う”が77.4%、一方、“そう思わない”が5.2%

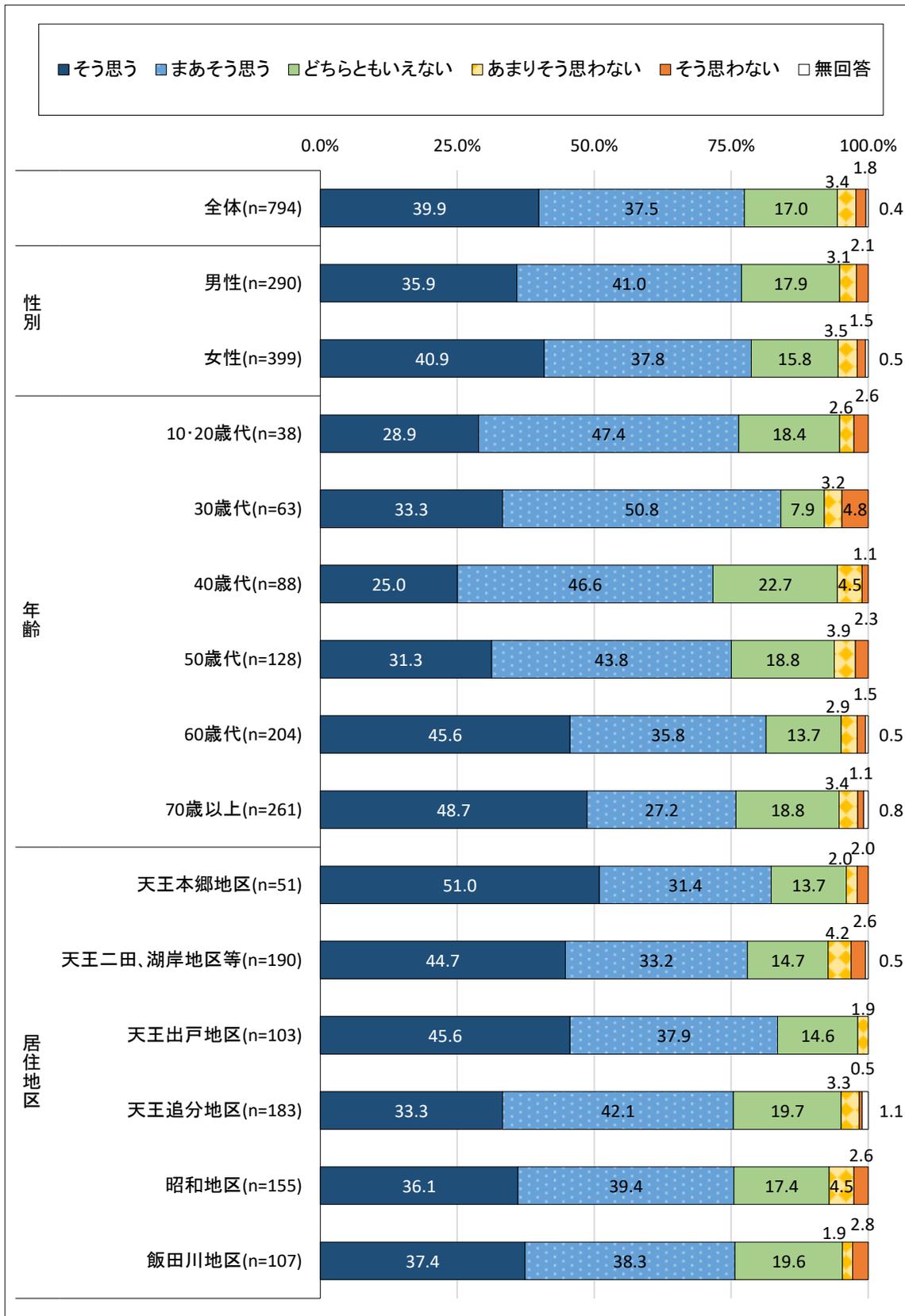
山・川を守るための取り組みに協力したいと思うかについて聞いたところ、全体では「まあそう思う」と答えた人が39.9%で最も多く、次いで「そう思う」が37.5%とほぼ同様の割合で続き、これらを合わせた77.4%の人が“そう思う”と答えている。一方、「そう思わない」(1.8%)と「あまりそう思わない」(3.4%)を合わせた“そう思わない”と答えた人は5.2%と1割未満となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“そう思う”の割合は男性が76.9%、女性が78.7%と女性の方がやや高いものの、ほぼ同様の割合となっている。

年齢で見ると、“そう思う”の割合は30歳代(84.1%)と60歳代(81.4%)が8割台で、その他の各年代では7割台となっている。

居住地区で見ると、“そう思う”の割合は天王出戸地区(83.5%)と天王本郷地区(82.4%)が8割台と高く、天王二田、湖岸地区等(77.9%)など他の4地区でもいずれも7割台後半と総じて高い割合を示している。[図表45参照]

図表 45 山・川を守るための取り組みに協力したいと思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑪ ふだん公共の交通機関を利用していますか。



➤ “利用しない”が75.8%、一方、“利用する”が18.7%

ふだん公共の交通機関を利用しているかについて聞いたところ、全体では「ほとんど利用しない」と答えた人が52.0%で最も多く、次いで「あまり利用しない」が23.8%で続き、これらを合わせた75.8%の人が“利用しない”と答えている。一方、「よく利用する」(7.7%)と「まあまあ利用する」(11.0%)を合わせた“利用する”と答えた人は18.7%となっており、公共交通機関の利用状況の低調さがうかがえる。

これを属性別でみると、性別では、“利用しない”の割合は男性が73.5%、女性が77.7%とともに7割台ながら、女性の割合が高く、一方、“利用する”の割合は男性が18.6%、女性が17.3%とともに1割台と低いものの、男性の割合がやや高くなっている。

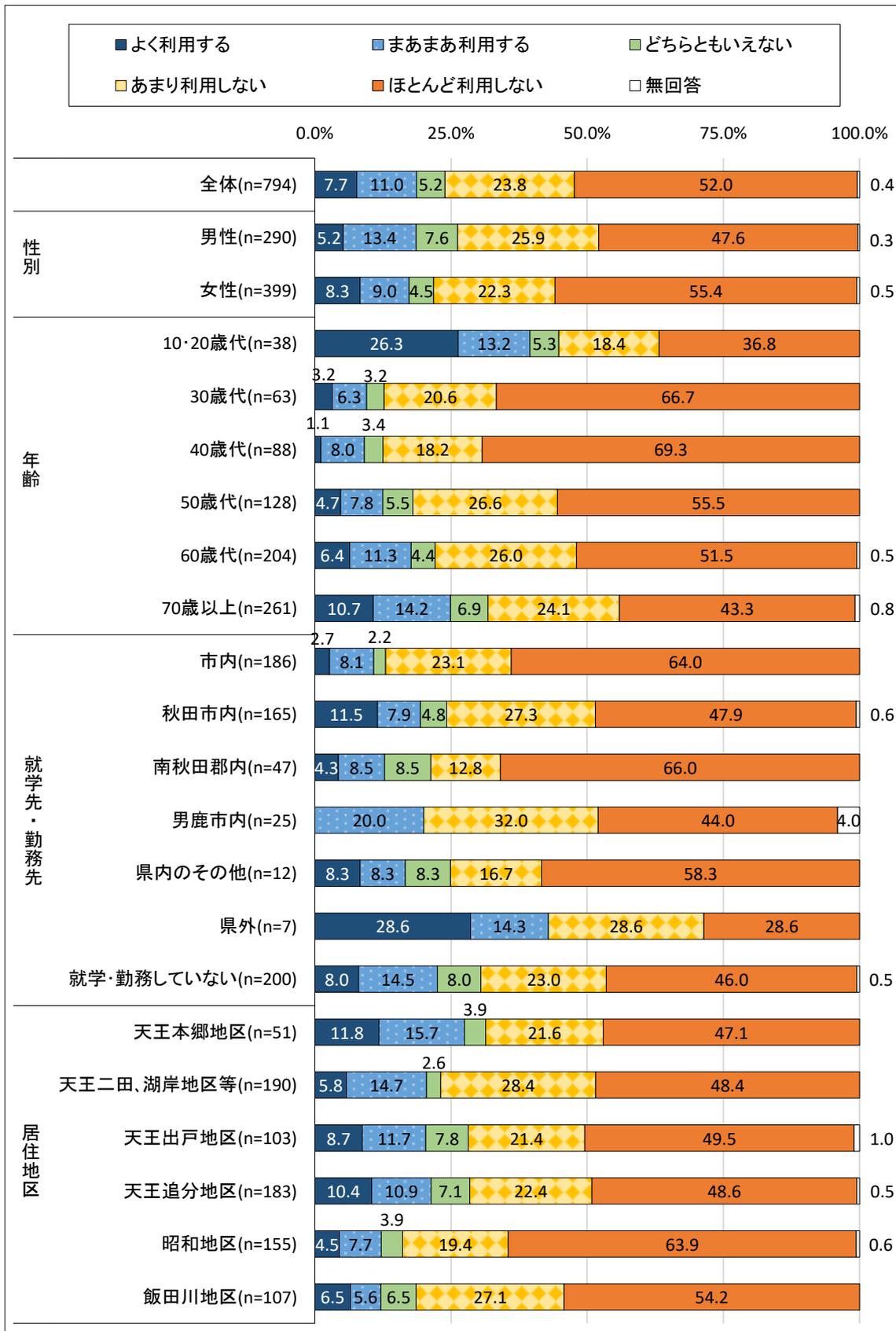
年齢でみると、“利用する”の割合は10・20歳代が39.5%で最も高く、70歳以上(24.2%)も2割台と比較的高い割合となっている。一方、40歳代(9.1%)と30歳代(9.5%)ではともに1割未満と低くなっている。また、“利用しない”割合は30歳代から50歳代までの各年代でいずれも8割台と他の年代より高い割合を示している。

就学先・勤務先でみると、“利用する”の割合は、サンプル数は少ないものの県外が42.9%で最も高く、一方、市内の10.8%をはじめとして、その他の項目はいずれも1割台から2割台前半と低い割合となっている。また、“利用しない”の割合はいずれも5割以上を占めており、市内(87.1%)の8割台をはじめとして、7割以上の項目が多くなっている。

居住地区でみると、“利用する”の割合は天王本郷地区が27.5%で最も高く、一方、飯田川地区(12.1%)と昭和地区(12.2%)では1割強と低い割合となっている。また、天王追分地区(21.3%)など他の3地区はいずれも2割強とほぼ同様の割合となっている。[図表

46 参照]

図表 46 公共の交通機関を利用しているか  
(全体／性別、年齢、就学先・勤務先、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑫ 老後に不安を感じますか。



➤ “不安を感じる”が76.2%、一方、“不安を感じない”が14.0%

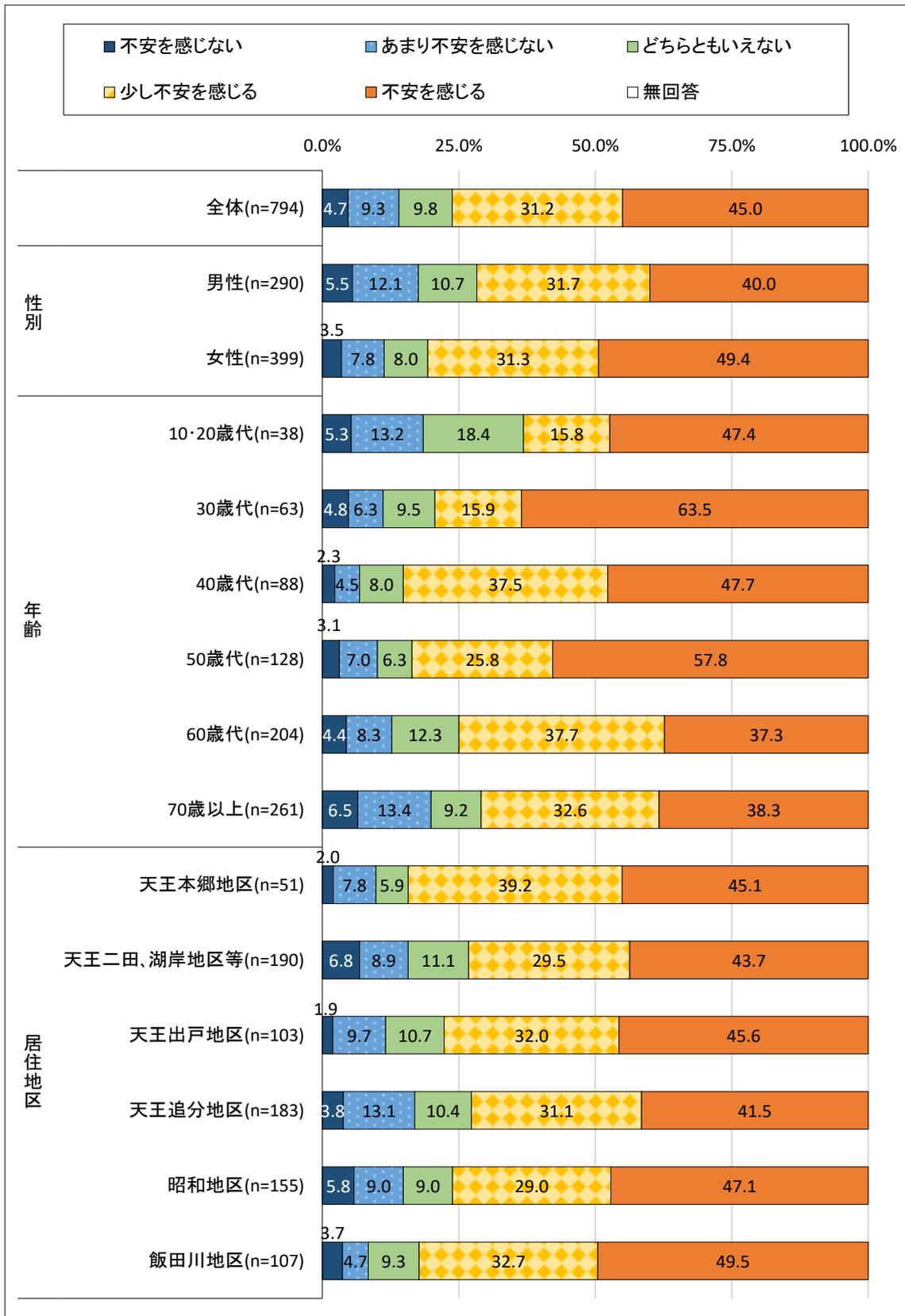
老後に不安を感じるかどうかについて聞いたところ、全体では「不安を感じる」と答えた人が45.0%で最も多く、次いで「少し不安を感じる」が31.2%で続き、これらを合わせた76.2%の人が“不安を感じる”と答えている。一方、「不安を感じない」(4.7%)と「あまり不安を感じない」(9.3%)を合わせた“不安を感じない”と答えた人は14.0%となっており、多くの市民が老後に不安感を抱いている状況が浮き彫りとなっている。

これを属性別でみると、性別では、“不安を感じる”の割合は男性が71.7%、女性が80.7%とともに高い割合ながら、女性の方が不安感をより強く示している。

年齢でみると、40歳代の85.2%をはじめとして、30歳代から60歳代までの各年代では7割台後半から8割台と高い割合を占めており、一方、10・20歳代(63.2%)と70歳以上(70.9%)では比較的低い割合となっているものの、総じていずれの年代も不安感を色濃く示している。

居住地区でみると、“不安を感じる”の割合は天王本郷地区(84.3%)と飯田川地区(82.2%)で8割台と高く、天王出戸地区(77.6%)など他の4地区でもいずれも7割台と高い割合を示している。[図表47参照]

図表 47 老後に不安を感じるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についていかがいます。

⑬ かかりつけの医者はいますか。



➤ “いる”が76.7%、一方、“いない”が18.0%

かかりつけの医者があるかについて聞いたところ、全体では「いる」と答えた人が60.7%で最も多く、次いで「どちらかといえばいる」が16.0%で続き、これらを合わせた76.7%の人が“いる”と答えている。一方、「いない」(13.5%)と「どちらかといえばいない」(4.5%)を合わせた“いない”と答えた人は18.0%となっている。

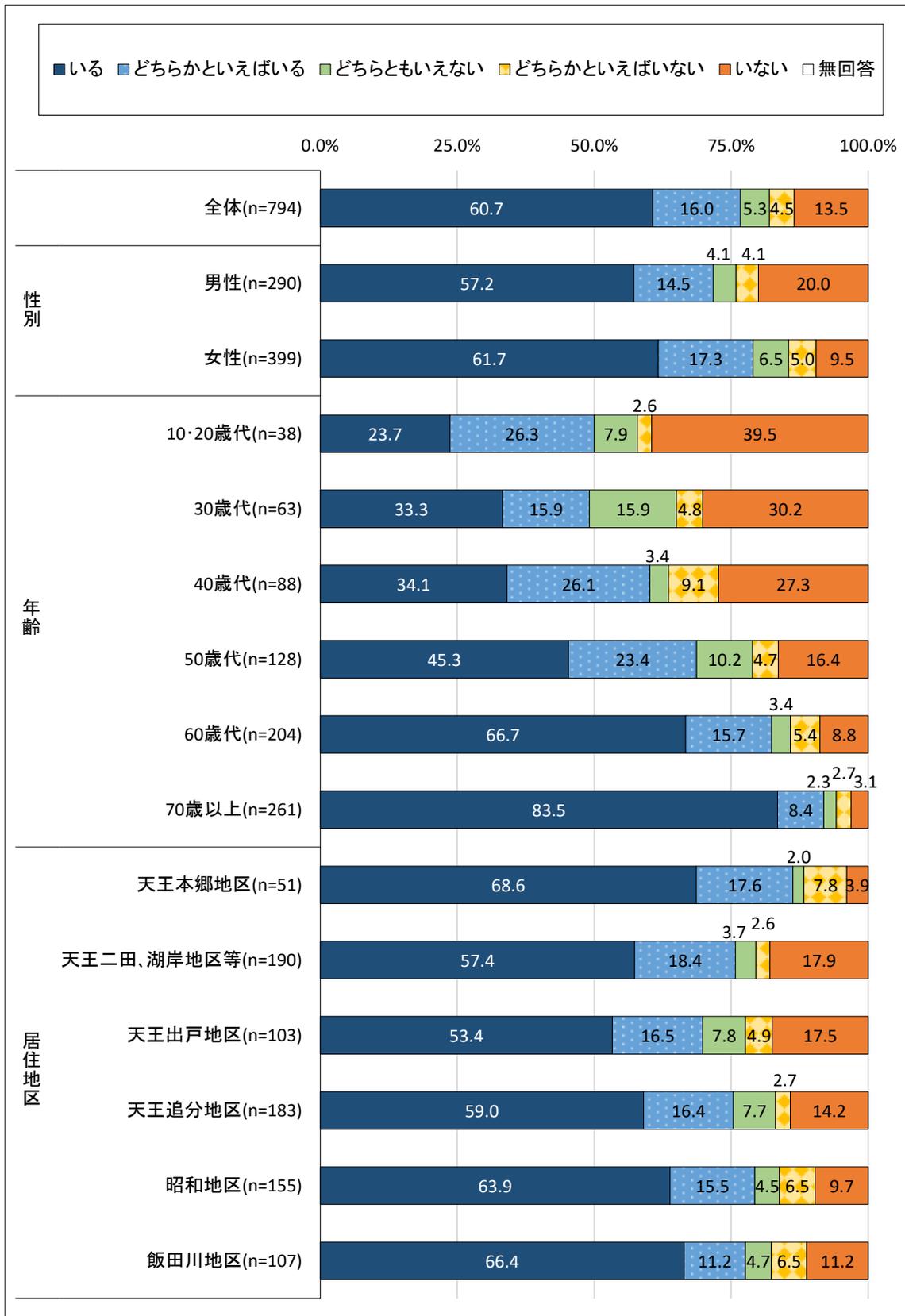
これを属性別で見ると、性別では、“いる”の割合は男性が71.7%、女性が79.0%とともに7割台ながら、かかりつけ医者のいる女性の方が多くなっている。

年齢で見ると、“いる”の割合は70歳以上が91.9%で最も高く、次いで60歳代が82.4%で続いている。一方、30歳代(49.2%)と10・20歳代(50.0%)では割合が低く、40歳代(60.2%)と50歳代(68.7%)では6割台となっている。

居住地区で見ると、“いる”の割合は天王本郷地区が86.2%で最も高く、天王出戸地区では69.9%と最も低くなっている。また、他の4地区はいずれも7割台後半となっている。

[図表 48 参照]

図表 48 かかりつけの医者はいるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑭ 災害時の避難場所を知っていますか。



➤ “知っている”が74.5%、一方、“知らない”が20.4%

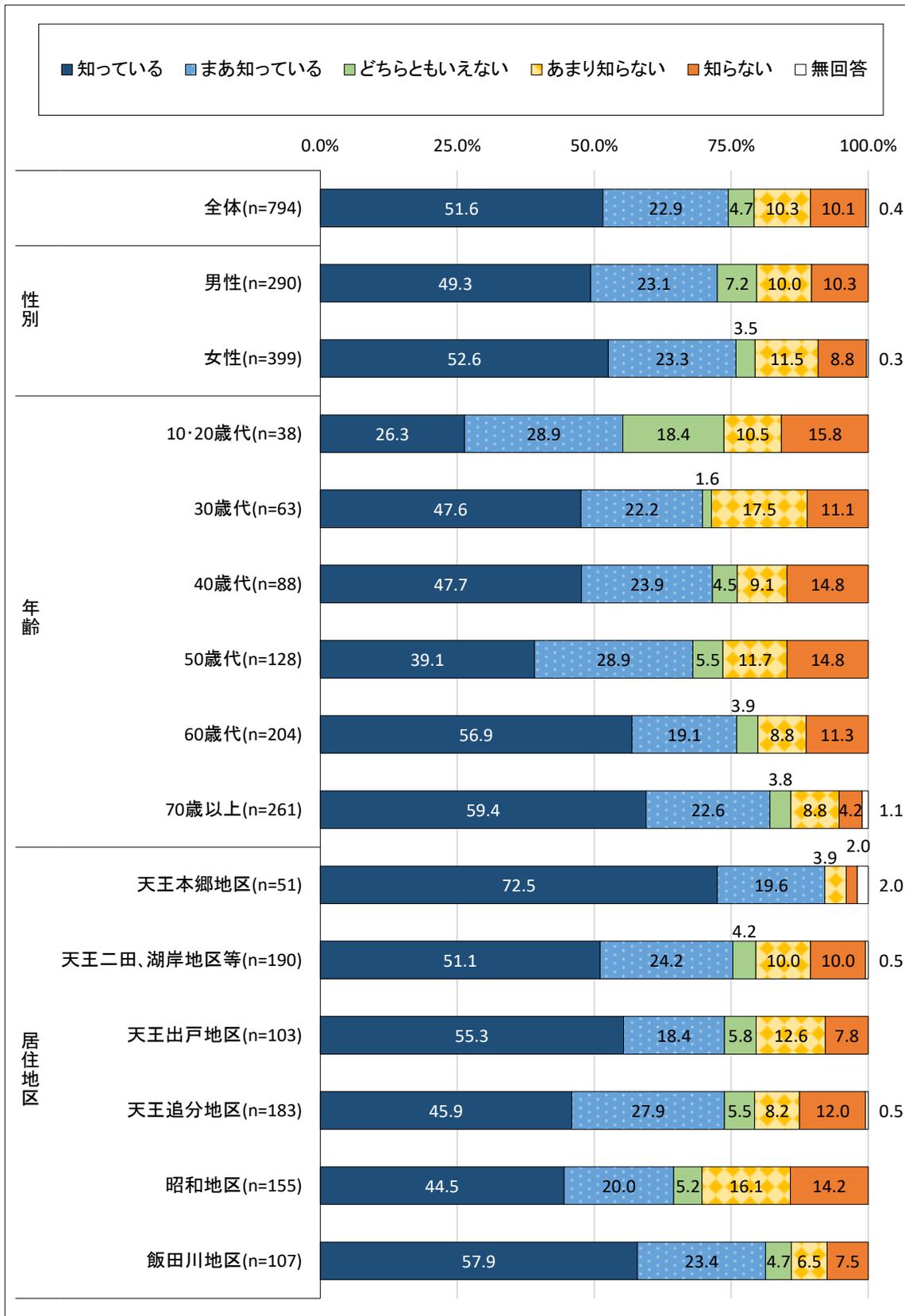
災害時の避難場所を知っているかについて聞いたところ、全体では「知っている」と答えた人が51.6%で最も多く、次いで「まあ知っている」が22.9%で続き、これらを合わせた74.5%の人が“知っている”と答えている。一方、「知らない」(10.1%)と「あまり知らない」(10.3%)を合わせた“知らない”と答えた人は20.4%となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“知っている”の割合は男性が72.7%、女性が75.9%となっており、男女とも7割台とほぼ同様の割合ながら、女性の方の割合が幾分高くなっている。

年齢で見ると、“知っている”割合は70歳以上が82.0%で最も高く、次いで60歳代が76.0%で続いている。一方、10・20歳代では55.2%と最も低く、他の各年代ではいずれも7割前後の割合となっている。総じてみれば10・20歳代を中心に避難場所の周知が必要と言える。

居住地区で見ると、“知っている”の割合は天王本郷地区(92.1%)と飯田川地区(81.3%)で高く、昭和地区では64.5%と最も低くなっている。また、他の3地区ではいずれも7割台となっている。[図表49参照]

図表 49 災害時の避難場所を知っているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑮ 災害時の備蓄品、持ち出し物を準備していますか。



➤ 「準備していない」が42.8%で最も多く、次いで「準備しようと思っている」(37.9%)が続く。また、調査時点で“準備していない”は全体の83.9%であった。

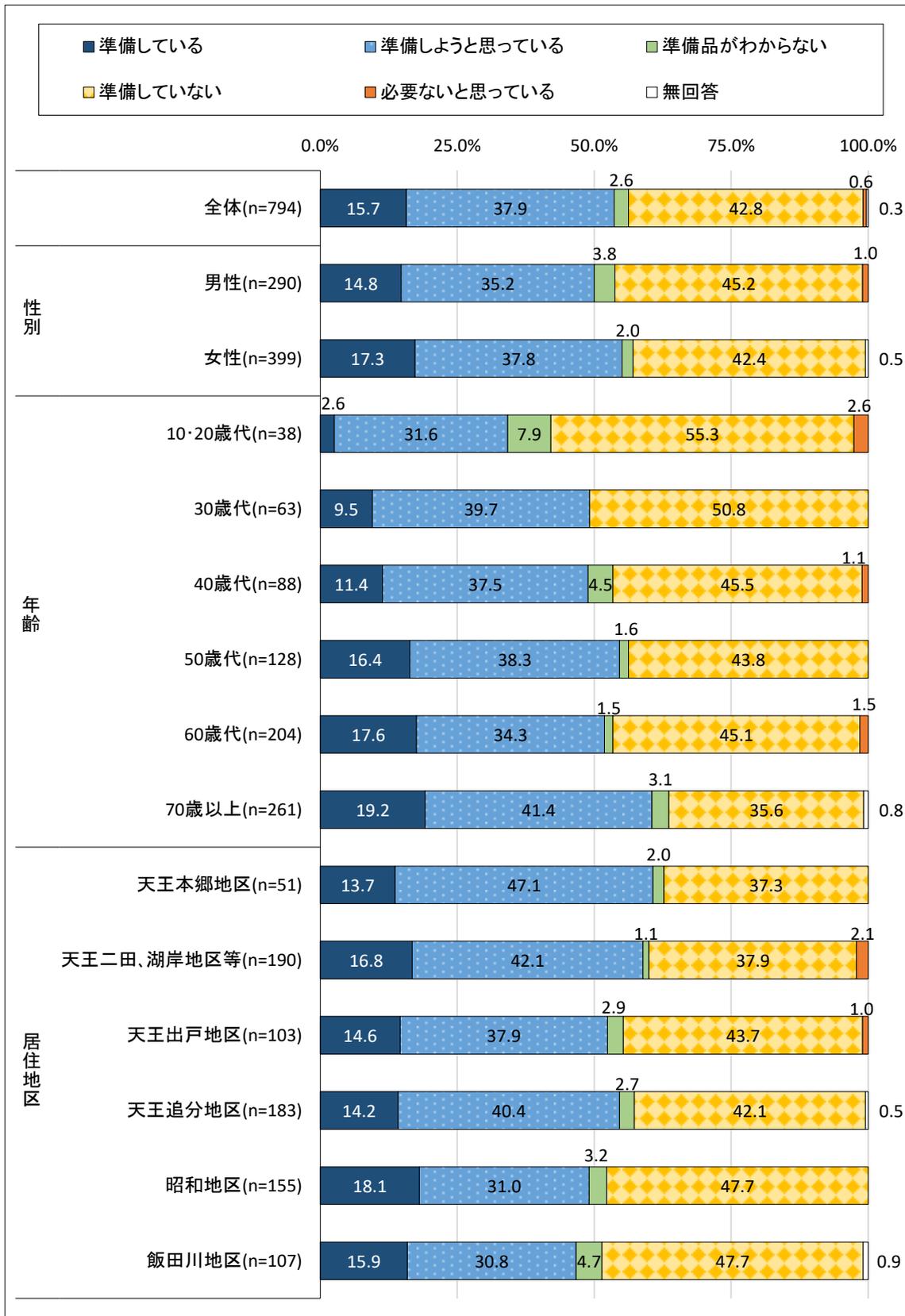
災害時の備蓄品、持ち出し物を準備しているかについて聞いたところ、全体では「準備していない」と答えた人が42.8%で最も多く、これに「必要ないと思っている」(0.6%)と「準備品がわからない」(2.6%)を加えた“全く準備していない”と答えた人は46.0%となっている。また、“全く準備していない”(46.0%)に「準備しようと思っている」(37.9%)を加えた調査時点では“準備していない”との回答は83.9%で、一方、「準備している」は15.7%となっている。

これを属性別でみると、性別では、「準備している」の割合は男性が14.8%、女性が17.8%で、男女とも1割台と低いものの、女性の方が幾分高い割合となっている。一方、調査時点では“準備していない”の割合は男性が85.2%、女性が82.2%となるなど、総じてみれば女性の方に準備の意向が強めに見られた。

年齢でみると、「準備している」の割合は70歳以上が19.2%で最も高く、10・20歳代が2.6%で最も低くなっている。一方、調査時点では“準備していない”の割合は10・20歳代が97.4%と特に高く、70歳以上が80.1%と最も低くなるなど、総じてみれば年代が下がるにつれて準備意識が希薄となる傾向がうかがえた。

居住地区でみると、「準備している」の割合は昭和地区が18.1%で最も高く、天王本郷地区では13.7%と最も低くなっているものの、調査時点の準備の状況については大きな違いは見られず、いずれの地区においても災害に対する個々の備えが必要と言える。また、天王本郷地区では「準備しようと思っている」(47.1%)が4割後半となり、他の地区に比べて高い割合を示している。[図表 50 参照]

図表 50 災害時の備蓄品、持ち出し品を準備しているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑯ 市のさまざまな情報を収集するとき、主にどのように収集しますか。



➤ 第1位は「広報紙」(79.0%)で8割近くを占め、次いで「ホームページ・SNS」(8.3%)が続く。

市の様々な情報を収集するとき、主にどのように収集するかについて聞いたところ、全体では「広報紙」と答えた人が79.0%と8割近くを占めて突出して多く、次いで「ホームページ・SNS」が(8.3%)が続き、以下は、「収集できていない」(5.8%)、「近隣住民・知人・友人」(4.9%)、「議会広報紙」(1.9%)の順となっている。

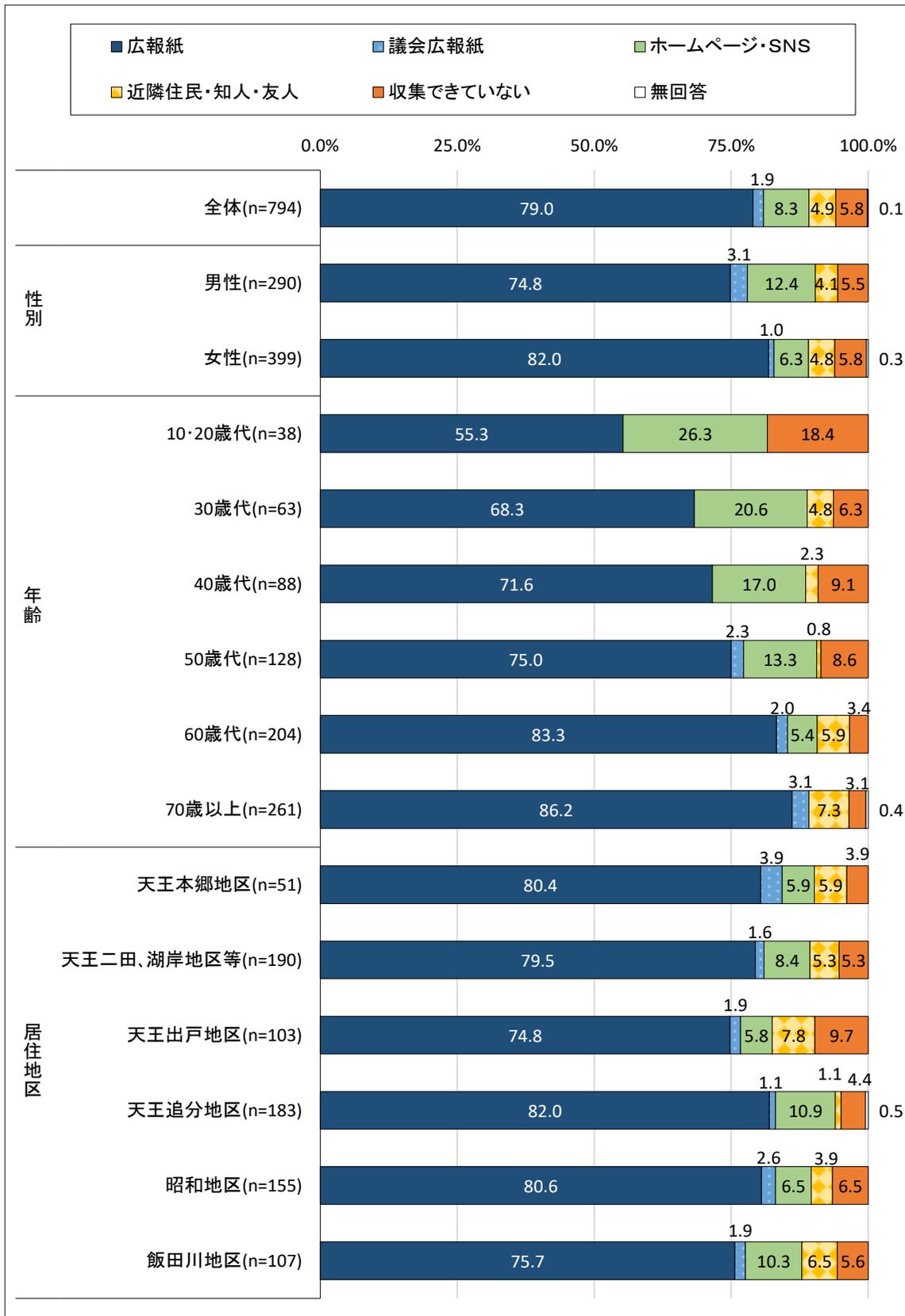
これを属性別でみると、性別では、「広報紙」の割合は男性が74.8%、女性が82.0%と男女とも高い割合ながら、この割合は女性の方が高く、一方、「ホームページ・SNS」の割合は男性が12.4%、女性が6.3%と男性の方が高くなっている。その他の項目については男女間で大きな違いは見られなかった。

年齢でみると、いずれの年代でも「広報紙」が第1位ながら、この割合(55.3%~86.2%)昭和地区(43.3%)加齢とともに高くなっている。第2位は年代間で違いが見られ、10・20歳代から50歳代までは「ホームページ」、60歳代と70歳以上では「近隣住民・知人・友人」となっている。また、「収集できていない」は60歳代を除く各年代で第3位となっているが、10・20歳代では18.4%と他の年代に比べて高い割合を示している。

居住地区でみると、いずれの地区でも「広報紙」が第1位となっており、この割合(74.8%~82.0%)は各地区において7割台から8割台前半と高い割合を占めている。第2位は天王出戸地区を除く他の5地区では「ホームページ・SNS」で、天王出戸地区では「収集できていない」となっている。また、天王本郷地区では「近隣住民・知人・友人」、昭和地区では「収集できていない」がそれぞれ「ホームページ・SNS」と同率で第2位となっている。

前述のとおり、多くの市民が「広報紙」を媒体として市の情報を得ている実状が浮き彫りとなっているが、「収集できていない」とする回答も依然としてあり、こうした結果は、今後の「ホームページ・SNS」など多様な媒体を通じた情報発信の検討の必要性を示唆している。[図表51、52参照]

図表 51 市の情報の収集方法  
(全体／性別、年齢、居住地区)



図表 52 市の情報の収集方法 上位3位  
(全体／性別、年齢、居住地区)

		第1位	第2位	第3位
全体		広報誌 79.0%	ホームページ・SNS 8.3%	収集できていない 5.8%
性別	男性	広報誌 74.8%	ホームページ・SNS 12.4%	収集できていない 5.5%
	女性	広報誌 82.0%	ホームページ・SNS 6.3%	収集できていない 5.8%
年齢別	10・20歳代	広報誌 55.3%	ホームページ・SNS 26.3%	収集できていない 18.4%
	30歳代	広報誌 68.3%	ホームページ・SNS 20.6%	収集できていない 6.3%
	40歳代	広報誌 71.6%	ホームページ・SNS 17.0%	収集できていない 9.1%
	50歳代	広報誌 75.0%	ホームページ・SNS 13.3%	収集できていない 8.6%
	60歳代	広報誌 83.3%	近隣住民・知人・友人 5.9%	ホームページ・SNS 5.4%
	70歳以上	広報誌 86.2%	近隣住民・知人・友人 7.3%	議会広報紙／収集できていない 各 3.1%
居住地区別	天王本郷地区	広報誌 80.4%	ホームページ・SNS／近隣住民・知人・友人 各 5.9%	議会広報紙／収集できていない 各 3.9%
	天王二田、湖岸地区等	広報誌 79.5%	ホームページ・SNS 8.4%	近隣住民・知人・友人／収集できていない 各 5.3%
	天王出戸地区	広報誌 74.8%	収集できていない 9.7%	近隣住民・知人・友人 7.8%
	天王追分地区	広報誌 82.0%	ホームページ・SNS 10.9%	収集できていない 4.4%
	昭和地区	広報誌 80.6%	ホームページ・SNS／収集できていない 各 6.5%	近隣住民・知人・友人 3.9%
	飯田川地区	広報誌 75.7%	ホームページ・SNS 10.3%	近隣住民・知人・友人 6.5%

問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑰ 平日（一日あたり）に家族で話をする時間はどのくらいですか。この質問には、おおよその時間を数字でご記入下さい。



➤ 第1位は「3時間以上」(30.1%)、第2位は「1時間～2時間」(24.8%)

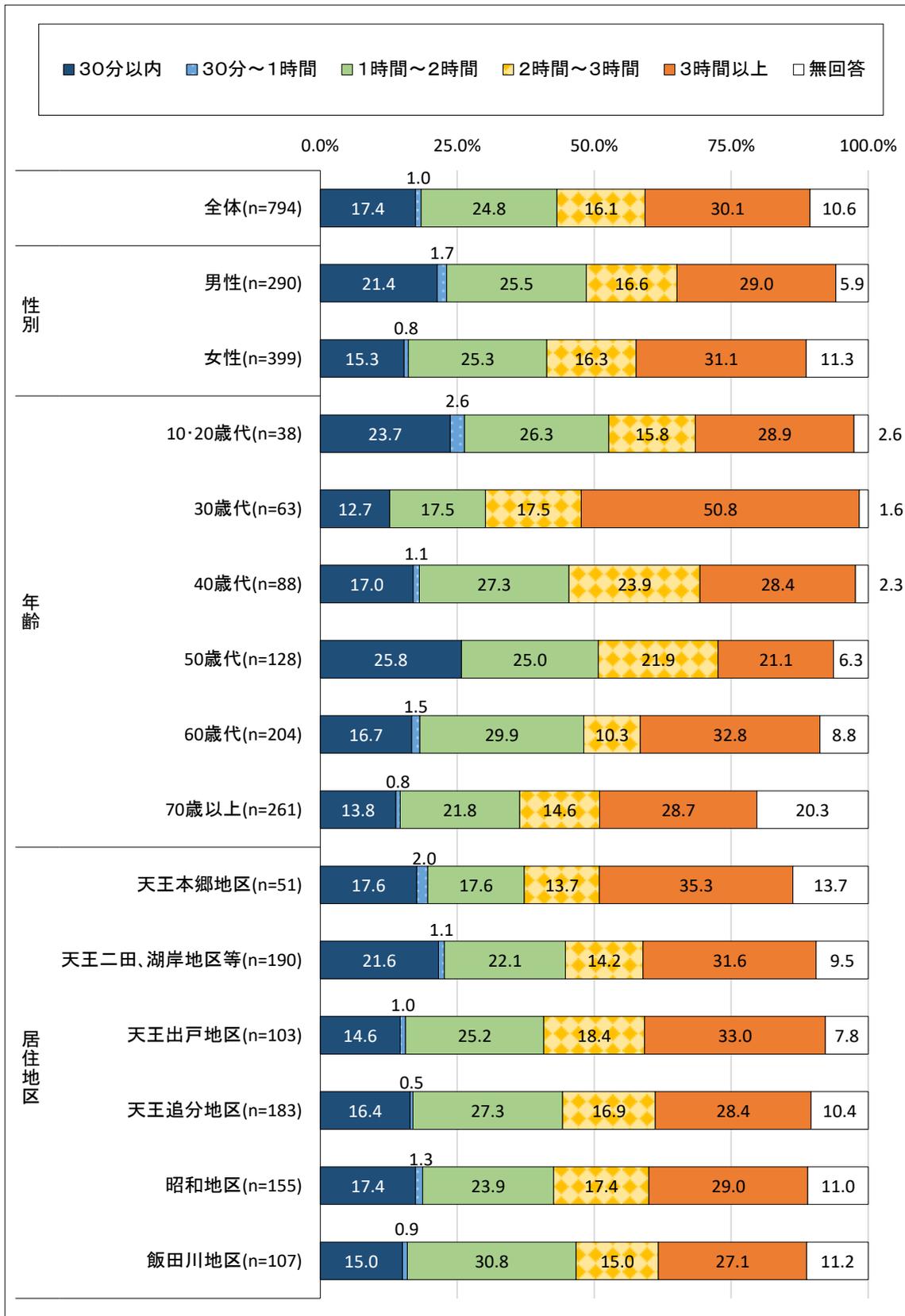
平日（一日あたり）に家族で話をする時間はどのくらいかについて聞いたところ、全体では「3時間以上」と答えた人が30.1%で最も多く、次いで「1時間～2時間」が24.8%で続き、以下は、「30分以内」(17.4%)、「2時間～3時間」(16.1%)、「30分～1時間」(1.0%)の順となっている。

これを属性別で見ると、性別では、「3時間以上」との回答は男性が29.0%、女性が31.1%と男女とも最も割合が高く、以下についてもほぼ同様の割合ながら、「30分以内」については男性が21.4%、女性が15.3%と男性の方が高めの割合となっている。

年齢で見ると、30歳代の50.8%をはじめとして、50歳代を除く他の各年代では「3時間以上」の割合が最も高く、50歳代では「30分以内」(25.8%)が最も高い割合となっている。また、「1時間～2時間」は総じて各年代で2割台と高めの割合を示している。

居住地区で見ると、地区間で順位や割合に幾分違いがあるものの、飯田川地区で「1時間～2時間」(30.8%)、「3時間以上」(27.1%)の順となったほかは、天王本郷地区の35.3%をはじめとして、いずれの地区でも「3時間以上」の割合が最も高く、次いで「1時間～2時間」が続いている。[図表53参照]

図表 53 平日に家族で話をする時間  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑱ 趣味や自分の好きなことに使える時間（仕事以外）はどのくらいありますか。



➤ “多い”が54.9%、一方、“多くない”が30.4%

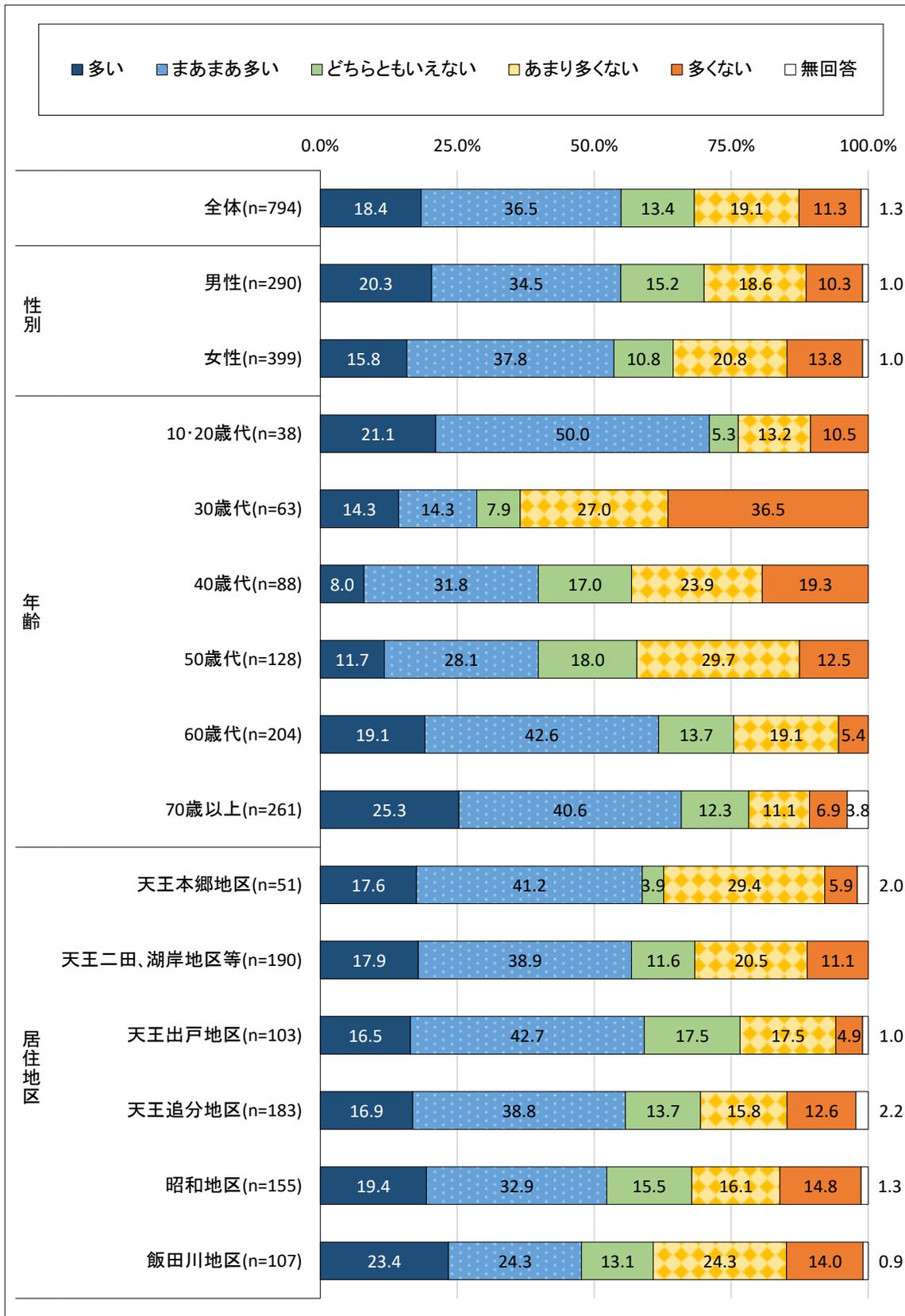
趣味や自分の好きなことに使える時間（仕事以外）はどのくらいかについて聞いたところ、全体では「まあまあ多い」と答えた人が36.5%で最も多く、これに「多い」（18.4%）を加えた54.9%の人が“多い”と答えている。一方、「多くない」（11.3%）と「あまり多くない」（19.1%）を合わせた“多くない”と答えた人は30.4%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“多い”の割合は男性が54.8%、女性が53.6%と男女ともほぼ同様の割合ながら、このうち「多い」の割合は20.3%、女性が15.8%と男性の方が高く、自分の好きなことに使える時間は男性の方が幾分多い傾向がうかがえる。

年齢でみると、“多い”の割合は10・20歳代が71.1%で最も高く、70歳以上（65.9%）と60歳代（61.7%）でも6割台と高い割合を示している。一方、30歳代の28.6%をはじめとして、40歳代と50歳代（各39.8%）では低い割合となっている。

居住地区でみると、“多い”の割合は天王出戸地区（59.2%）の6割近くをはじめとして、飯田川地区（47.7%）を除く他5地区ではいずれも5割台となっている。[図表54参照]

図表 54 趣味や自分の好きなことに使える時間  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についてうかがいます。

⑱ 自分らしい暮らし方ができていますか。



➤ “できている”が60.3%、一方、“できていない”が17.6%

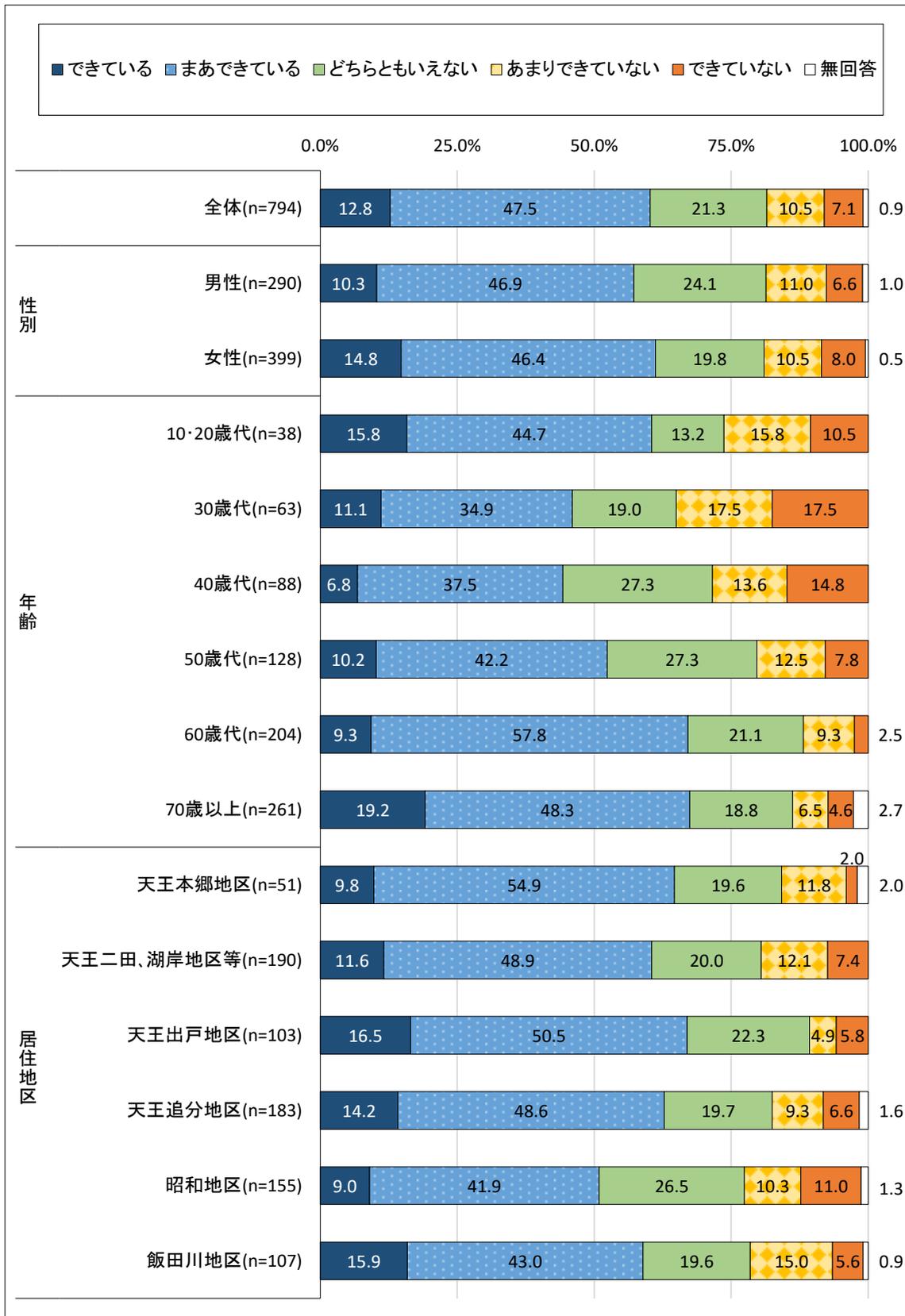
自分らしい暮らし方ができているかについて聞いたところ、全体では「まあできている」と答えた人が47.5%で最も多く、これに「できている」(12.8%)を加えた60.3%の人が“できている”と答えている。一方、「できていない」(7.1%)と「あまりできていない」(10.5%)を合わせた“できていない”と答えた人は17.6%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は21.3%と高めの割合を示している。

これを属性別でみると、性別では、“できている”も割合は男性が57.2%、女性が61.2%と女性が幾分高く、自分らしい暮らし方ができているとの実感は女性の方に強めにかがえる。

年齢でみると、“できている”の割合はでは10・20歳代(60.5%)から40歳代(44.3%)までは加齢とともに低くなっており、その後は加齢とともに高くなり70歳以上が67.5%と最も割合が高くなっている。

居住地区でみると、“できている”の割合は昭和地区(50.9%)と飯田川地区(58.9%)では5割台ながら、天王出戸地区(67.0%)をはじめとして、その他の4地区はいずれも6割台となっている。[図表55参照]

図表 55 自分らしい暮らし方ができているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(1) あなたの生活についていかがいます。

⑳ あなたは、全体として、今の生活にどの程度満足していますか。



➤ “満足”が60.0%、一方、“不満”が17.0%

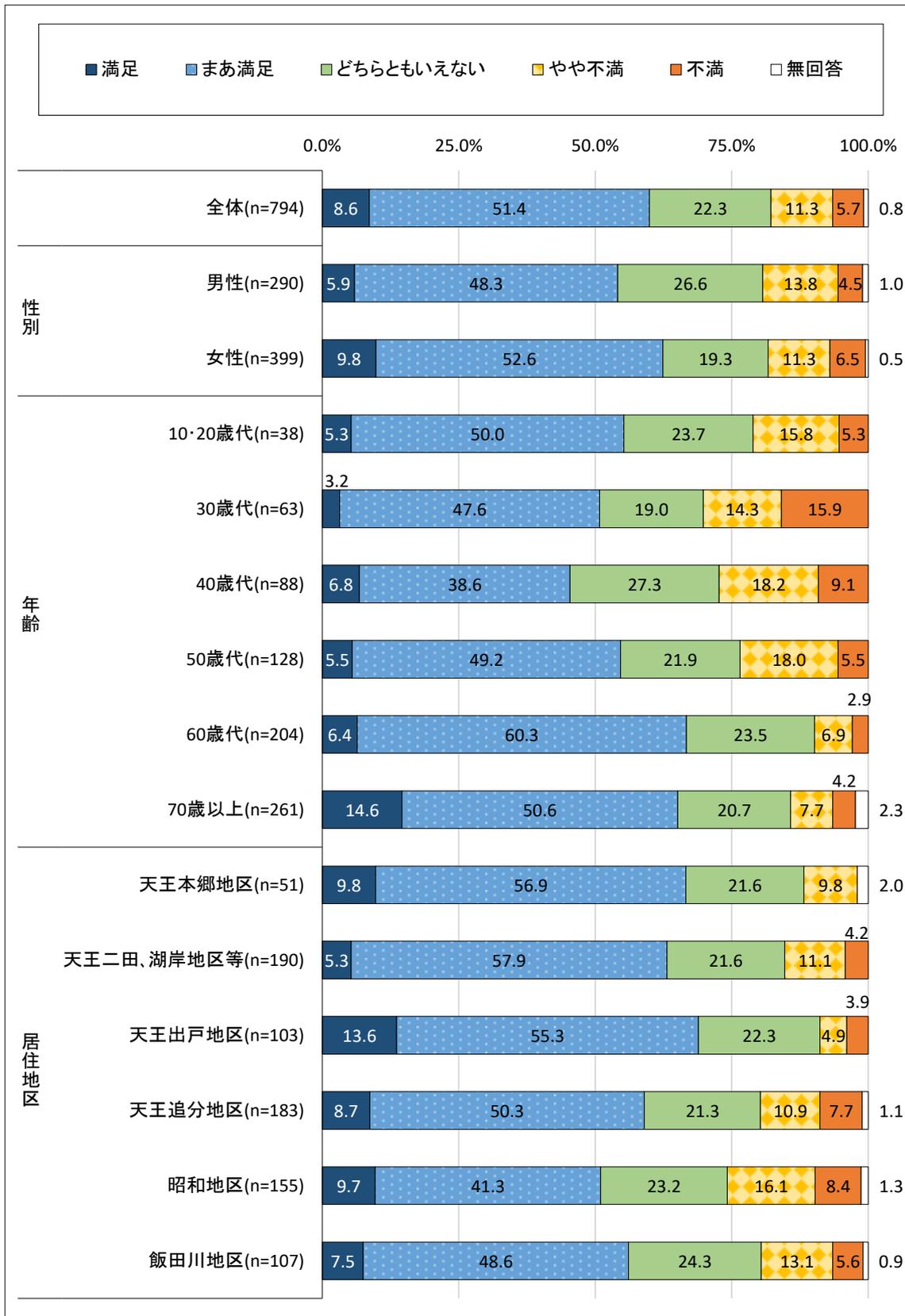
全体として、今の生活にどの程度満足しているかについて聞いたところ、全体では「まあ満足」と答えた人が51.4%で最も多く、これに「満足」(8.6%)を加えた60.0%の人が“満足”と答えている。一方、「不満」(5.7%)と「やや不満」(11.3%)を合わせた“不満”と答えた人は17.0%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は22.3%と高めの割合を示している。

これを属性別で見ると、性別では、“満足”の割合は男性が54.2%、女性が62.4%と女性の割合の方が高く、今の生活に対する満足感は女性の方に強めにかがえる。

年齢で見ると、“満足”の割合は60歳代(66.7%)と70歳以上(65.2%)で6割台と高く、40歳代では45.4%と最も低くなっている。今の生活に対する満足感については、10・20歳代から40歳代までは加齢とともに低下し、以降の年代では加齢とともに高まる傾向が見られる。

居住地区で見ると、“満足”の割合は天王出戸地区(68.9%)、天王本郷地区(66.7%)、天王二田、湖岸地区等(63.2%)で6割台ながら、昭和地区(51.0%)、飯田川地区(56.1%)、天王追分地区(59.0%)では5割台となっている。また、昭和地区では“不満”(24.5%)が2割台と他の地区よりも高い割合となっている。[図表56参照]

図表 56 今の生活にどの程度満足しているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



## (2) 仕事について

問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(2) 広い意味での「仕事」についておたずねします。(ボランティアなども含みます)

① 自分の仕事にやりがいを感じますか。



➤ “感じる”が56.2%、一方、“感じない”が13.9%

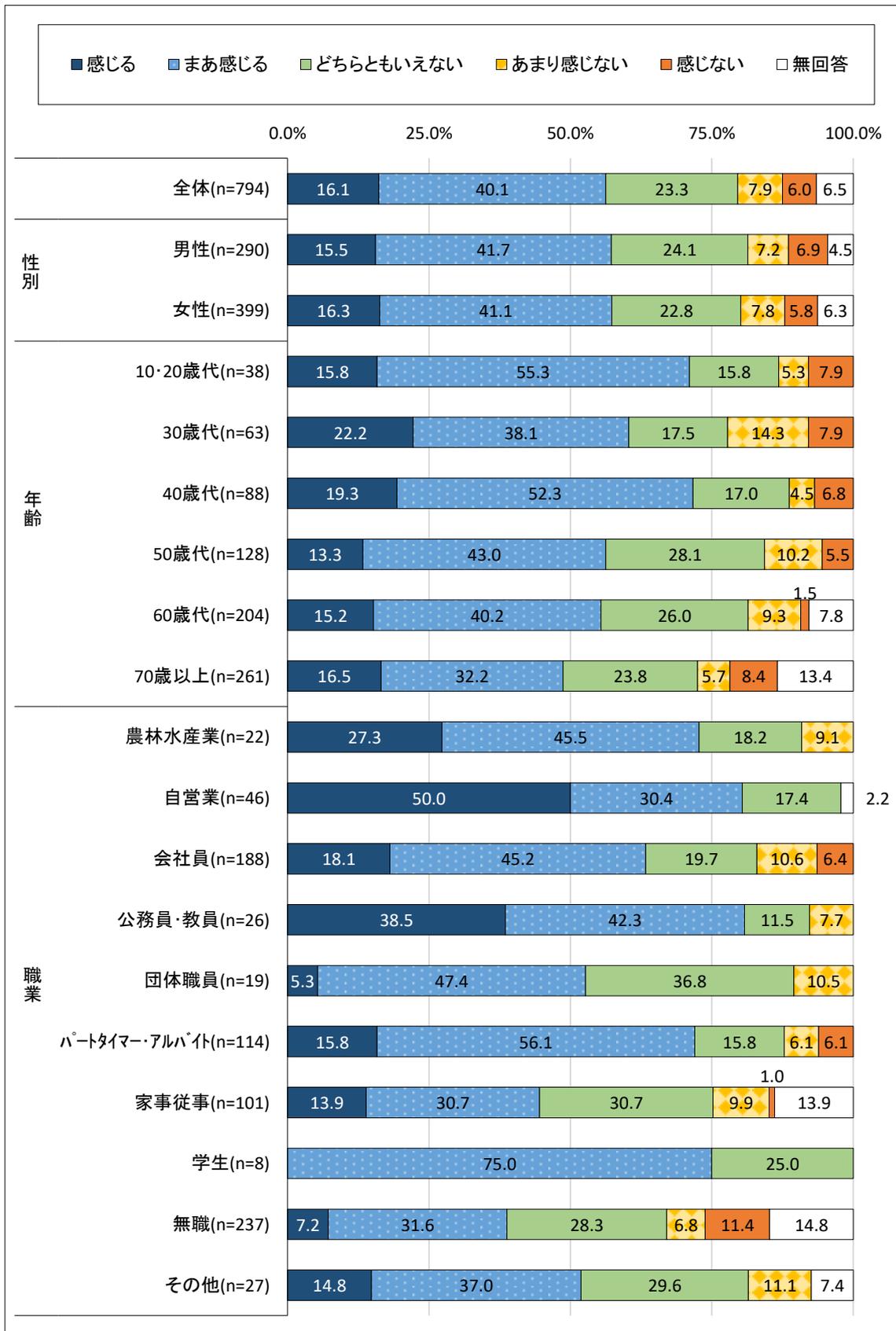
自分の仕事にやりがいを感じているかについて聞いたところ、全体では「まあ感じる」と答えた人が40.1%で最も多く、これに「感じる」(16.1%)を加えた56.2%の人が“感じる”と答えている。一方、「感じない」(6.0%)と「あまり感じない」(7.9%)を合わせた“感じない”と答えた人は13.9%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は23.3%と高めの割合となっている。

これを属性別でみると、性別では、“感じる”の割合は男性が57.2%、女性が57.4%とほぼ同様の割合となるなど、仕事のやりがいについては、男女ともほぼ同様の実感を示している。

年齢でみると、“感じる”の割合は40歳代(71.6%)と10・20歳代(71.1%)が7割台で高く、一方、70歳以上(48.7%)が4割台と最も低くなっている。また、“感じない”の割合は30歳代(22.2%)で2割台と他の年代より高めの割合となっている。

職業(有職者)でみると、“感じる”の割合は公務員・教員(80.8%)と自営業(80.4%)で8割強と高く、一方、団体職員(52.7%)と会社員(63.3%)は低くなっている。また、“感じない”との回答は会社員(17.0%)が他の職種よりも高め割合を示している。[図表57参照]

図表 57 仕事にやりがいを感じるか  
(全体／性別、年齢、職業)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。  
(2) 広い意味での「仕事」についておたずねします。(ボランティアなども含みます)  
② 仕事を通して技術や能力が高まっていると感じますか。



➤ “感じる”が42.7%、一方、“感じない”が20.0%

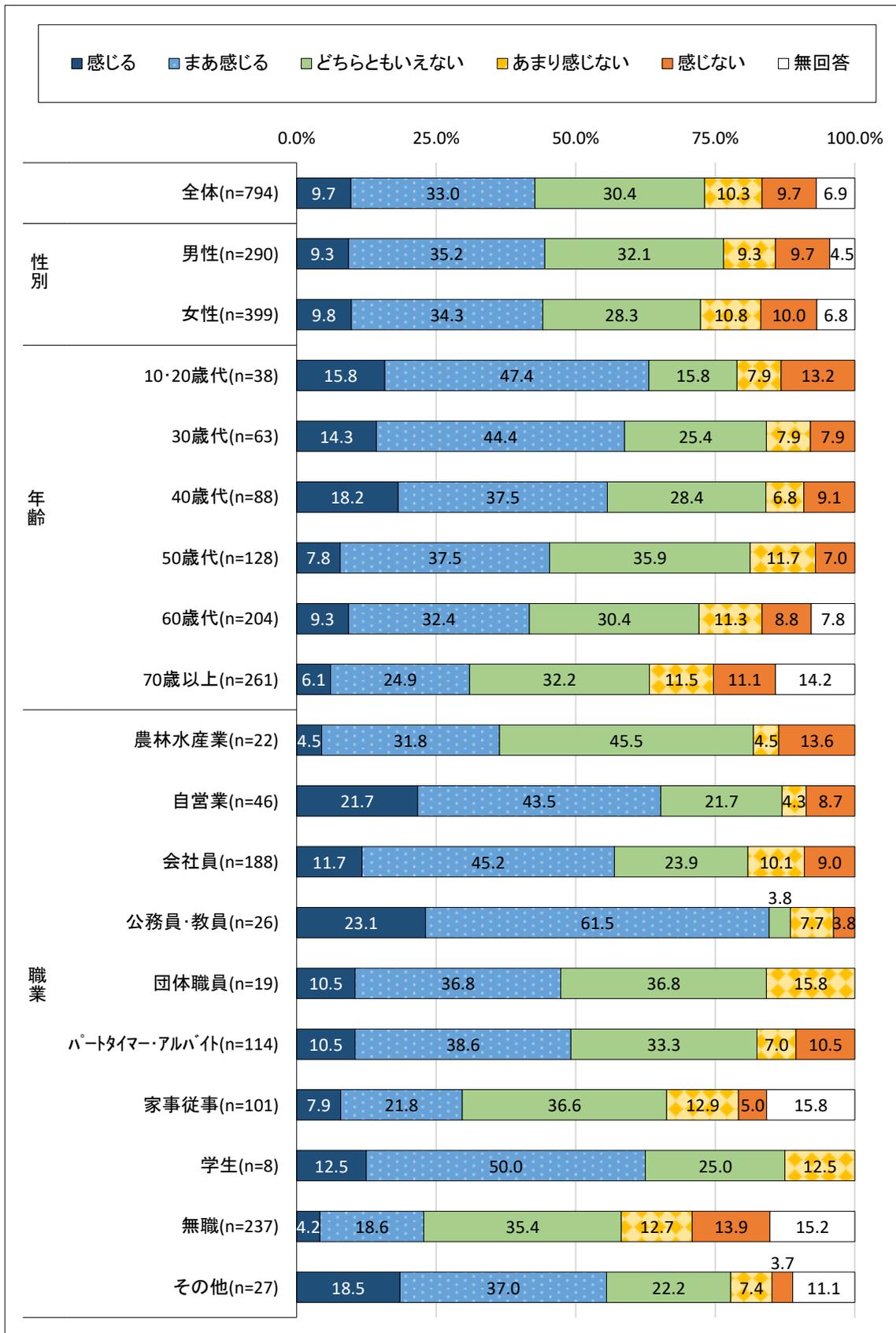
仕事を通して技術や能力が高まっていると感じているかについて聞いたところ、全体では「まあ感じる」と答えた人が33.0%で最も多く、これに「感じる」(9.7%)を加えた42.7%の人が“感じる”と答えている。一方、「感じない」(9.7%)と「あまり感じない」(10.3%)を合わせた“感じない”と答えた人は20.0%となっている。また、「どちらともいえない」(30.4%)は3割強となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“感じる”の割合は男性が44.5%、女性が44.1%とほぼ同様の割合となるなど、仕事を通じた技術や能力の高まりについては、男女ともほぼ同様の認識を示している。

年齢で見ると、“感じる”の割合は10・20歳代が63.2%で最も高く、一方、70歳以上では31.0%と最も低くなっており、この割合は加齢とともに低下している。

職業で見ると、“感じる”割合は公務員・教員が84.6%で最も高く、自営業(65.2%)と会社員(56.9%)も5割を超えている。一方、農林水産業の36.3%をはじめとして、団体職員(47.3%)やパートタイマー・アルバイト(49.1%)では5割以下となっている。[図表58参照]

図表 58 技術や能力が高まっていると感じるか  
(全体／性別、年齢、職業)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。  
(2) 広い意味での「仕事」についておたずねします。(ボランティアなども含みます)  
③ 仕事と自分の生活の両立ができていると思いますか。



➤ “そう思う”が52.7%、一方、“そう思わない”が16.0%

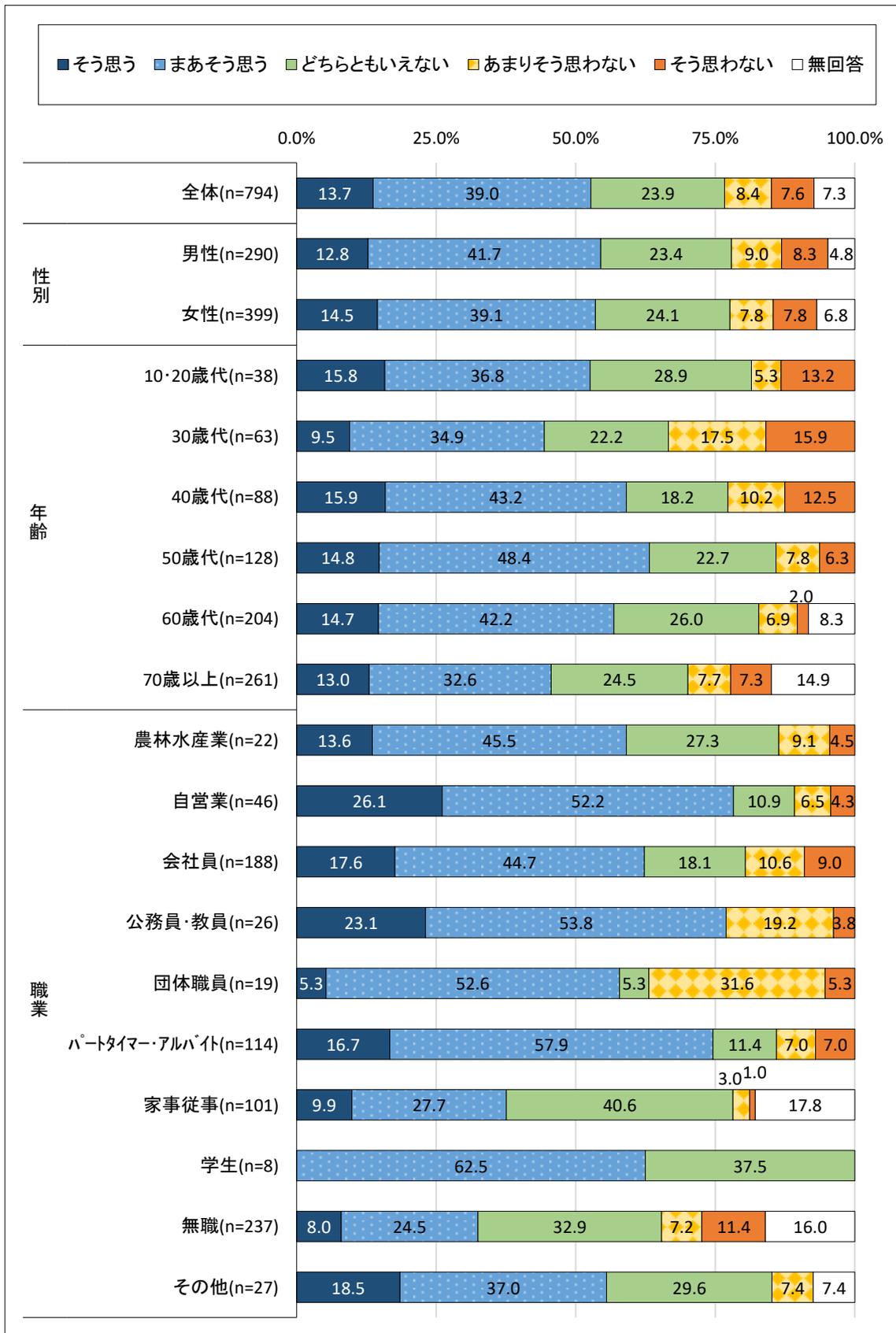
仕事と自分の生活の両立ができていると思うかについて聞いたところ、全体では「まあそう思う」と答えた人が39.0%で最も多く、これに「そう思う」(13.7%)を加えた52.7%の人が“そう思う”と答えている。一方、「そう思わない」(7.6%)と「あまりそう思わない」(8.4%)を合わせた“そう思わない”と答えた人は16.0%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は23.9%と高めの割合を示している。

これを属性別でみると、性別では、“そう思う”の割合は男性が54.5%、女性が53.6%とほぼ同様の割合となるなど、仕事と自分の生活の両立については、男女ともほぼ同様の認識を示している。

年齢でみると、“そう思う”の割合は50歳代が63.2%で最も高く、一方、30歳代(44.4%)と70歳以上(45.6%)では4割台と低くなっている。また、“そう思わない”の割合は30歳代で33.4%と最も高く、40歳代(22.7%)でも2割台と他の年代より高めの割合を示している。

職業(有職者)でみると、“そう思う”の割合は自営業(78.3%)、公務員・教員(76.9%)、パートタイマー・アルバイト(74.6%)で7割台となり、これに会社員(62.3%)が6割台、団体職員(57.9%)が5割台で続いている。[図表59参照]

図表 59 仕事と生活の両立ができていると思うか  
(全体／性別、年齢、職業)



(3) あなたと地域との関わりについて

問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

① 頼りになる知り合いが近所にいますか。



➤ “いる”が58.2%、一方、“いない”が22.5%

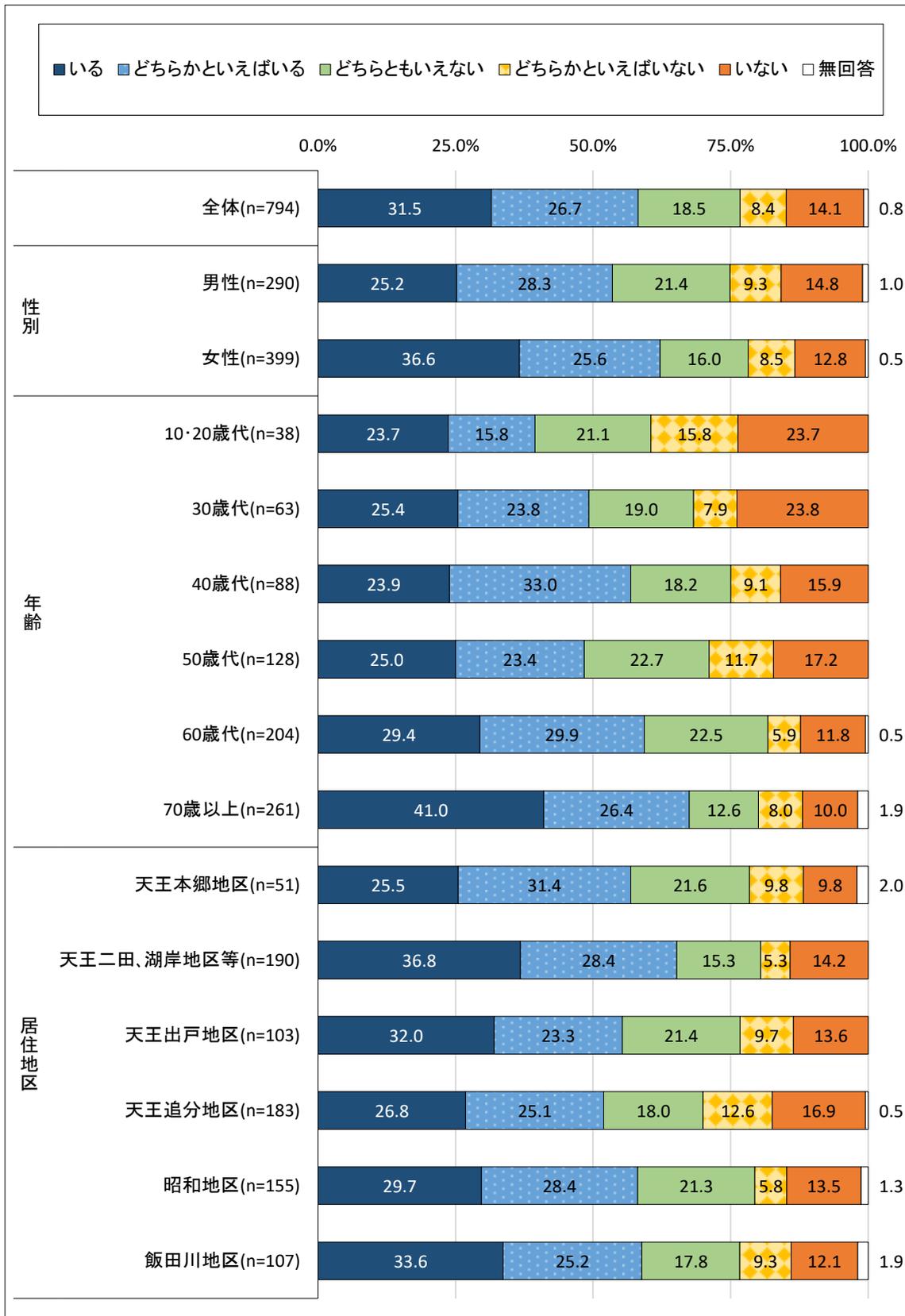
頼りになる知り合いが近所にいるかについて聞いたところ、全体では「いる」と答えた人が31.5%で最も多く、次いで「どちらかといえばいる」が26.7%で続き、これらを合わせた58.2%の人が“いる”と答えている。一方、「いない」(14.1%)と「どちらかといえばいない」(8.4%)を合わせた“いない”と答えた人は22.5%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“いる”の割合は男性が53.5%、女性が62.2%と女性が高く、頼りになる知り合いが近所にいるとの認識は女性の方により強く見られる。

年齢でみると、“いる”の割合は70歳以上が67.4%で最も高く、一方、10・20歳代では39.5%と最も低くなっており、他の各年代では4割台後半から5割台となっている。また、“いない”の割合は10・20歳代(39.5%)で4割近くと最も高く、30歳代(31.7%)でも3割台と他の年代より高い割合を示している。

居住地区でみると、“いる”の割合は天王二田、湖岸地区等が65.2%で最も高く、飯田川地区(58.8%)や昭和地区(58.1%)など、その他の4地区ではいずれも5割台となっている。[図表60参照]

図表 60 頼りになる知り合いが近所にいるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

② 子育てについて地域で支え合う雰囲気がありますか。



➤ 「どちらともいえない」が41.8%で最多。

➤ “ある”が28.7%、一方、“ない”が22.4%

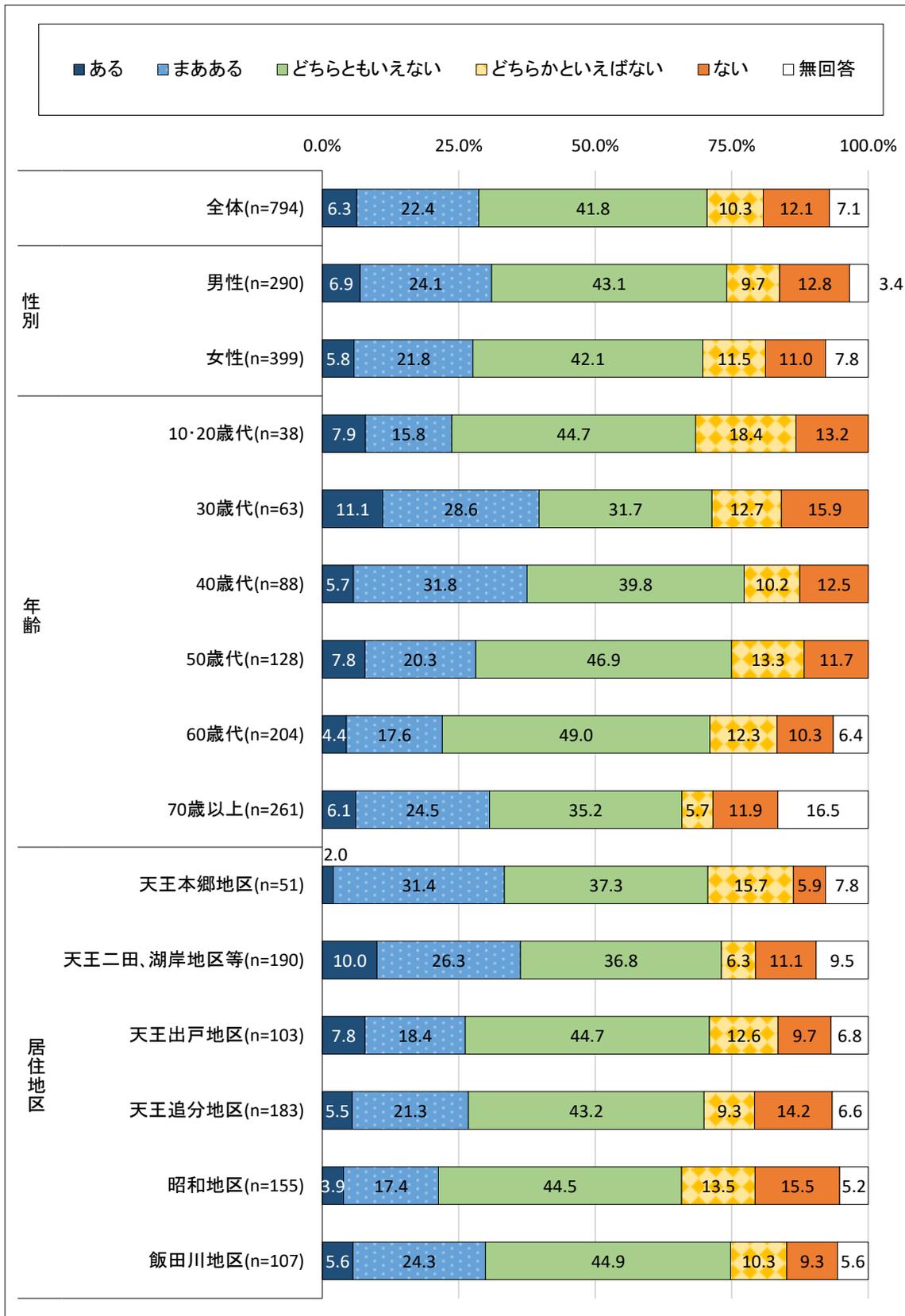
子育てについて地域で支え合う雰囲気があるかについて聞いたところ、全体では「どちらともいえない」と答えた人が41.8%で最も多く、次いで「まあある」が22.4%で続き、これに「ある」(6.3%)を加えた28.7%の人が“ある”と答えている。一方、「ない」(12.1%)と「どちらかといえない」(10.3%)を合わせた“ない”と答えた人は22.4%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“ある”の割合は男性が31.0%、女性が27.6%と男性の方が幾分高いものの、“ない”の割合は男女とも22.5%となるなど、大きな違いは見られていない。

年齢でみると、“ある”の割合は30歳代(39.7%)と40歳代(37.5%)が3割台後半で高く、60歳代(22.0%)と10・20歳代(23.7%)では2割代前半と低くなっている。また、「どちらともいえない」の割合は60歳代の49.0%をはじめとして、50歳代(46.9%)と10・20歳代(44.7%)でも4割台となり、その他の年代はいずれも3割台となっている。

居住地区でみると、“ある”の割合は天王二田、湖岸地区等(36.3%)と天王本郷地区(33.4%)が3割台で高く、その他の4地区ではいずれも2割台となっている。また、「どちらかといえない」の割合は各地区とも3割台後半から4割台前半と総じて高い割合を示し、“ない”の割合は昭和地区(29.0%)で3割近くとその他の地区より高い割合となっている。[図表 61 参照]

図表 61 子育てについて地域で支えあう雰囲気があるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

③ 地域の行事によく参加しますか。



➤ “参加しない”が49.5%、一方、“参加する”が37.0%

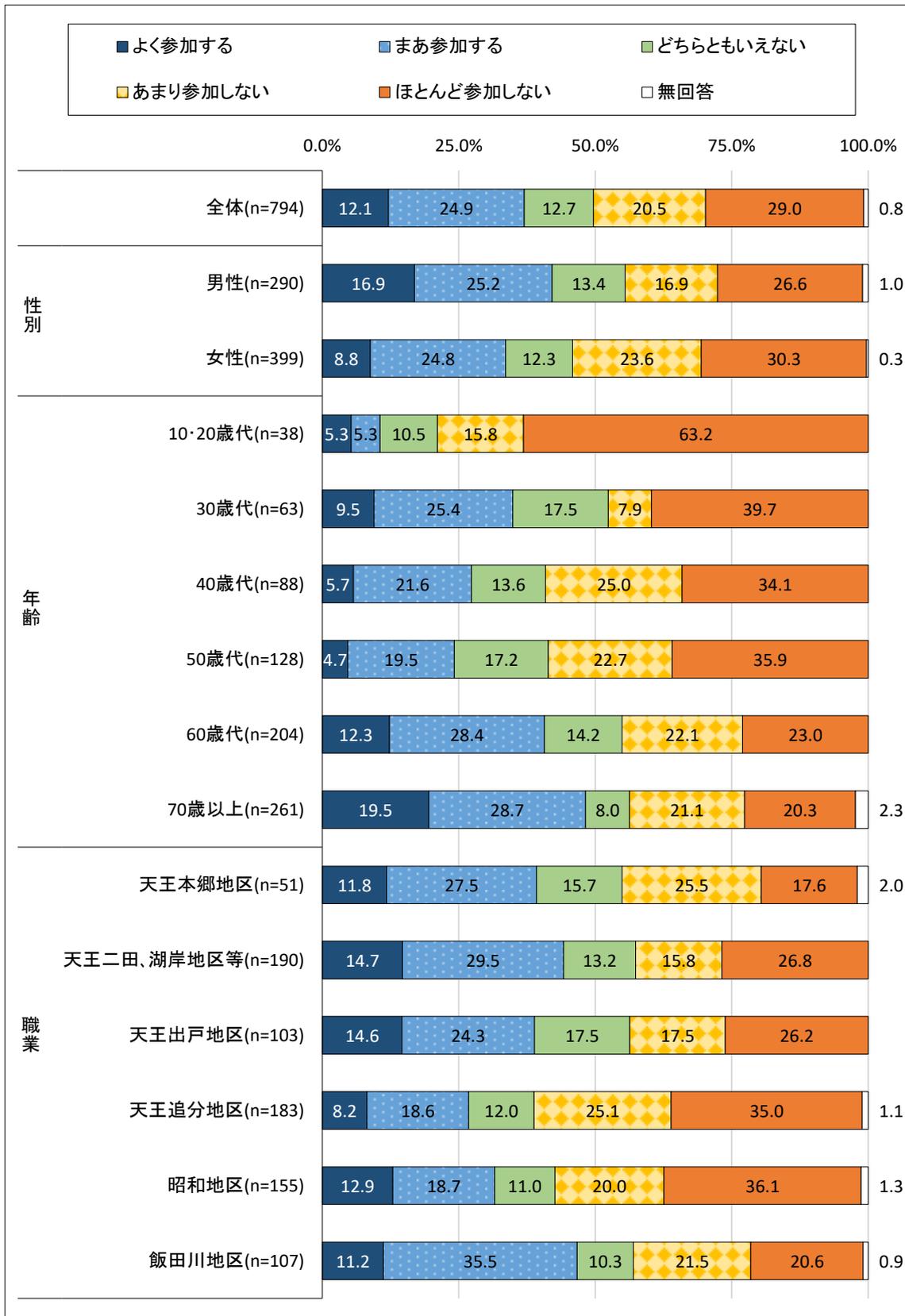
地域の行事によく参加するかについて聞いたところ、全体では「ほとんど参加しない」と答えた人が29.0%で最も多く、これに「あまり参加しない」(20.5%)を加えた49.5%の人が“参加しない”と答えている。一方、「よく参加する」(12.1%)と「まあまあ参加する」(24.9%)を合わせた“参加する”と答えた人は37.0%となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“参加する”の割合は男性が42.1%、女性が33.6%と男性が高く、一方、“参加しない”の割合では男性が43.5%、女性が53.9%と女性の方が高いなど、地域行事の参加については男性の方に積極性がうかがえる。

年齢で見ると、“参加する”の割合は70歳以上(48.2%)と60歳代(40.7%)で4割台と高く、一方、10・20歳代では10.6%と最も低くなっており、その他の各年代では2割台から3割台前半となっている。また、“参加しない”の割合は10・20歳代が79.0%で最も高く、40歳代(59.1%)と50歳代(58.6%)でも6割近くと高い割合となっている。

居住地区で見ると、“参加する”では飯田川地区(46.7%)と天王二田、湖岸地区等(44.2%)が4割台と高く、一方、天王追分地区は26.8%で最も低くなっている。[図表62参照]

図表 62 地域の行事によく参加するか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

④ 地域に自分の活躍の場がありますか。



➤ “ない”が46.9%、一方、“ある”が24.1%

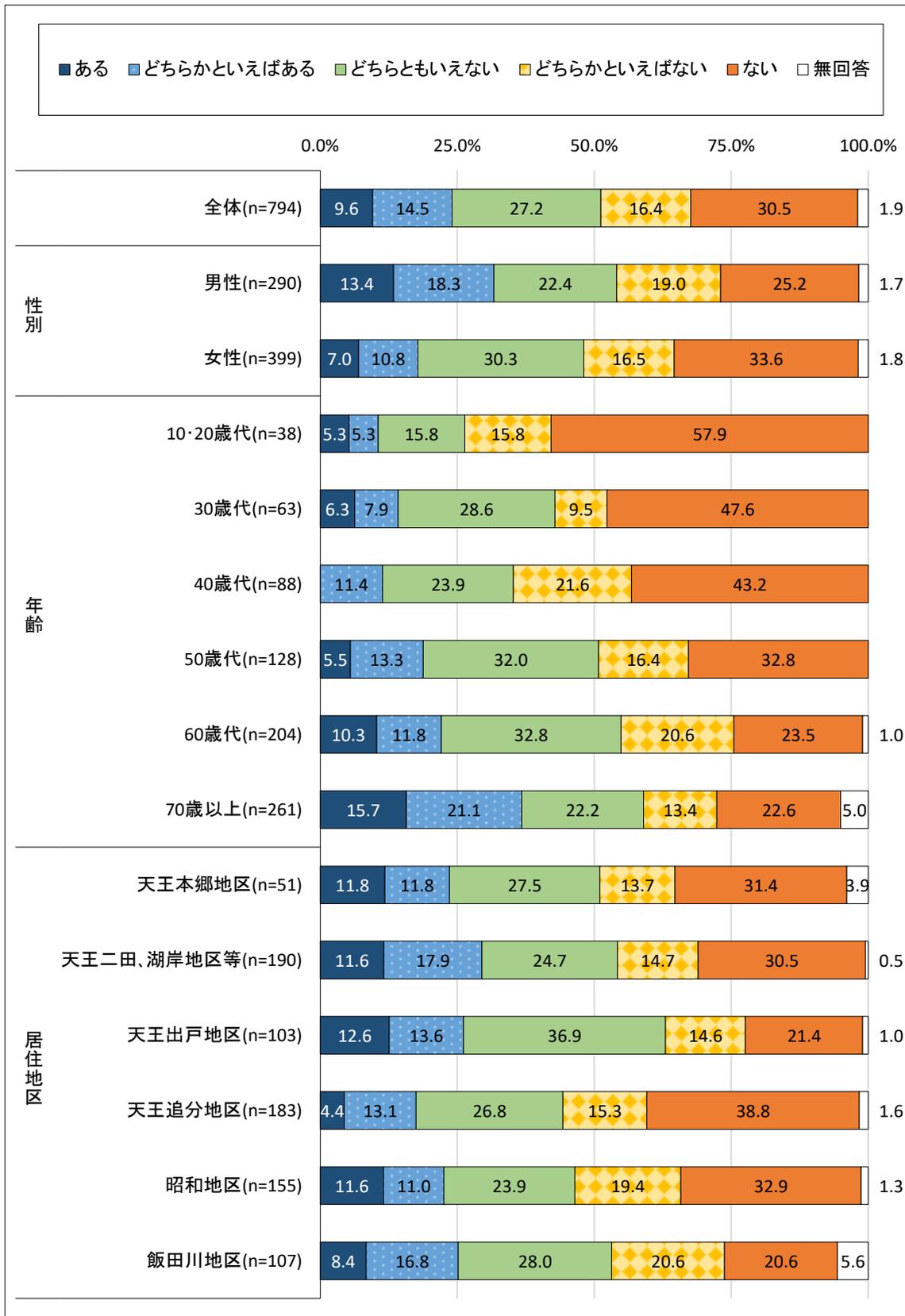
地域に自分の活躍の場があるかについて聞いたところ、全体では「ない」と答えた人が30.5%で最も多く、これに「どちらかといえばない」(16.4%)を加えた46.9%の人が“ない”と答えている。一方、「ある」(9.6%)と「どちらかといえばある」(14.5%)を合わせた“ある”と答えた人は24.1%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は27.2%と高めの割合を示している。

これを属性別でみると、性別では、“ある”の割合は男性が31.7%、女性が17.8%で、一方、“ない”割合は男性が44.2%、女性が50.1%となっており、地域において特に女性の活躍の場が少ないことがうかがえる結果となっている。

年齢でみると、“ある”の割合は70歳以上が36.8%で最も高く、一方、10・20歳代の10.6%をはじめとして、30歳代(14.2%)と40歳代(11.4%)ではいずれも1割台前半と低い割合となっている。また、50歳代(18.8%)と60歳代(22.1%)では2割前後の割合となっている。

居住地区でみると、“ある”の割合は天王追分地区(17.5%)では1割台ながら、天王二田、湖岸地区等の29.5%をはじめとして、その他の5地区ではいずれも2割台となっている。[図表63参照]

図表 63 地域に自分の活躍の場があるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

⑤ 地域内の異なる世代の人とつきあいがありますか。



➤ “ない”が44.0%、一方、“ある”が42.4%

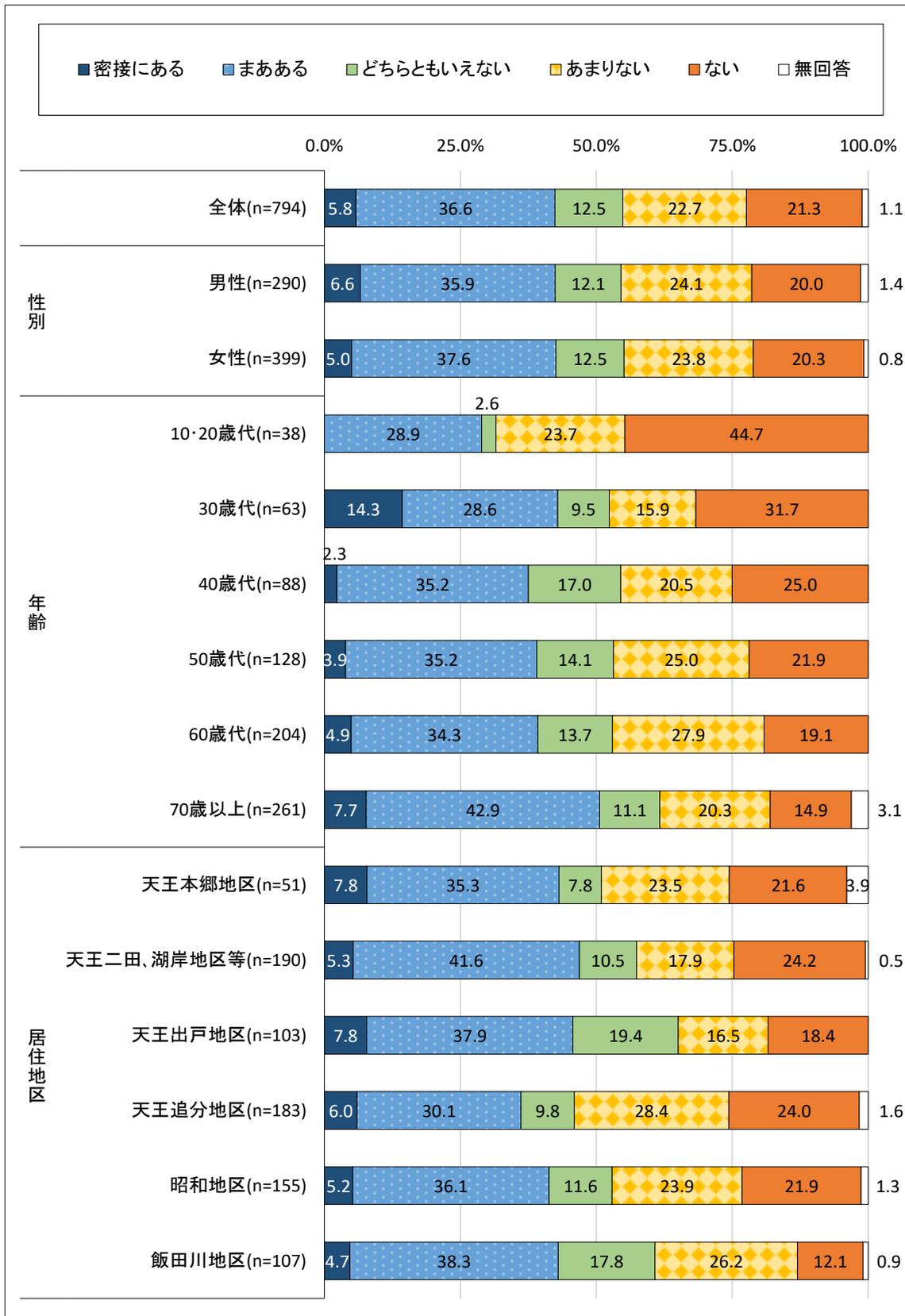
地域内の異なる世代の人とつきあいがあるかについて聞いたところ、全体では「まあある」と答えた人が36.6%で最も多く、これに「密接にある」(5.8%)を加えた42.4%の人が“ある”と答えている。一方、「ない」(21.3%)と「あまりない」(22.7%)を合わせた“ない”と答えた人は44.0%となっている。

これを属性別で見ると、性別では、“ある”の割合は男性が42.5%、女性が42.6%となるなど、総じて男女ともほぼ同様の割合を示している。

年齢で見ると、“ある”の割合は70歳以上が50.6%で最も高く、一方、10・20歳代が28.9%と最も低くなっている。その他の年代については総じて4割前後と大きな違いは見られなかった。

居住地区で見ると、“ある”割合は天王追分地区(36.1%)では3割台ながら、天王二田、湖岸地区等(46.9%)など他の5地区ではいずれも4割台と大きな違いはなかった。また、“ない”の割合は天王追分地区(52.4%)では5割台と高く、天王出戸地区(34.9%)と飯田川地区(38.3%)では3割台と低くなっている。[図表64参照]

図表 64 地域内の異なる世代の人とつきあいがあるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

⑥ 災害時に特に（真っ先に）支援を期待する方はどなたですか。



➤ 第1位は「家族・近所の人」(58.4%)、第2位は「消防・警察・自衛隊」(20.3%)

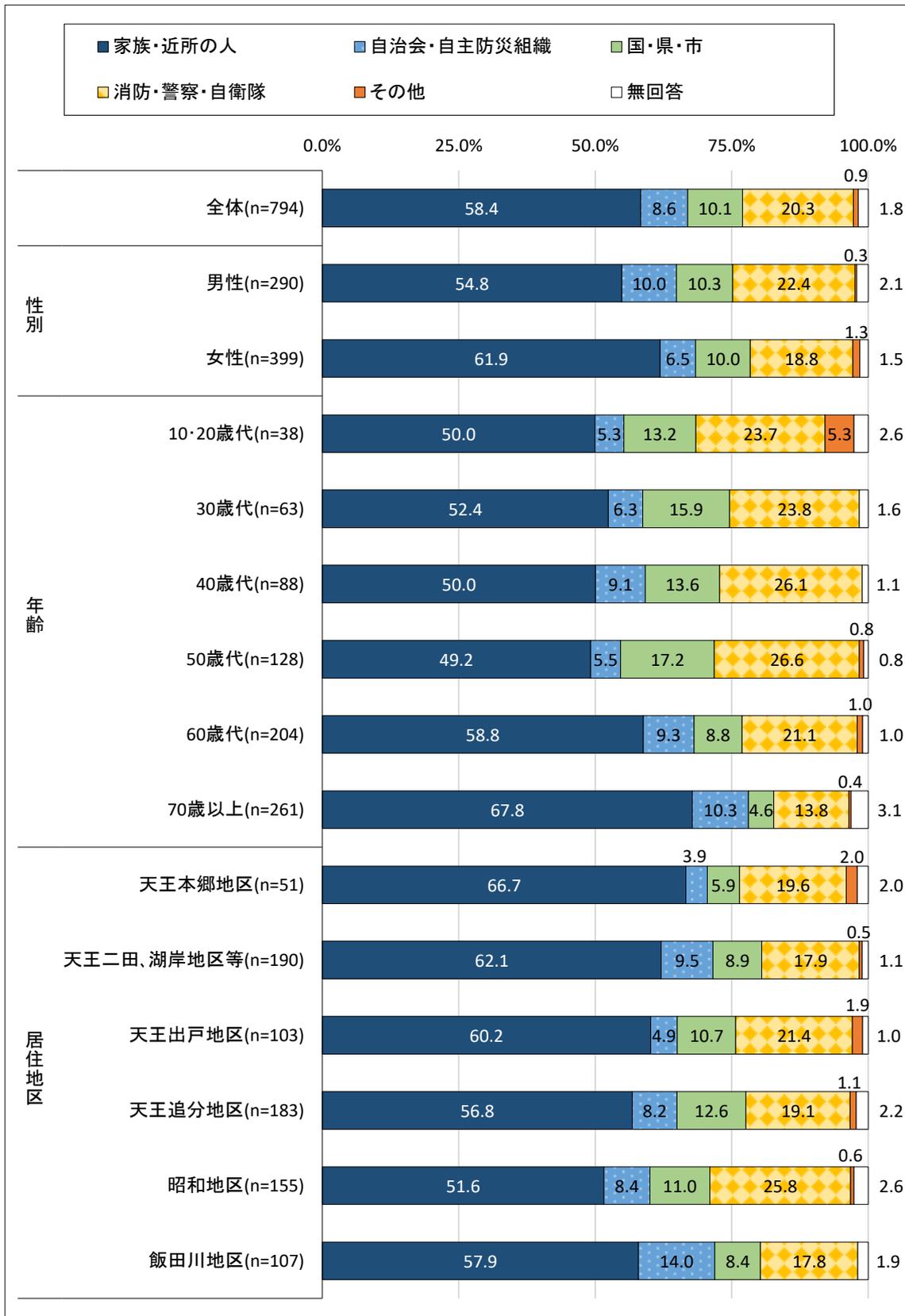
災害時に特に（真っ先に）支援を期待する方について聞いたところ、全体では「家族・近所の人」と答えた人が58.4%で最も多く、次いで「消防・警察・自衛隊」が20.3%で続き、以下は「国・県・市」(10.1%)、「自治会・自主防災組織」(8.6%)の順となっている。

これを属性別でみると、性別では、男性は「家族・近所の人」が54.8%、「消防・警察・自衛隊」が22.4%、女性では「家族・近所の人」が61.9%、「消防・警察・自衛隊」が18.8%となるなど、男女とも同様の順位ながら、「家族・近所の人」の支援については女性の方に期待感がより強うかがえる。

年齢で見ると、70歳以上の67.8%をはじめとして、いずれの年代でも「家族・近所の人」の割合が最も高く、次いで各年代とも「消防・警察・自衛隊」が続いている。第3位は50歳代までの各年代では「国・県・市」で、60歳代と70歳以上では「自治会・自主防災組織」となっており、こうした年代間では期待感に幾分違いが見らる。

居住地区で見ると、すべての地区で「家族・近所の人」の割合が最も高く、いずれの地区でも5割以上となっている。次いで「消防・警察・自衛隊」が総じて2割前後が続いている。以下については地区間で大きな違いはなかったものの、「自治会・自主防災組織」の割合は飯田川地区(14.0%)だけが1割台となっており、他の地区よりも幾分高め割合を示している。[図表 65 参照]

図表 65 災害時に特に支援を期待する方  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

⑦ 地元や県内でとれた農林水産物を買っていますか。



➤ “買っている”が73.5%、一方、“買っていない”が11.1%

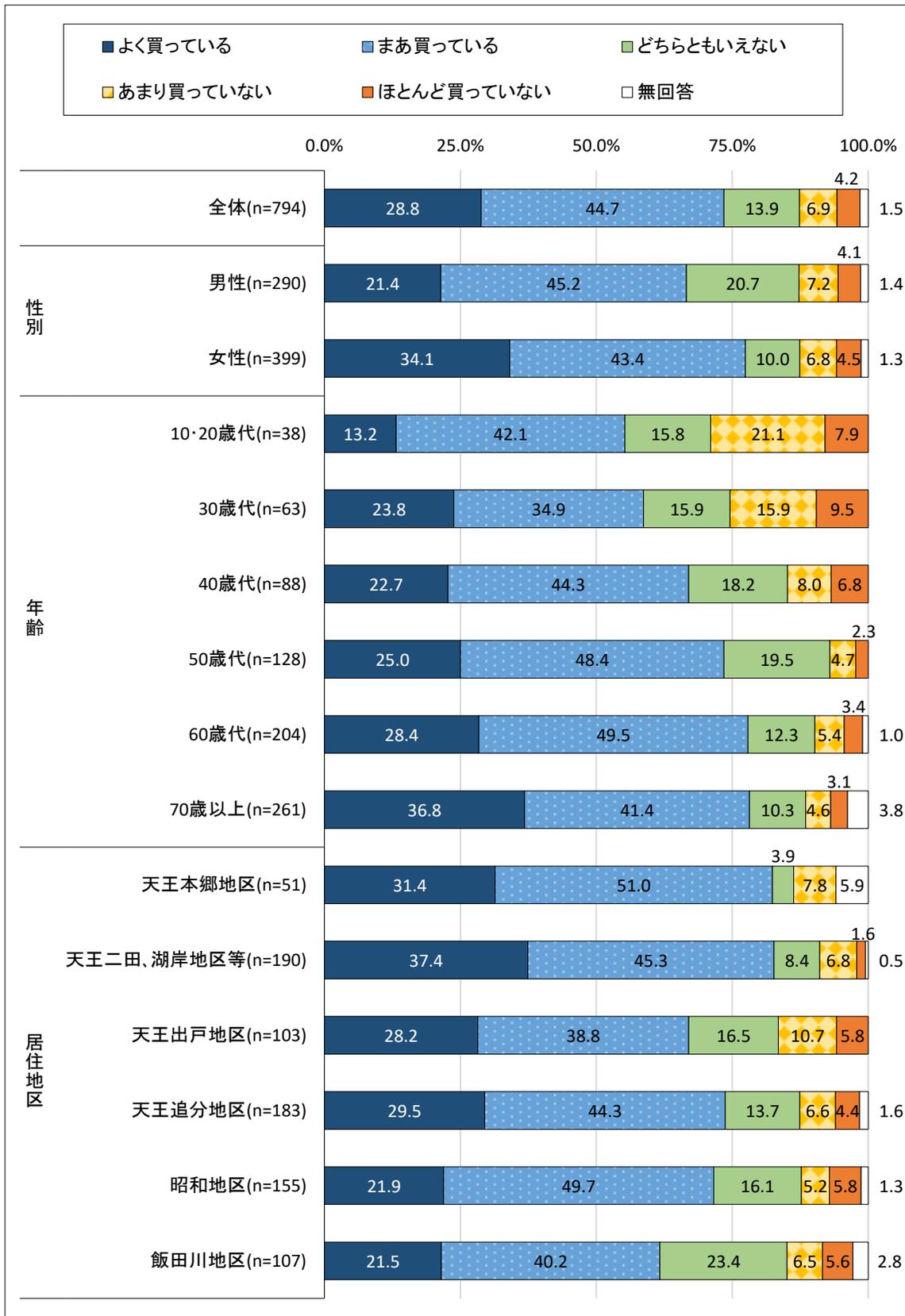
地元や県内でとれた農・水産物を買っているかについて聞いたところ、全体では「まあ買っている」と答えた人が44.7%で最も多く、次いで「よく買っている」が28.8%で続き、これらを合わせた73.5%の人が“買っている”と答えている。一方、「ほとんど買っていない」(4.2%)と「あまり買っていない」(6.9%)を合わせた“買っていない”と答えた人は11.1%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“買っている”の割合は男性が66.6%、女性が77.5%と女性の割合が高く、地元や県内でとれた農・水産物の購入については、女性の方に購入の意向がより強く見られる。

年齢でみると、“買っている”の割合は70歳以上の78.2%をはじめとして、50歳代以降の各年代でいずれも7割台と高く、一方、10・20歳代では55.3%と最も低い割合となるなど、総じてみれば加齢とともに購入意欲が高まる傾向がうかがえる。

居住地区でみると、“買っている”の割合は天王二田、湖岸地区等(82.7%)と天王本郷地区(82.4%)が8割台と高く、一方、飯田川地区(61.7%)と天王出戸地区(67.0%)では6割台と低くなっている。また、その他の2地区は7割台前半となっている。[図表66参照]

図表 66 地元や県内でとれた農林水産物を買っているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(3) あなたと地域との関わりについておたずねします。

⑧ 地域活動やボランティア活動で活動してみたいですか。



➤ 「どちらともいえない」と答えた人が37.5%で最多。

➤ “活動してみたい（すでに参加を含む）”が36.9%、一方、“活動したいとは思わない”が23.9%

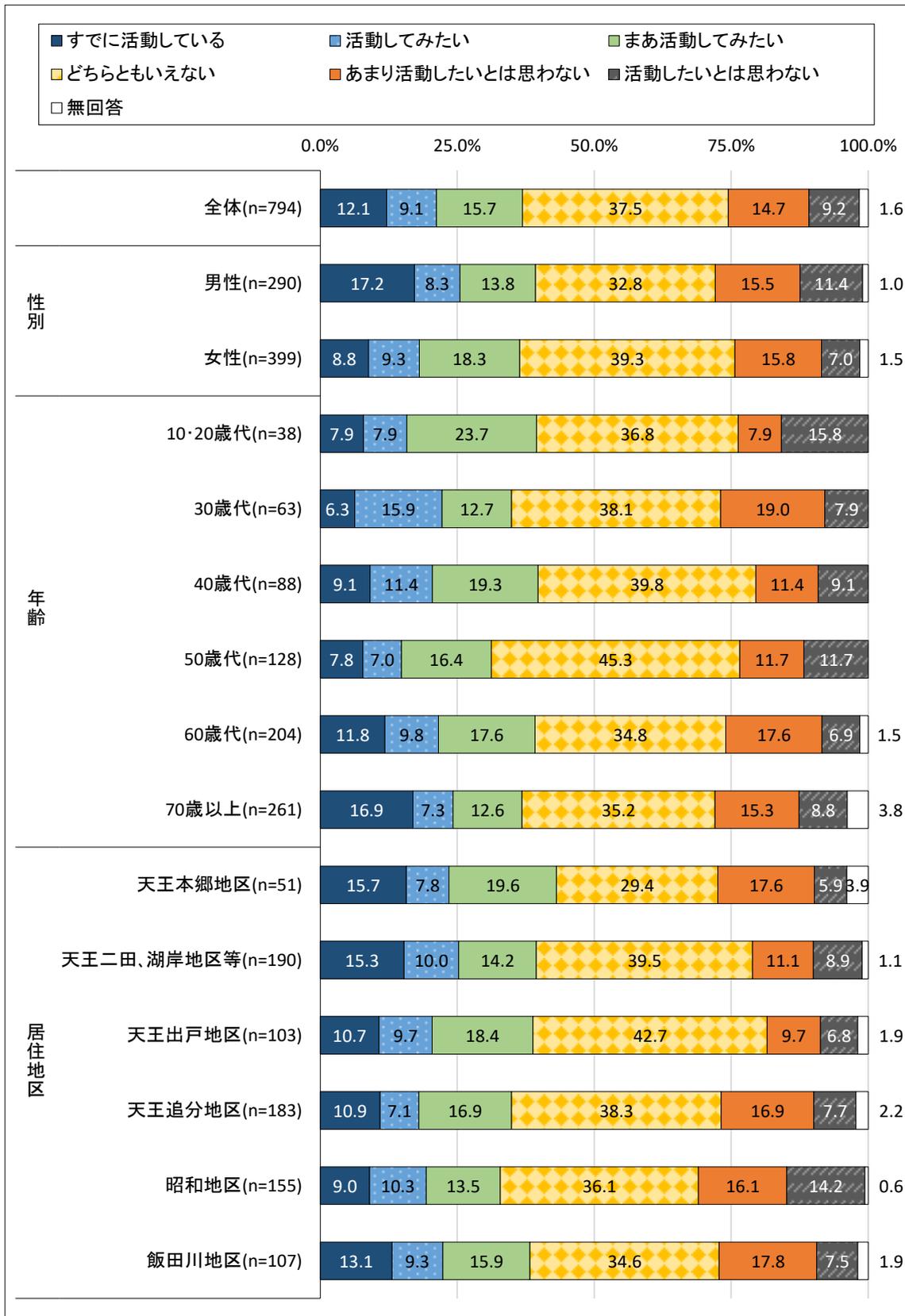
地域活動やボランティアなどで社会のために活動してみたいかについて聞いたところ、全体では「どちらともいえない」と答えた人が37.5%で最も多くなっている。次いで「まあ活動してみたい」が15.7%で続き、これに「活動してみたい」(9.1%)と「すでに活動している」(12.1%)を加えた36.9%の人が“活動してみたい（すでに活動を含む）”と答えている。一方、「活動したいとは思わない」(9.2%)と「あまり活動したいとは思わない」(14.7%)を合わせた“活動したいとは思わない”と答えた人は23.9%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“活動してみたい（すでに活動を含む）”の割合は男性が39.3%、女性が36.4%と男性の割合が幾分高く、また、このうち「すでに活動している」の割合も男性が17.2%、女性が8.8%と男性が高いなど、現状のボランティア意識については男性の方が高い傾向がうかがえる。

年齢でみると、“活動してみたい（すでに活動を含む）”の割合はいずれの年代でも3割台となり、一方、“活動したいとは思わない”の割合はいずれの年代でも2割代となるなど、年代間で大きな違いはないものの、「すでに活動している」の割合は70歳以上(16.9%)と60歳代(11.8%)で1割台と他の年代より高めの割合となっている。

居住地区でみると、総じてみれば地区間で大きな差はないものの、“活動してみたい（すでに活動を含む）”の割合は天王本郷地区が43.1%で最も高く、昭和地区が32.8%で最も低くなっている。一方、“活動したいとは思わない”の割合は昭和地区が30.3%で最も高く、天王出戸地区で16.5%と最も低くなっている。[図表 67 参照]

図表 67 地域活動やボランティア活動で活動してみたいか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



#### (4) お住まいの地域のことについて

問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

① お住まいの地域は災害に対して安全だと思いますか。



➤ “安全だと思う”が64.1%、一方、“安全とは思わない”が13.8%

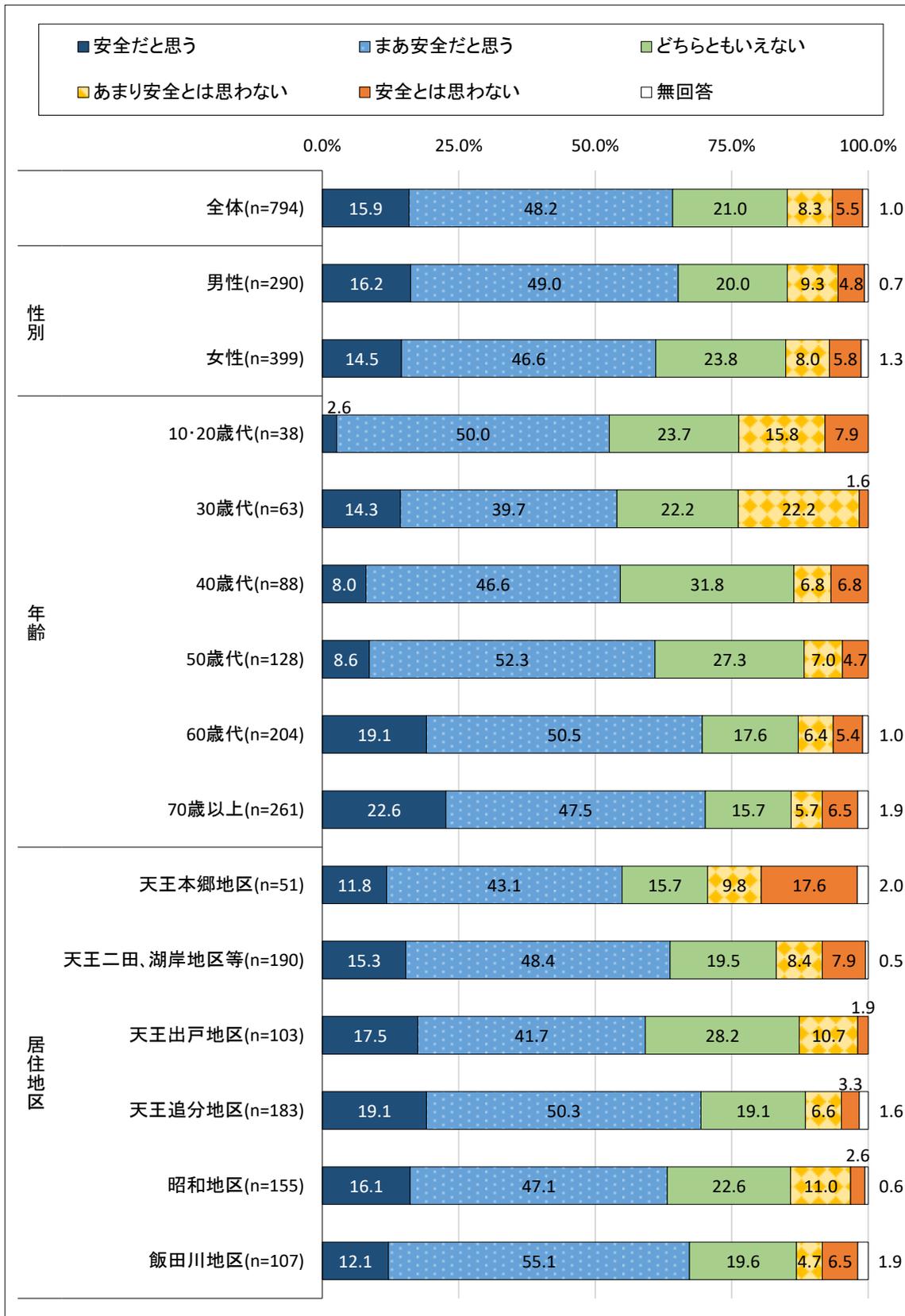
住んでいる地域は災害に対して安全だと思うかについて聞いたところ、全体では「まあ安全だと思う」と答えた人が48.2%で最も多く、これに「安全だと思う」(15.9%)を加えた64.1%の人が“安全だと思う”と答えている。一方、「安全とは思わない」(5.5%)と「あまり安全とは思わない」(8.3%)を合わせた“安全とは思わない”と答えた人は13.8%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は21.0%と高めの割合を示している。

これを属性別でみると、性別では、“安全だと思う”の割合は男性が65.2%、女性が61.1%と男性の方が幾分高いものの、“安全とは思わない”は男性が14.1%、女性が13.8%ほぼ同様の割合となるなど、男女間で大きな違いは見られていない。

年齢でみると、“安全だと思う”の割合は10・20歳代(52.6%)、30歳代(54.0%)、40歳代(54.6%)の各年代で5割台前半と低く、一方、70歳代(70.1%)と60歳代(69.6%)では7割前後と高くなっており、この割合は加齢とともに高くなっている。また、“安全とは思わない”の割合は30歳代(23.8%)と10・20歳代(23.7%)で2割台と他の年代より高くなっている。総じてみれば高齢者に居住地域は災害に対して安全との認識がより強く見られる。

居住地区でみると、“安全だと思う”の割合は天王本郷地区(54.9%)と天王出戸地区(59.2%)では5割台ながら、天王追分地区の69.4%をはじめとして、その他の4地区ではいずれも6割台となっている。また、“安全とは思わない”の割合は天王本郷地区で27.4%と他の地区に比べて高い割合を示している。[図表 68 参照]

図表 68 住んでいる地域は災害に対して安全だと思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

② お住まいの地域では、夜9時以降に安心して歩けますか。



➤ “安心して歩ける”が45.0%、一方、“安心して歩けない”が26.1%

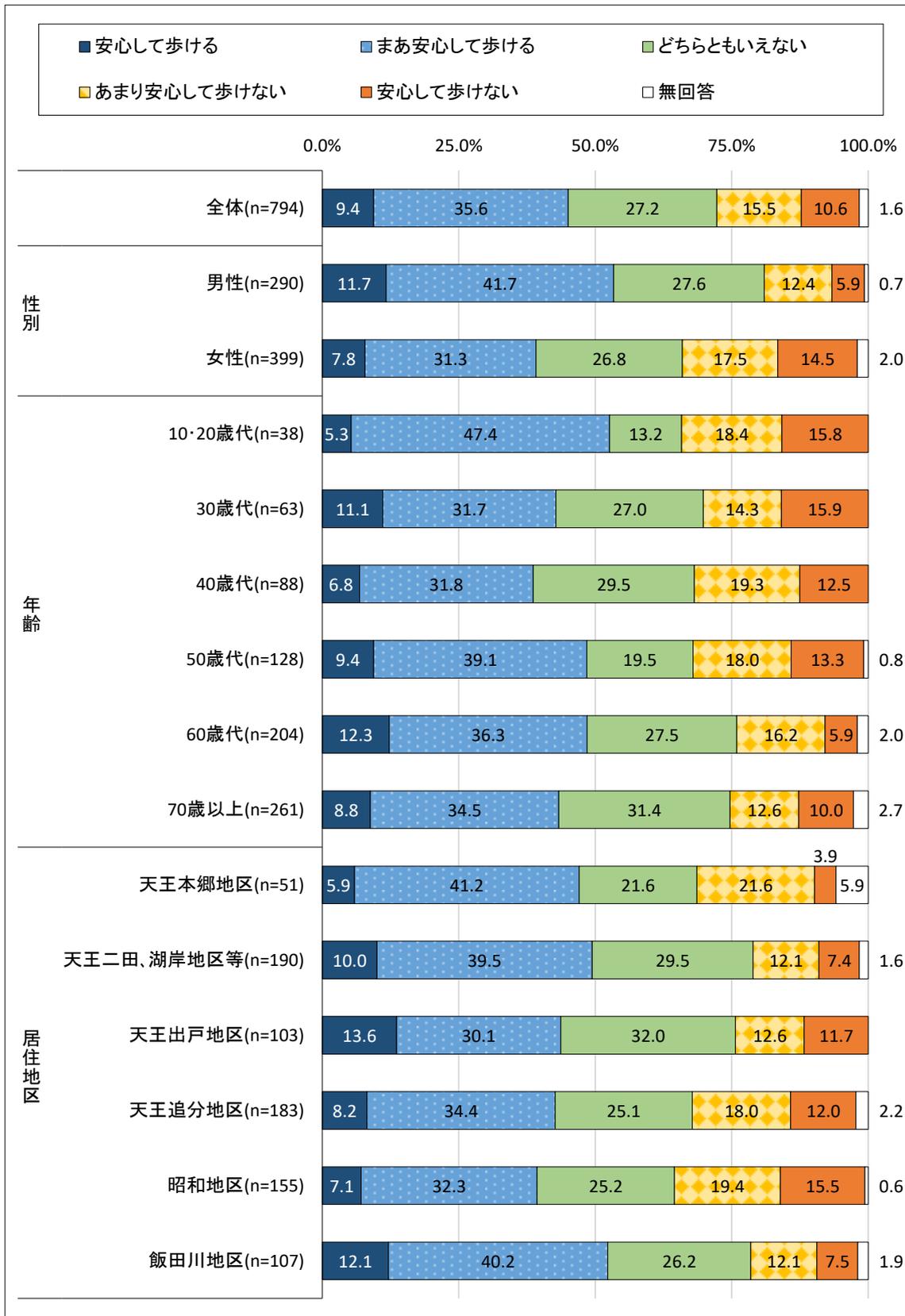
住んでいる地域は夜9時以降に安心して歩けるかについて聞いたところ、全体では「まあ安心して歩ける」と答えた人が35.6%で最も多く、これに「安心して歩ける」(9.4%)を加えた45.0%の人が“安心して歩ける”と答えている。一方、「安心して歩けない」(10.6%)と「あまり安心して歩けない」(15.5%)を合わせた“安心して歩けない”と答えた人は26.1%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は27.2%と高めの割合を示している。

これを属性別でみると、性別では、“安心して歩ける”の割合は男性が53.4%、女性が39.1%と男性が高く、一方、“安心して歩けない”の割合は男性が18.3%、女性が32.0%と女性が高いなど、居住地域の夜道の歩行については女性の方に不安感が強く見られる。

年齢でみると、“安心して歩ける”の割合は10・20歳代が52.7%で最も高く、一方、40歳代が38.6%で最も低くなっており、その他の年代ではいずれも4割台となっている。また、“安心して歩けない”の割合は10・20歳代から50歳代までの各年代の割合がいずれも3割台前半ながら、60歳代(22.1%)と70歳以上(22.6%)では2割台前半と低くなっている。

居住地区でみると、“安心して歩ける”の割合は飯田川地区が52.3%で最も高く、一方、昭和地区が39.4%で最も低くなっている。また、“安心して歩けない”の割合は昭和地区(34.9%)と天王追分地区(30.0%)では3割台となり、他の4地区に比べて割合が高くなっている。[図表69参照]

図表 69 住んでいる地域では、夜9時以降に安心して歩けるか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

③ お住まいの地域では、登下校時の見守り・パトロールや街灯整備等の安全・安心を守る取り組みが行われていますか。



➤ “行われている”が56.2%、一方、“行われていない”が15.5%

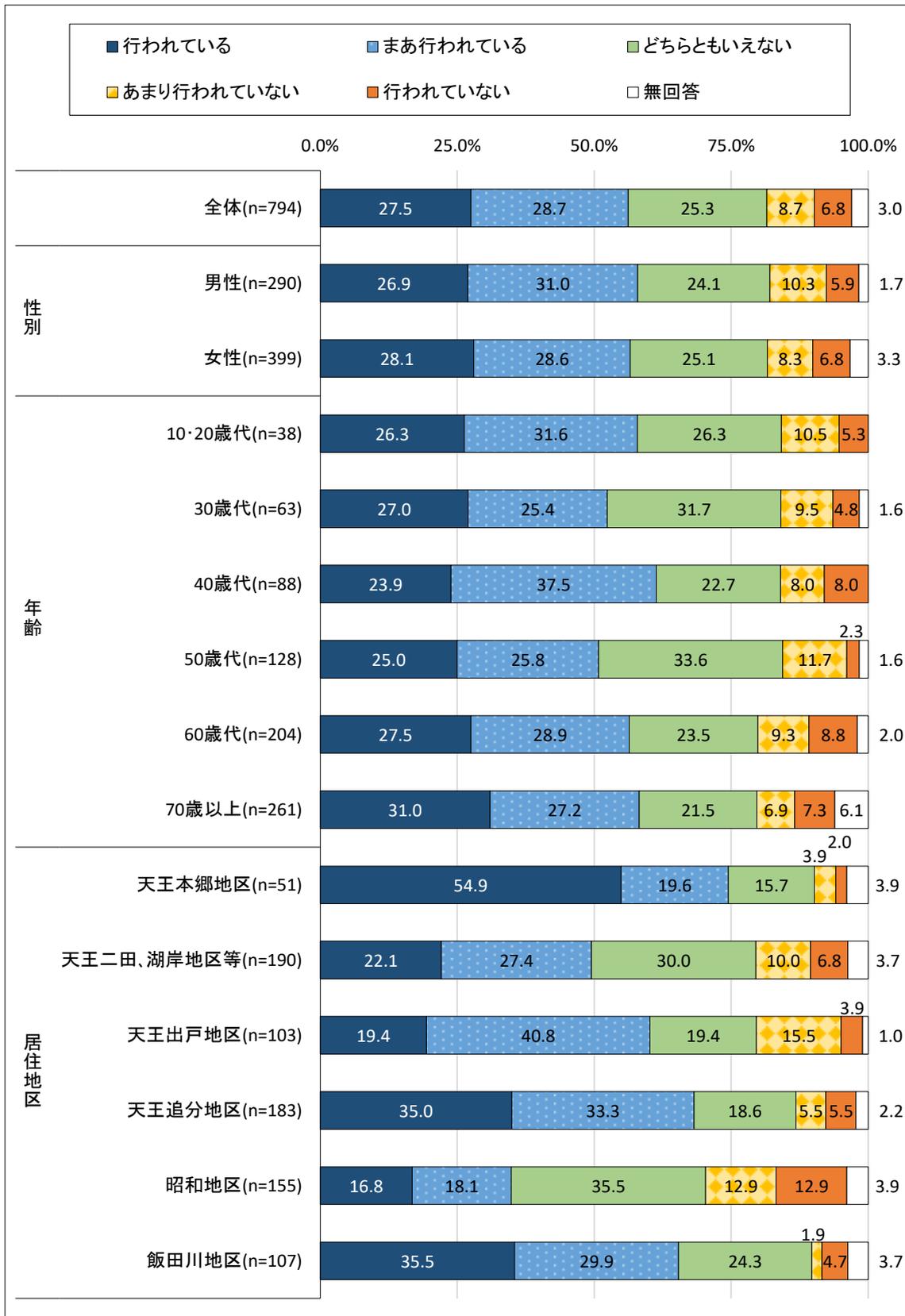
住んでいる地域で登下校時の安全・安心を守る取り組みが行われているかについて聞いたところ、全体では「まあ行われている」と答えた人が28.7%で最も多く、次いで「行われている」が27.5%とほぼ同様の割合で続き、これらを合わせた56.2%の人が“行われている”と答えている。一方、「行われていない」(6.8%)と「あまり行われていない」(8.7%)を合わせた“行われていない”と答えた人は15.5%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は25.3%と高めの割合を示している。

これを属性別でみると、性別では、“行われている”の割合は男性が57.9%、女性が56.7%となり、一方、“行われていない”の割合は男性が16.2%、女性が15.1%となるなど、男女間で大きな違いはなく、登下校時の安全・安心を守る取り組みについては男女ともほぼ同様の認識を示している。

年齢でみると、“行われている”の割合は40歳代が61.4%と6割強で最も高く、一方、50歳代が50.8%と5割強で最も低くなっており、その他の各年代はいずれも5割台となっている。また、“行われていない”の割合はいずれの年代も1割台となっている。

居住地区でみると、“行われている”の割合は天王本郷地区が74.5%で最も高く、一方、昭和地区では34.9%と最も低い割合となっている。その他の4地区では天王二田、湖岸地区等(49.5%)が5割弱ながら、他の3地区はいずれも6割台となっている。また、“行われていない”の割合は昭和地区(25.8%)で2割台となり、その他の地区に比べて高い割合となるなど、総じてみれば登下校時の安全・安心を守る取り組みについては地域差が見られている。[図表70参照]

図表 70 住んでいる地域では、安全・安心を守る取り組みが行われているか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

④ お住まいの地域は高齢者や障がい者にも暮らしやすいと思いますか。



➤ 「どちらともいえない」と答えた人が37.9%で最多。

➤ “そう思う”が31.4%、一方、“そう思わない”が29.4%

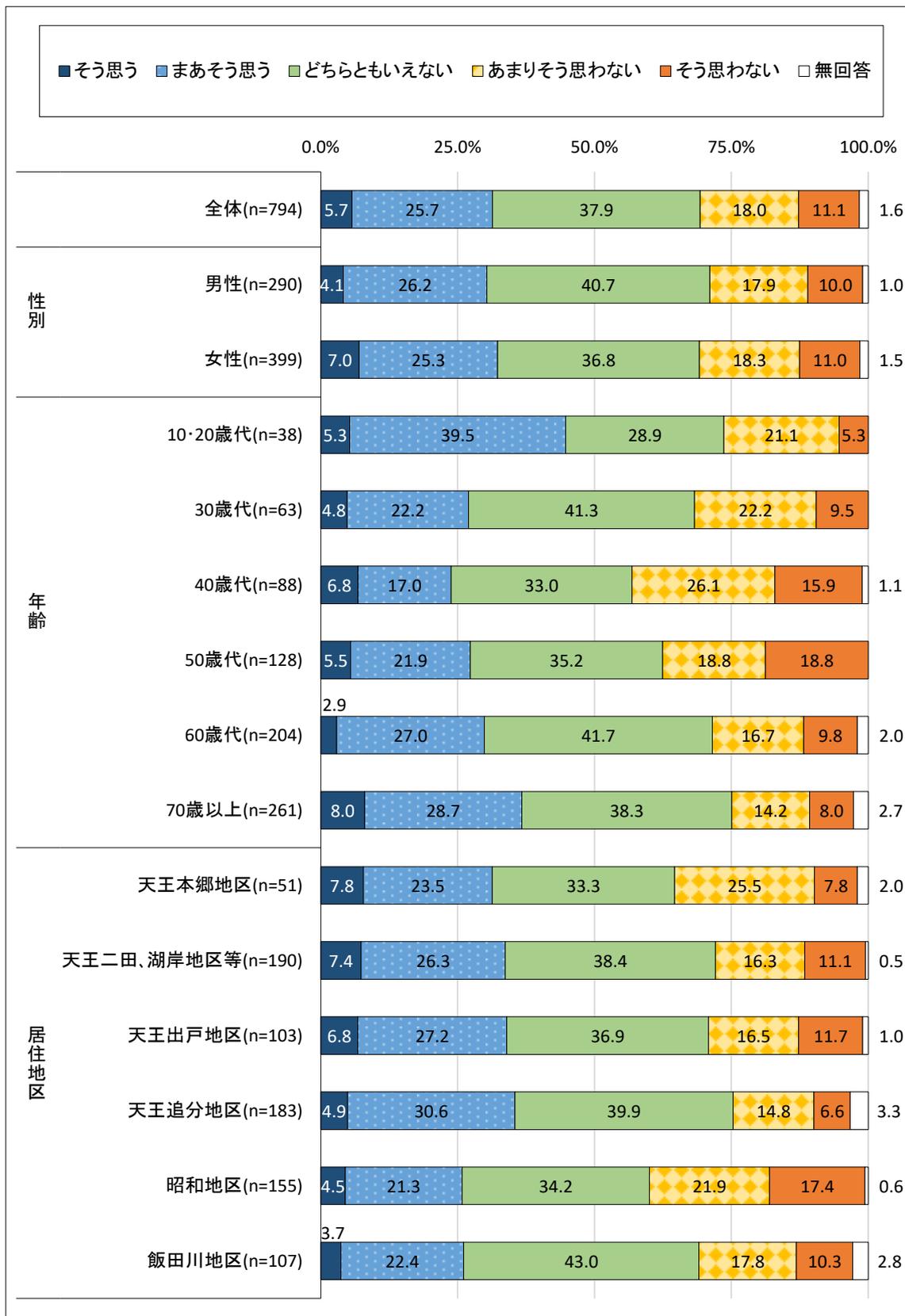
住んでいる地域は高齢者や障がい者にも暮らしやすいと思うかについて聞いたところ、全体では「どちらともいえない」と答えた人が37.9%で最も多く、次いで「まあそう思う」と答えた人が25.7%で続き、これに「そう思う」(5.7%)を加えた31.4%の人が“そう思う”と答えている。一方、「そう思わない」(11.1%)と「あまりそう思わない」(18.0%)を合わせた“そう思わない”と答えた人は29.1%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“そう思う”の割合は男性が30.3%、女性が32.3%で、一方、“そう思わない”の割合は男性が27.9%、女性が29.3%となり、男女間で大きな違いはないものの、どちらも女性の方が幾分高い割合となっている。

年齢でみると、“そう思う”の割合は10・20歳代の44.8%をはじめととして、70歳以上(36.7%)でも高く、一方、40歳代(23.8%)など他の年代はいずれも2割台と低くなっている。また、“そう思わない”の割合は40歳代(42.0%)と50歳代(37.6%)、30歳代(31.7%)で3割以上と高くなっており、これらの年代では“そう思う”の割合を上回っている。

居住地区でみると、“そう思う”割合は昭和地区(25.8%)と飯島地区(26.1%)で2割台ながら、天王追分地区(35.5%)などその他の4地区では3割台と高くなっている。また、“そう思わない”の割合は昭和地区(39.3%)で4割近くとその他の5地区に比べて高くなっている。[図表71参照]

図表 71 住んでいる地域は高齢者や障害者にも暮らしやすいと思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑤ お住まいの地域は買い物や通院に便利ですか。



➤ “便利だ”が49.2%、一方、“便利ではない”が33.7%

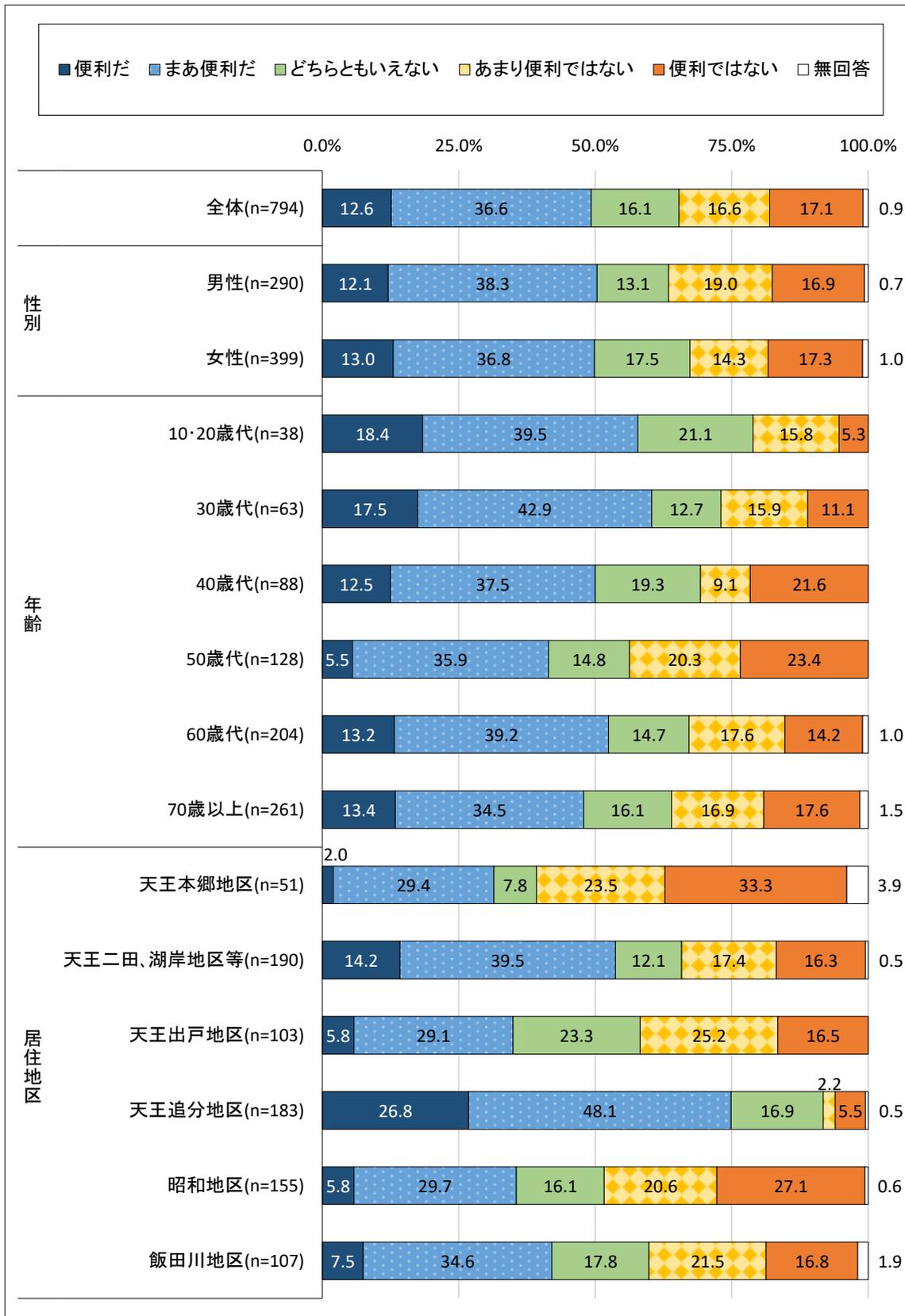
住んでいる地域が買い物や通院に便利かを聞いたところ、全体では「まあ便利だ」と答えた人が36.6%で最も多く、これに「便利だ」(12.6%)を加えた49.2%の人が“便利だ”と答えている。一方、「便利ではない」(17.1%)と「あまり便利でない」(16.6%)を合わせた“便利ではない”と答えた人は33.7%となっている。

これを属性別でみると、性別では、“便利だ”の割合は男性が50.4%、女性が49.8%と男性がやや高く、一方、“便利ではない”の割合は男性が35.9%、女性が31.6%と男性が高いなど、女性より男性の方が利便性を幾分感じていながらも、不便と感じている割合も高い結果となっている。

年齢でみると、“便利だ”の割合は30歳代(60.4%)と10・20歳代(57.9%)が高く、一方、50歳代(41.4%)と70歳以上(47.9%)は4割台で低い割合となっている。また、“便利ではない”の割合は50歳台(43.7%)が最も高く、この年代だけが“便利だ”の割合を上回っている。

居住地区でみると、“便利だ”の割合は天王追分地区が74.9%で最も高く、天王二田、湖岸地区等(53.7%)も5割台と高くなっている。一方、天王本郷地区が31.4%で最も低く、天王出戸地区(34.9%)と昭和地区(35.5%)も3割台と低くなっており、居住地域の買い物や通院の利便性については地域間で認識に違いが見られる。[図表72参照]

図表 72 住んでいる地域は買い物や通院に便利か  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑥ お住まいの地域の高齢者はいきいきと暮らしていると思いますか。



➤ 「どちらともいえない」が39.8%で最多。

➤ “そう思う”が40.0%、一方、“そう思わない”が18.5%

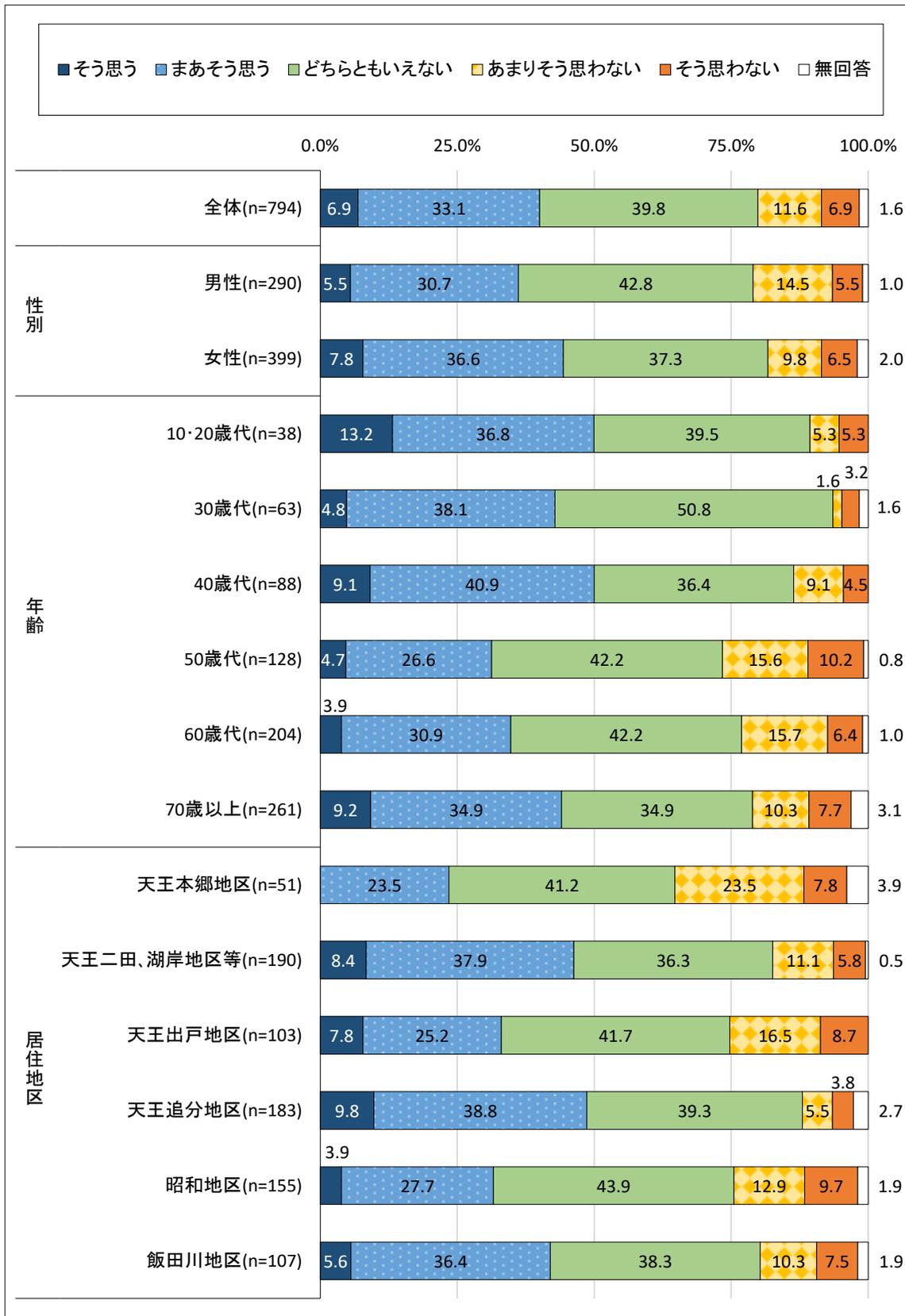
住んでいる地域の高齢者はいきいきと暮らしていると思うかについて聞いたところ、全体では「どちらともいえない」と答えた人が39.8%で最も多く、次いで「まあそう思う」が33.1%で続き、これに「そう思う」(6.9%)を加えた40.0%の人が“そう思う”と答えている。一方、「そう思わない」(6.9%)と「あまりそう思わない」(11.6%)を合わせた“そう思わない”と答えた人は18.5%となっている。

これを属性別でみると、性別では“そう思う”の割合は男性が36.2%、女性が44.4%と女性が高く、一方、“そう思わない”の割合は男性が20.0%、女性が16.3%と男性が高くなっており、女性の方が地域の高齢者がいきいきと暮らしているとの認識をより強く示している。

年齢でみると、“そう思う”の割合は10・20歳代と40歳代がともに50.0%で最も高く、70歳以上(44.1%)と30歳代(42.9%)も4割台と高くなっており、その他の年代は3割台となっている。また、「どちらともいえない」の割合は30歳代(50.8%)で5割強と最も高くなっている。

居住地区でみると、“そう思う”の割合は天王追分地区が48.6%で最も高く、天王二田、湖岸地区等(46.3%)と飯田川地区(42.0%)でも4割台と高くなっている。一方、天王本郷地区が23.5%で最も低く、昭和地区(31.6%)と天王出戸地区(33.0%)でも3割台と低くなっている。また、「どちらともいえない」の割合は各地域とも総じて4割前後となっている。[図表73参照]

図表 73 住んでいる地域の高齢者はいきいきと暮らしていると思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑦ お住まいの地域の子どもは伸び伸びと育っていると思いますか。



➤ “そう思う”が59.5%、一方、“そう思わない”が7.1%

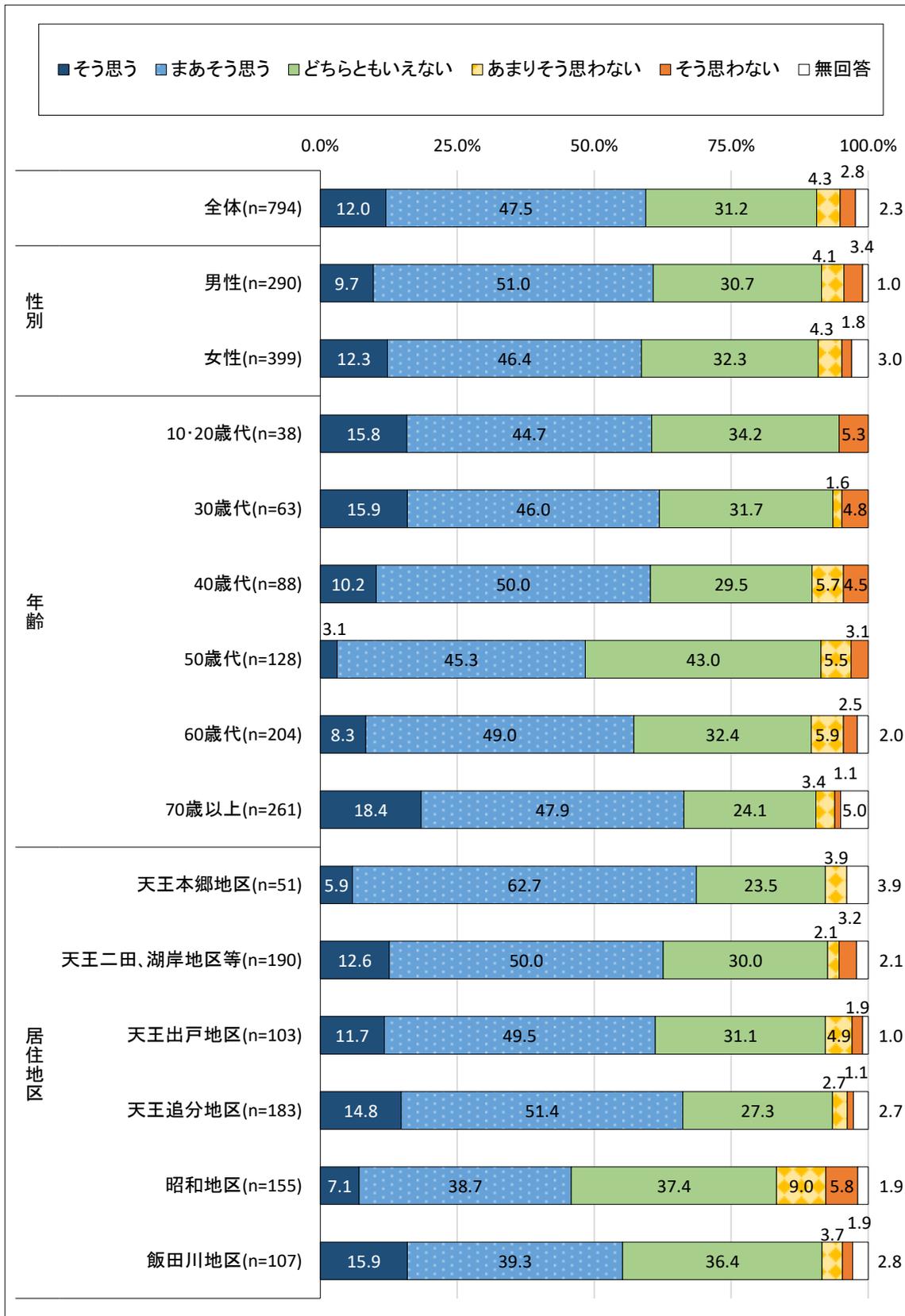
住んでいる地域の子どもは伸び伸びと育っていると思うかについて聞いたところ、全体では「まあそう思う」と答えた人が47.5%で最も多く、これに「そう思う」(12.0%)を加えた59.5%の人が“そう思う”と答えている。一方、「そう思わない」(2.8%)と「あまりそう思わない」(4.3%)を合わせた“そう思わない”と答えた人は7.1%と1割未満となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は31.2%で3割強となっている。

これを属性別でみると、性別では、“そう思う”割合は男性が60.7%、女性が58.7%と男性が幾分高く、“そう思わない”の割合でも男性が7.5%、女性が6.1%と男性がやや高いものの、地域の子どもは伸び伸びと育っているという認識については、総じてみれば男女間で大きな違いは見られない。

年齢でみると、“そう思う”の割合は70歳以上が66.3%で最も高く、30歳代(61.9%)、10・20歳代(60.5%)、40歳代(60.2%)が6割強で、60歳代(57.3%)も5割台後半ながら、50歳代(48.4%)では4割台となっている。

居住地区でみると、“そう思う”の割合は天王本郷地区が68.6%で最も高く、天王追分地区(66.2%)、天王二田、湖岸地区等(62.6%)、天王出戸地区(61.2%)でも6割台と高くなっている。一方、昭和地区が45.8%で最も低く、飯田川地区(55.2%)は5割台となっている。また、“そう思わない”の割合は総じて低く、昭和地区(14.8%)の1割台を除く他の地区はいずれも1割未満となっている。[図表74参照]

図表 74 住んでいる地域の子どもは伸び伸びと育っていると思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑧ お住まいの地域の自然環境は守られていると思いますか。



➤ “そう思う”が55.1%、一方、“そう思わない”が11.0%

住んでいる地域の自然環境は守られていると思うかについて聞いたところ、全体では「まあそう思う」と答えた人が46.3%で最も多く、これに「そう思う」(8.8%)を加えた55.1%の人が“そう思う”と答えている。一方、「そう思わない」(3.8%)と「あまりそう思わない」(7.2%)を合わせた“そう思わない”と答えた人は11.0%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は32.4%で3割台となっている。

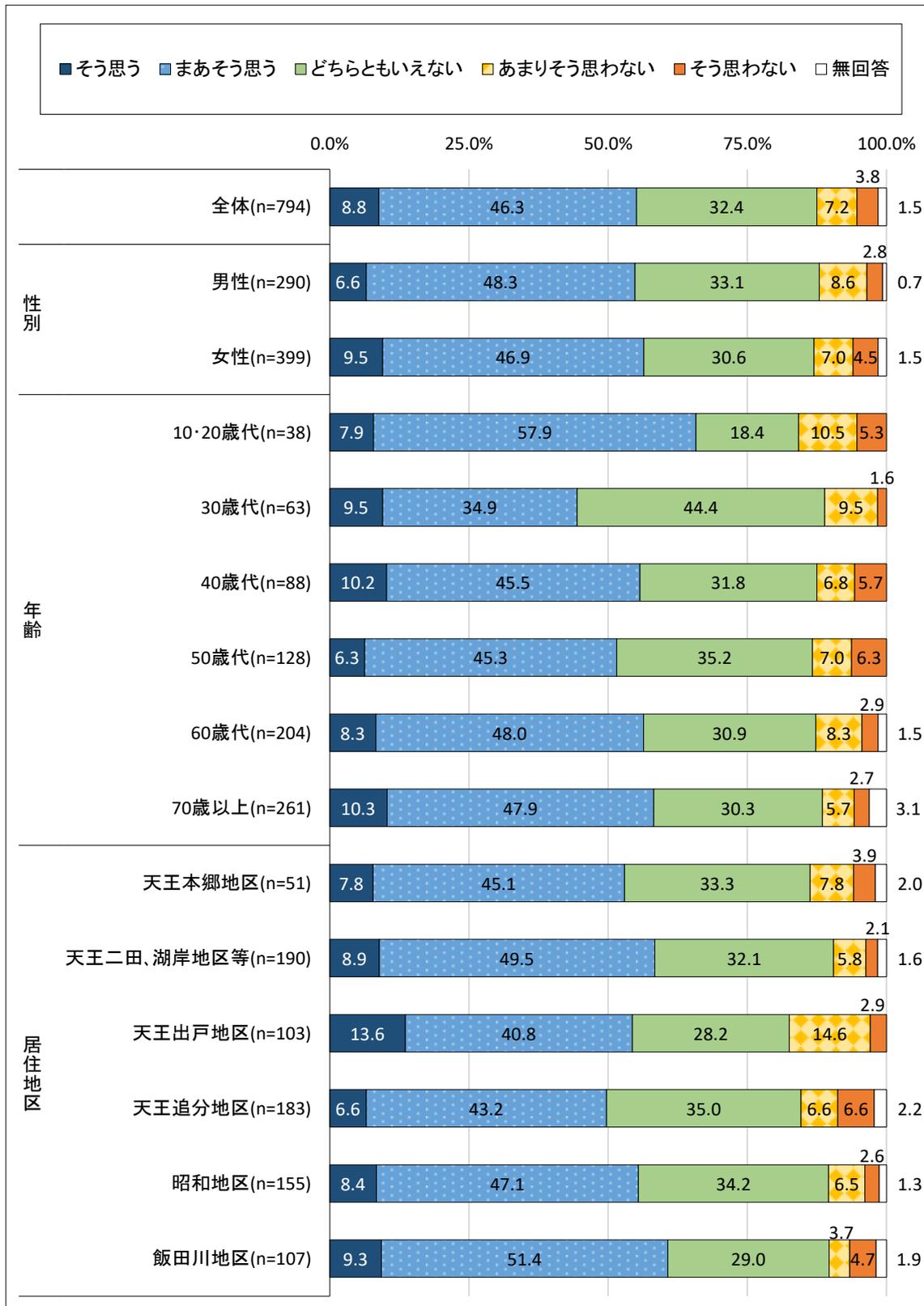
これを属性別でみると、性別では、“そう思う”の割合は男性が54.9%、女性が56.4%と女性が幾分高いものの、“そう思わない”では男性が11.4%、女性が11.5%とほぼ同様の割合となるなど、男女間で地域の自然環境の認識に大きな違いは見られていない。

年齢でみると、“そう思う”の割合は10・20歳代が65.8%で最も高く、一方、30歳代では44.4%と最も割合が低くなっており、その他の年代ではいずれも5割台となっている。また、「どちらともいえない」の割合は30歳代が44.4%で最も高く、10・20歳代では18.4%と最も低くなっている。

居住地区でみると、“そう思う”の割合は飯田川地区が60.7%で最も高く、一方、天王追分地区が49.8%で最も低くなっている。また、その他の4地区ではいずれも5割台となっており、総じてみれば地域の自然環境の認識には各地区間で大きな違いは見られていない。

[図表 75 参照]

図表 75 住んでいる地域の自然環境は守られていると思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑨ 自慢したい地域の風景や名所がありますか。



➤ “ある”が33.0%、一方、“ない”が41.9%

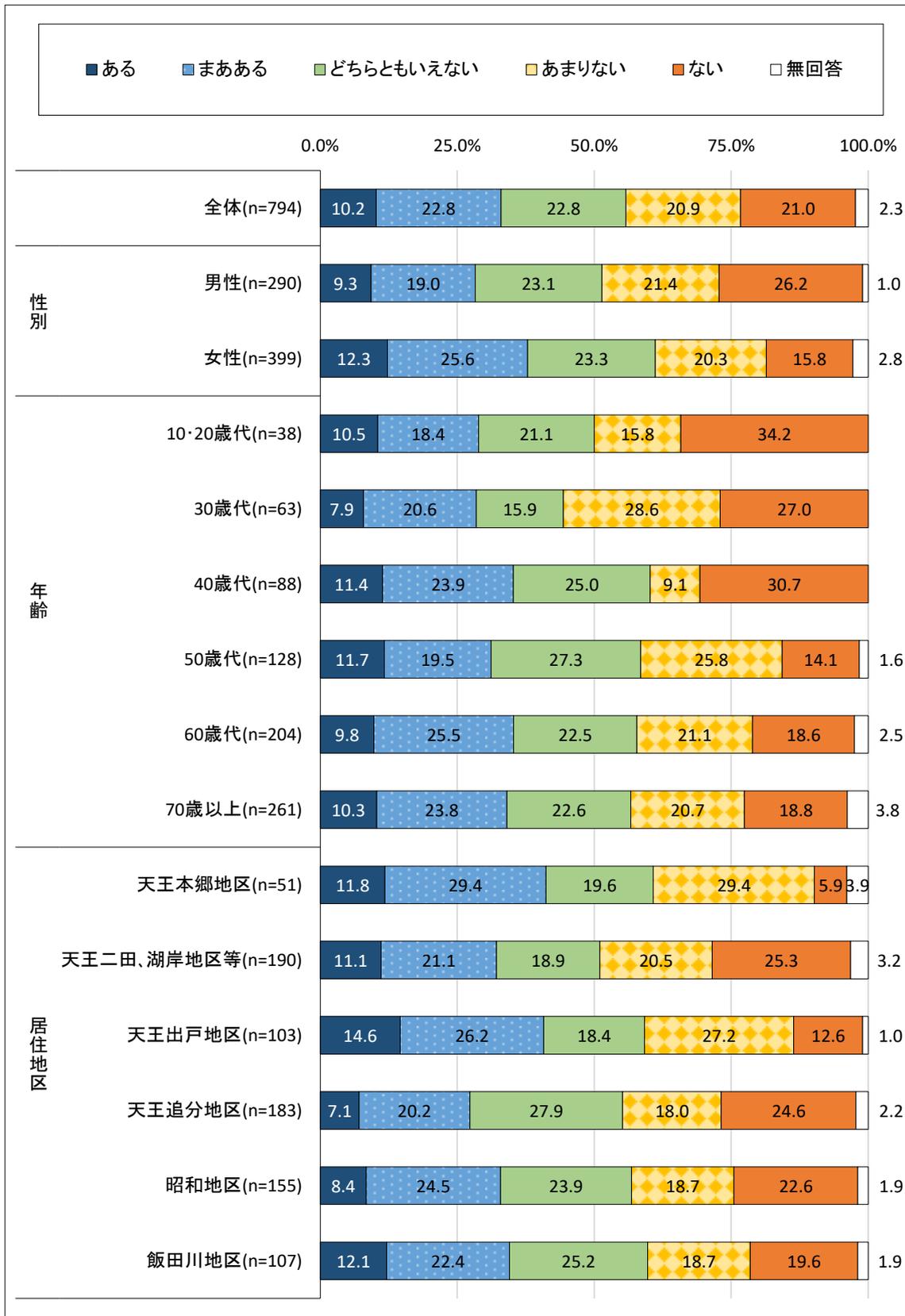
自慢したい地域の風景や名所があるかについて聞いたところ、全体では「まあある」と答えた人が22.8%で最も多く、これに「ある」(10.2%)を加えた33.0%の人が“ある”と答えている。一方、「ない」(21.0%)と「あまりない」(20.9%)を合わせた“ない”と答えた人は41.9%となっており、“ない”が“ある”の割合を上回っている。また、「どちらともいえない」の割合は22.8%と「まあある」(22.8%)と同率で最も高くなっている。

これを属性別でみると、性別では、“ある”の割合は男性が28.3%、女性が37.9%と女性が高く、一方、“ない”の割合は男性が47.6%、女性が36.1%と男性が高くなっており、女性の方に地域に自慢したい風景や名所があるとの認識がより強くうかがえる。

年齢でみると、“ある”の割合は30歳代(28.5%)と10・20歳代(28.9%)では2割台ながら、40歳代と60歳代(各35.3%)などその他の年代はいずれも3割台となっている。一方、“ない”の割合は30歳代(55.6%)と10・20歳代(50.0%)で5割台と高く、その他の年代ではいずれも4割弱となっている。

居住地区でみると、“ある”の割合は天王本郷地区(41.2%)と天王出戸地区(40.8%)が4割台と高く、一方、天王追分地区が27.3%で最も低くなっており、その他の3地区は3割台となっている。また、“ない”の割合は天王二田、湖岸地区等(45.8%)、天王追分地区(42.6%)、昭和地区(41.3%)で4割台と高くなっている。[図表76参照]

図表 76 自慢したい地域の風景や名所の有無  
(全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑩ お住まいの地域の商店（街）には活気がありますか。



➤ “活気がない” が 51.3%、一方、“活気がある” が 22.1%

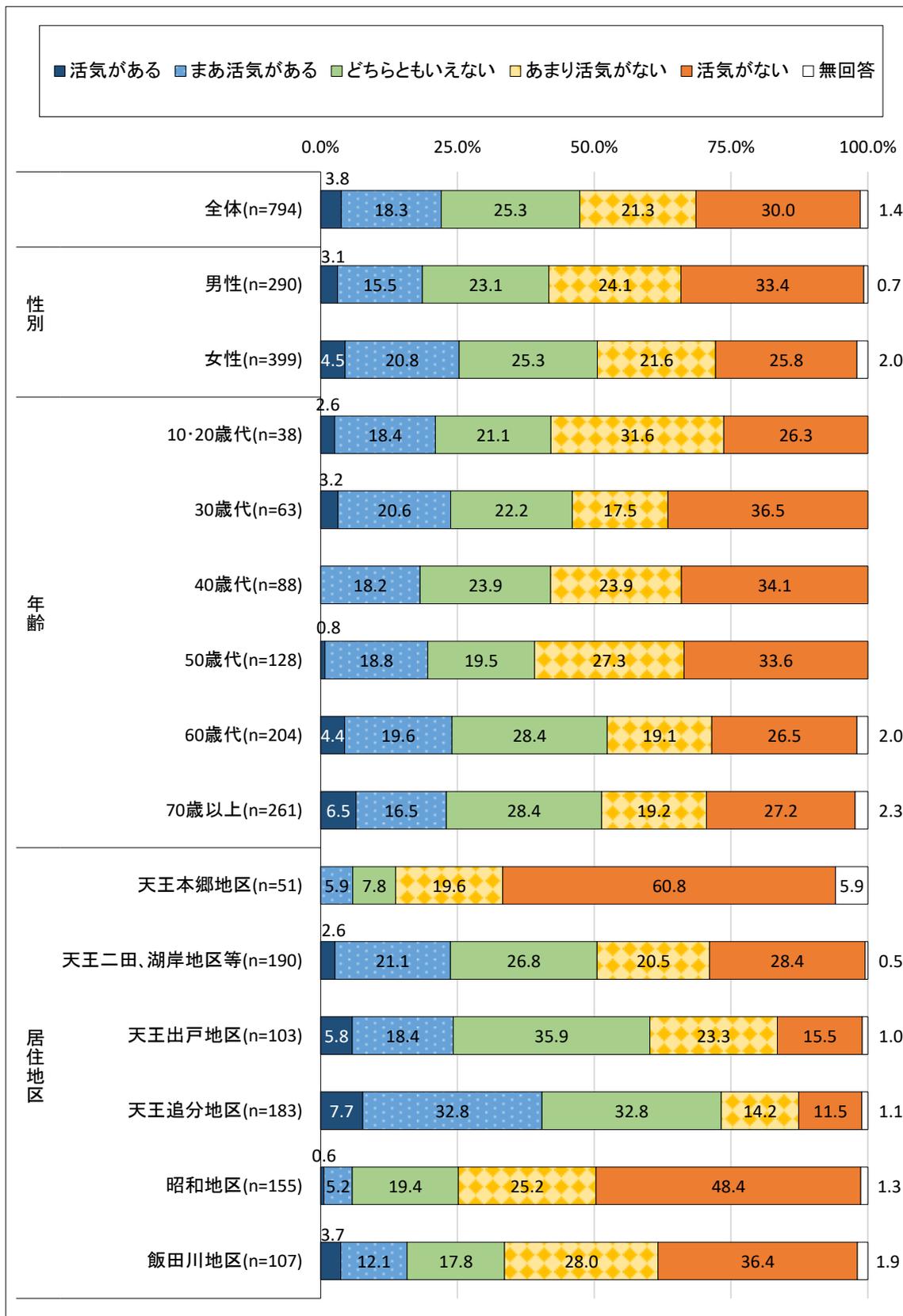
住んでいる地域の商店街に活気があるかについて聞いたところ、全体では「活気がない」と答えた人が 30.0%で最も多く、これに「あまり活気がない」(21.3%)を加えた 51.3%の人が“活気がない”と答えている。一方、「活気がある」(3.8%)と「まあ活気がある」(18.3%)を合わせた“活気がある”と答えた人は 22.1%となっており“活気がない”が“活気がある”の割合を大幅に上回っている。また、「どちらともいえない」と答えた人は 25.3%と高めの割合となっている。

これを属性別でみると、性別では、“活気がある”の割合は男性が 18.6%、女性が 25.3%と女性が高く、一方、“活気がない”の割合は男性が 57.5%、女性が 47.4%と男性が高くなっており、男女とも活気がないの割合が高いものの、女性の方に地域の商店（街）に活気があるとの認識が強めに見られる。

年齢でみると、“活気がある”の割合は 60 歳代が 24.0%で最も高く、一方、40 歳代が 18.2%で最も低かったものの、総じてみれば年代間で大きな違いはなかった。また、“活気がない”の割合は 50 歳代 (60.9%)、40 歳代 (58.0%)、10・20 歳代 (57.9%) で 6 割前後と高い割合を占めている。

居住地区でみると、“活気がある”の割合は天王追分地区が 40.5%で最も高く、天王出戸地区 (24.2%) と天王二田、湖岸地区等 (23.7%) でも 2 割台と比較的高くなっている。一方、昭和地区 (5.8%) と天王本郷地区 (5.9%) では 1 割未満と低くなっている。また、“活気がない”の割合は天王本郷地区 (80.4%) の 8 割強をはじめとして、昭和地区 (73.6%) でも 7 割台と高い割合を占めている。[図表 77 参照]

図表 77 住んでいる地域の商店（街）には活気があるか  
 (全体／性別、年齢、居住地区)



問5 あなたの生活や地域のことについて、さまざまな角度からおたずねします。この1年くらいのことをふり返り、あてはまる番号1つに○印をつけて下さい。

(4) お住まいの地域のことについておたずねします。

⑪ お住まいの地域に観光などの訪問客が増えていると思いますか。



➤ “そう思わない”が72.8%、一方、“そう思う”が6.5%

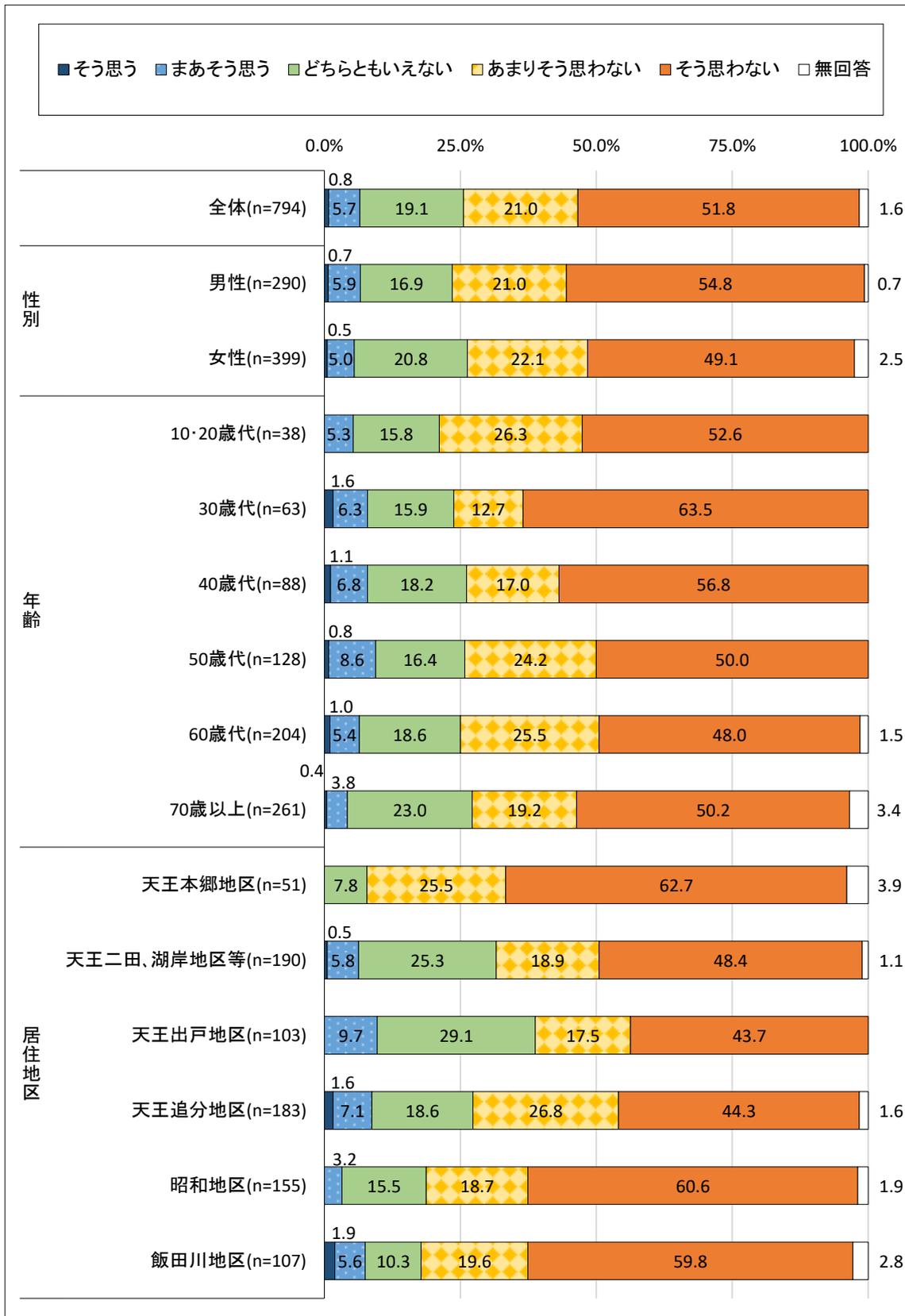
住んでいる地域に観光などの訪問客が増えていると思うかについて聞いたところ、全体では「そう思わない」と答えた人が51.8%と半数以上を占めて最も多く、次いで「あまりそう思わない」と答えた人が21.0%で続き、これらを合わせた72.8%の人が“そう思わない”と答えている。一方、「そう思う」(0.8%)と「まあそう思う」(5.7%)を合わせた“そう思う”と答えた人は6.5%で1割未満となっており、“そう思わない”が“そう思う”の割合を大幅に上回っている。

これを属性別でみると、性別では、“そう思わない”の割合は男性が75.8%、女性が71.2%とともに7割台を占め、一方、“そう思う”の割合は男性が6.6%、女性が5.5%とともに1割未満となるなど、総じてみれば男女とも地域において観光などの訪問客は増えていないとの認識を色濃く示している。

年齢でみると、“そう思う”の割合はいずれの年代でも1割未満と低い割合となっている。一方、“そう思わない”の割合は70歳以上(69.4%)が7割強ながら、10・20歳代の78.9%をはじめとして、その他の年代ではいずれも7割台となっており、総じてみれば各年代でほぼ同様の傾向を示している。

居住地区でみると、“そう思う”の割合は天王本郷地区で0.0%であったほか、その他の5地区でも1割未満といずれも低い割合となっている。一方、“そう思わない”の割合は天王本郷地区が88.2%で最も高く、飯田川地区(79.4%)と昭和地区(79.3%)でも8割近くとなるなど、いずれの地区でも6割以上と総じて高い割合を占めている。[図表78参照]

図表 78 住んでいる地域に観光などの訪問客が増えていると思うか  
(全体／性別、年齢、居住地区)

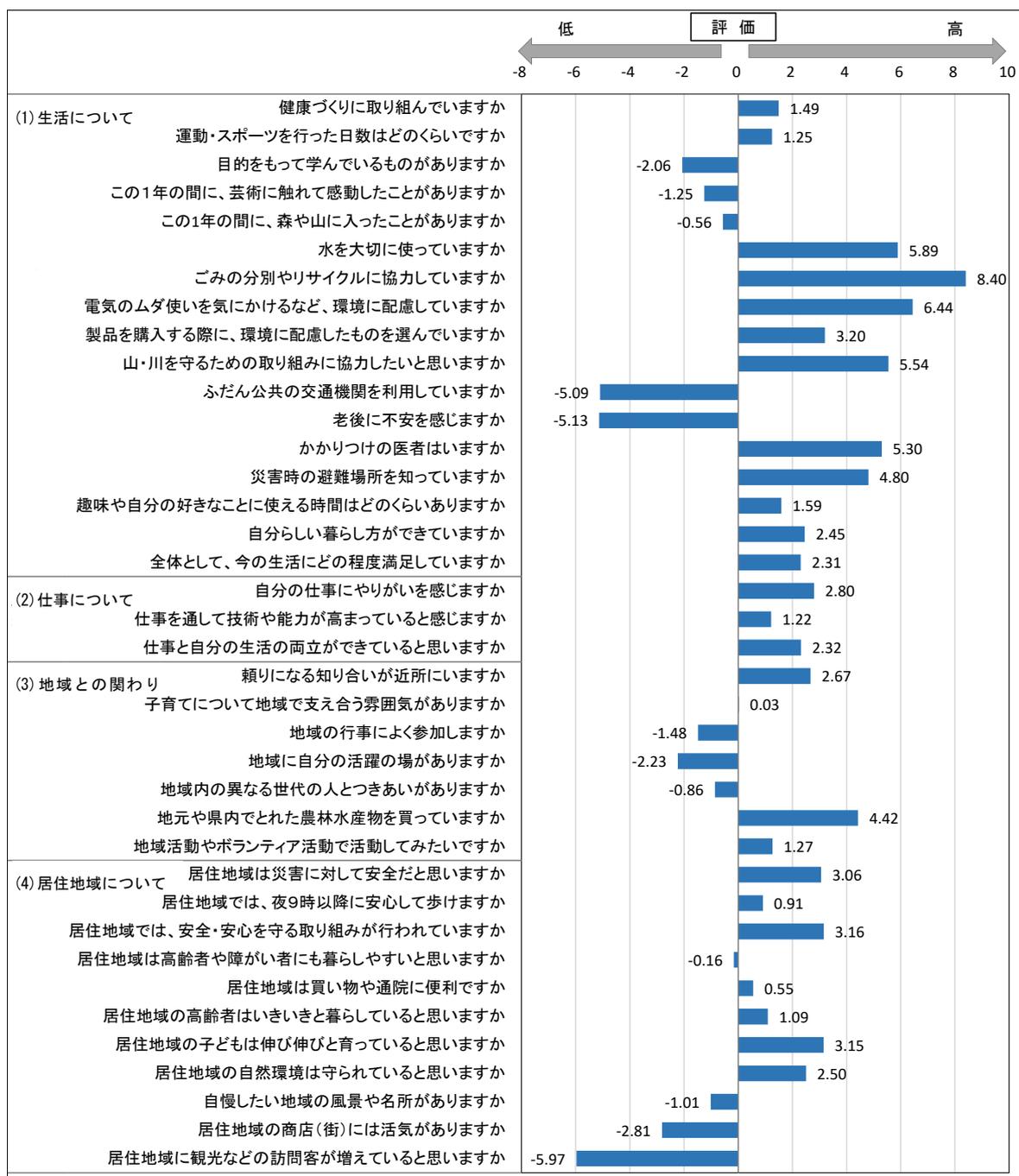


【参考】生活や地域のことについての設問（問5）に関する評価

標題の問5の各設問に対する回答について、生活や地域の特性の把握の目安とするため、本報告書27ページ等に記載の加重平均による算出方法を用いて客観的な評価を行い、その内容を参考として掲載した。

なお、設問の内容から客観的な評価ができない設問については評価対象から除外している。

図表 79 生活や地域のことについての設問に関する評価



#### 4 今後の社会情勢を踏まえたうえでの市の取り組みについて

##### (1) 優先的に力を入れて欲しい分野

問6 (1)、(2)の各設問についてお答えください。

(1) 今後予想される社会情勢のもと、限られた財源の中で優先的に力を入れて欲しい分野はどの分野ですか。下記の選択肢のなかからあてはまる番号を3つまで選び、回答欄に番号をお書きください。

▶ 「高齢者福祉」(44.5%)、「保健・医療」(37.4%)、「子育て」(31.7%)がトップ3

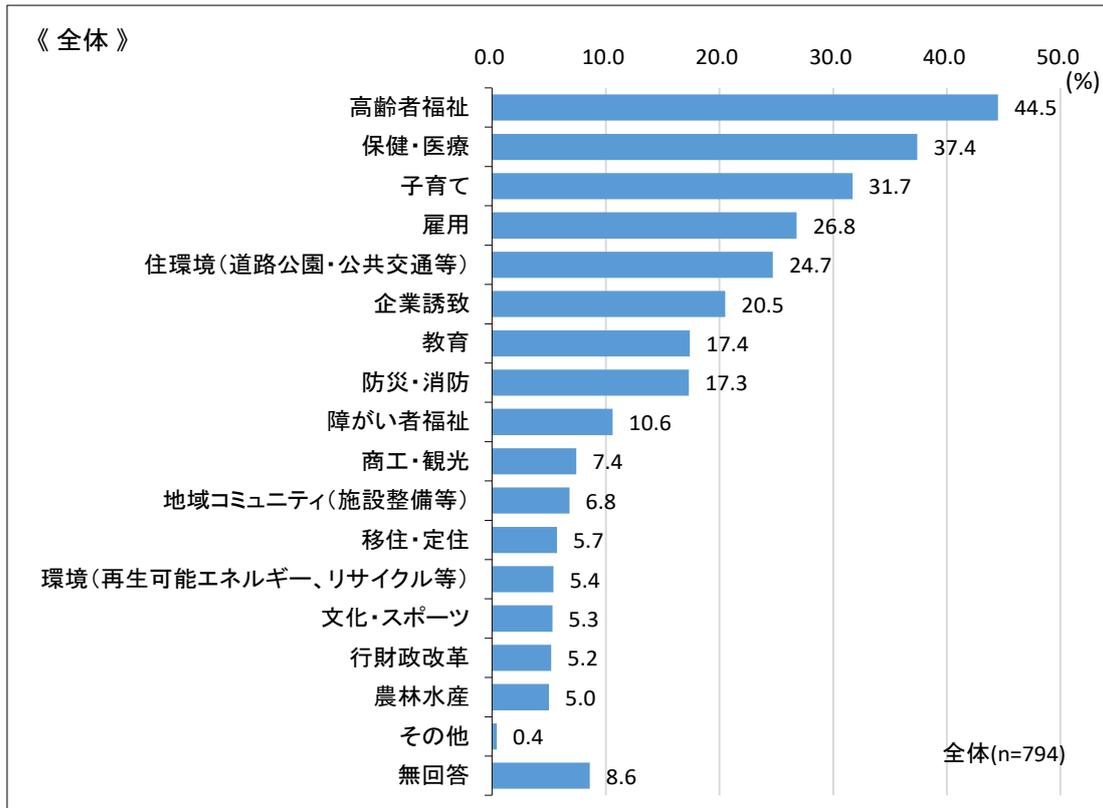
全体としては、「高齢者福祉」と答えた人が44.5%で最も多く、次いで「保健・医療」(37.4%)と「子育て」(31.7%)が3割台で続き、この3分野の優先順位が高くなっている。以下は、「雇用」(26.8%)、「住環境(道路公園・公共交通等)」(24.7%)、「企業誘致」(20.5%)、「教育」(17.4%)、「防災・消防」(17.3%)、「障がい者福祉」(10.6%)の順となっている。一方、「農林水産」(5.0%)、「行財政改革」(5.2%)、「文化・スポーツ」(5.3%)など、その他の各分野はいずれも1割未満と低い割合となっており、総じてみれば医療・福祉や子育て、雇用関連分野を重視する意向がうかがえる。

これを属性別でみると、性別では、男女ともトップ3は、「高齢者福祉」(男性48.6%、女性41.4%)、「保健・医療」(男性33.4%、女性39.8%)、「子育て」(男性30.0%、女性34.1%)の順で、その割合には男女間で違いがあるものの、上位6位までは男女とも同様の順位となっている。

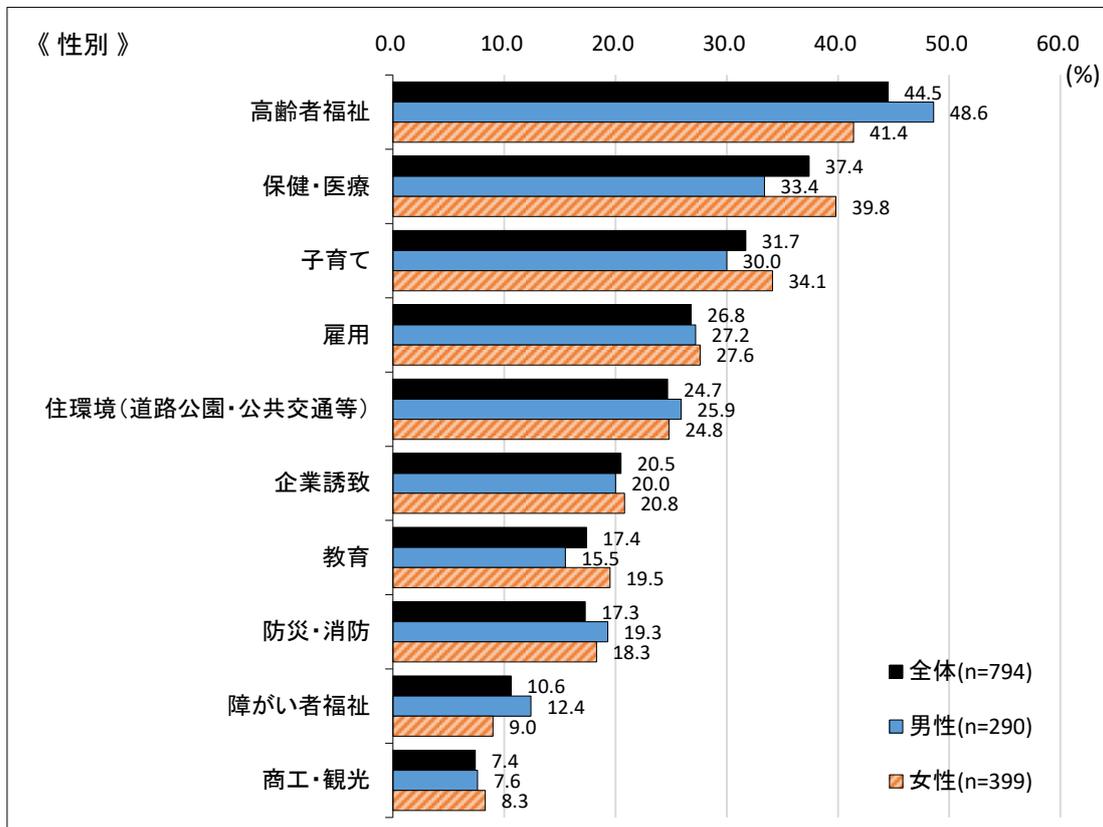
年齢でみると、全体のトップ3の分野については、70歳以上(51.0%)、50歳代(49.2%)、60歳代(44.6%)では「高齢者福祉」の割合が最も高く、その他の年代でも2割台後半から3割台となっている。「保健・医療」は40歳代(51.1%)で最も高い割合となったほか、10・20歳代(18.4%)を除くその他の年代では3割台から4割台前半となっている。「子育て」は30歳代(69.8%)と10・20歳代(52.6%)で最も割合が高く、40歳代(45.5%)でも4割台と高い割合を占めている。また、その他の分野では、「雇用」は10・20歳代(39.5%)と50歳代(39.1%)、「住環境(道路公園・公共交通等)」は60歳代(30.9%)と50歳代(28.1%)、「教育」は30歳代(42.9%)と40歳代(30.7%)で、それぞれその他の年代よりも高い割合を示している。

居住地区でみると、全体のトップ3の分野については、天王本郷地区の54.9%をはじめとして、いずれの地区でも「高齢者福祉」の割合が最も高く、「保健・医療」は各地区とも3割台から4割台前半と総じて高い割合となっており、「子育て」も各地区において2割台から3割台と高めの割合を示している。また、その他の分野については、「雇用」は飯田川地区(37.4%)、天王本郷地区(31.4%)、天王追分地区(31.1%)で3割台とその他の地区より割合が高く、「住環境(道路公園・公共交通等)」は天王追分地区(30.6%)と天王出戸地区(30.1%)で3割強とその他の地区より高い割合となっている。[図表79~82参照]

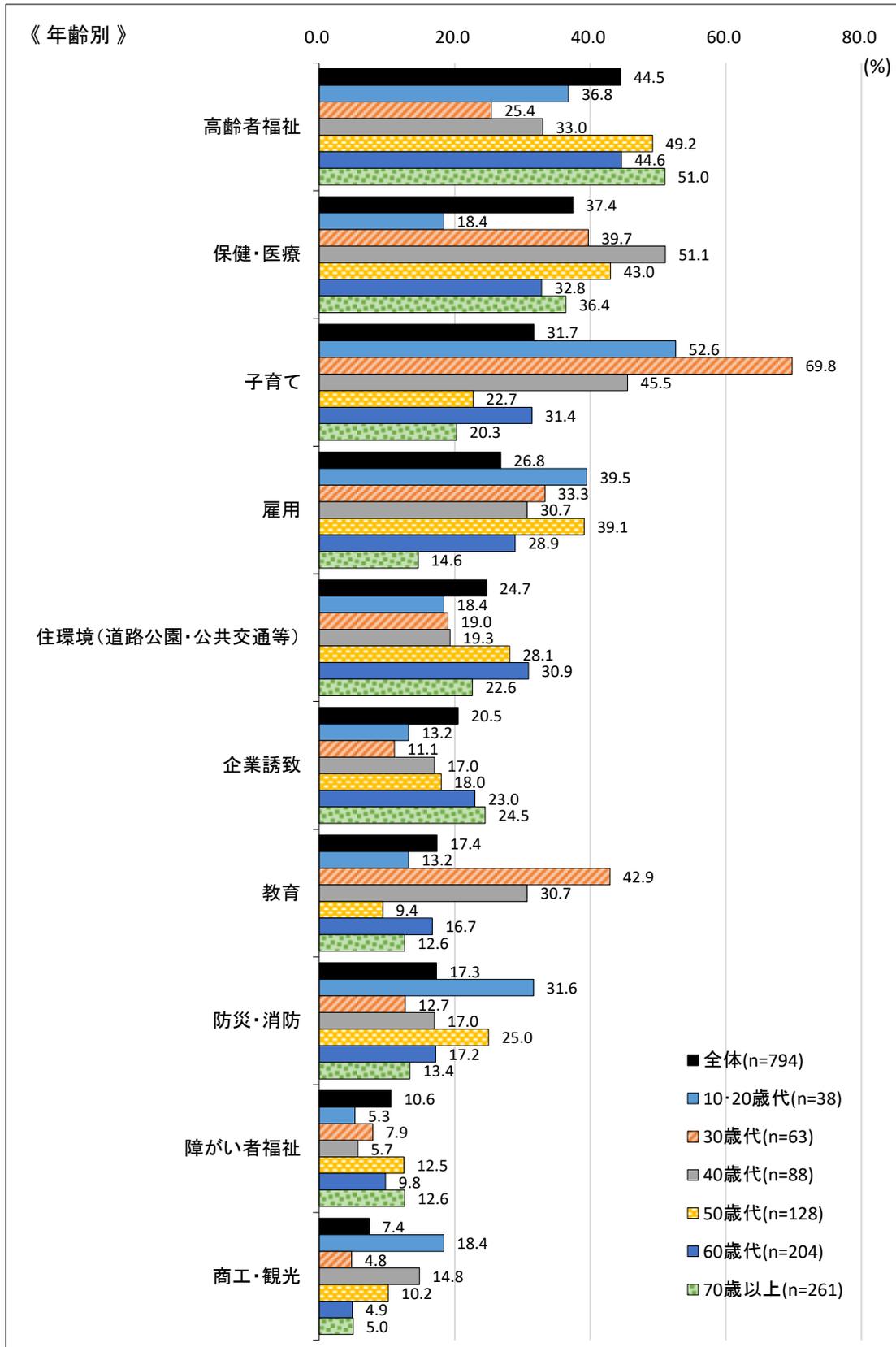
図表 80 優先的に力を入れて欲しい分野（全体）



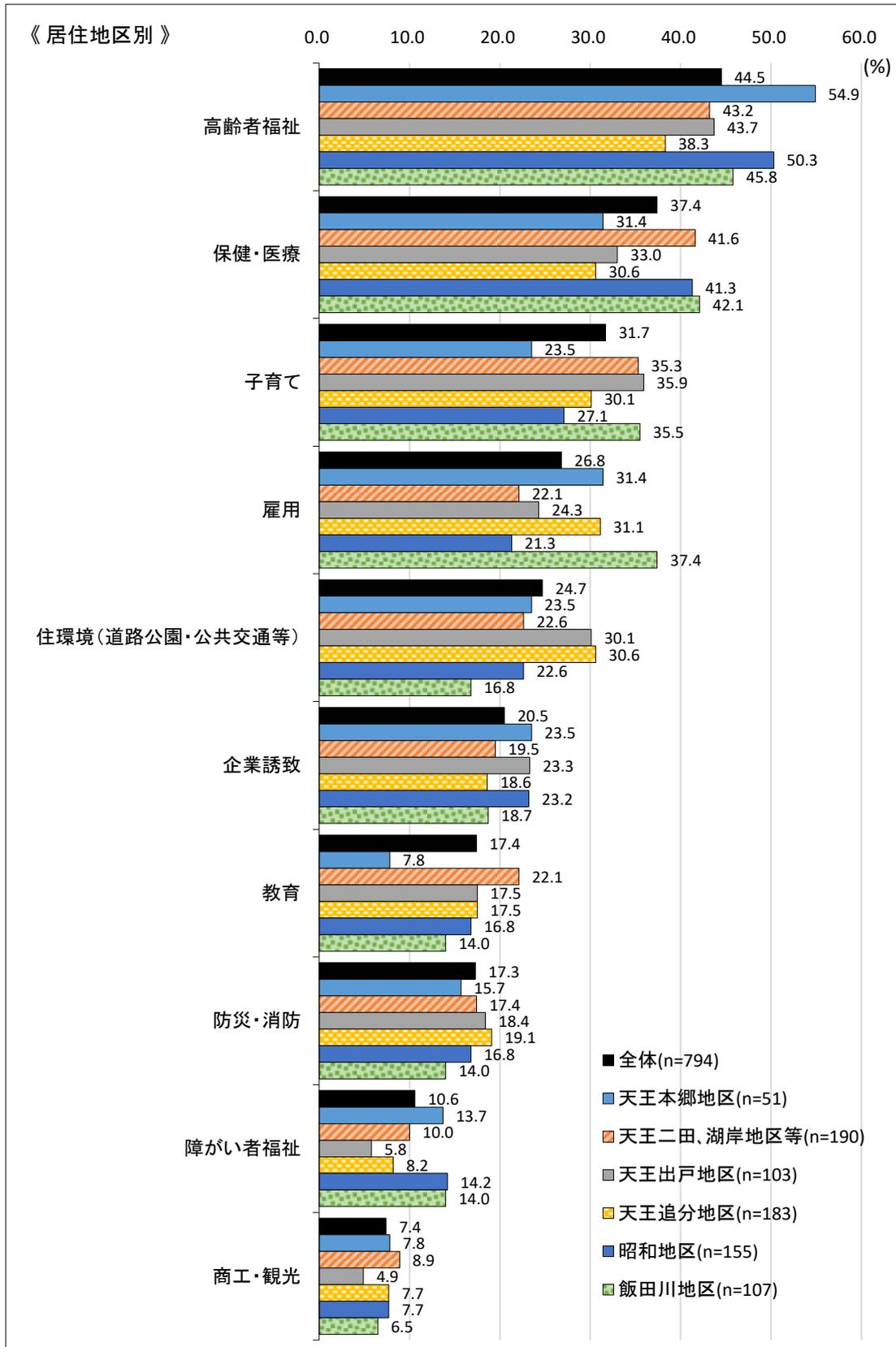
図表 81 優先的に力を入れて欲しい分野 全体上位 10 項目（性別）



図表 82 優先的に力を入れて欲しい分野 全体上位 10 項目（年齢別）



図表 83 優先的に力を入れて欲しい分野 全体上位 10 項目（居住地区別）



(2) 取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野

問6 (1)、(2)の各設問についてお答えください。

(2)(1)で選択した分野に力を入れるためには、取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野はどの分野ですか。下記の選択肢のなかからあてはまる番号を3つまで選び、回答欄に番号をお書きください。



➤ 「地域コミュニティ（施設整備等）」(38.8%)、「文化・スポーツ」(33.4%)、「移住・定住」(32.4%)がトップ3

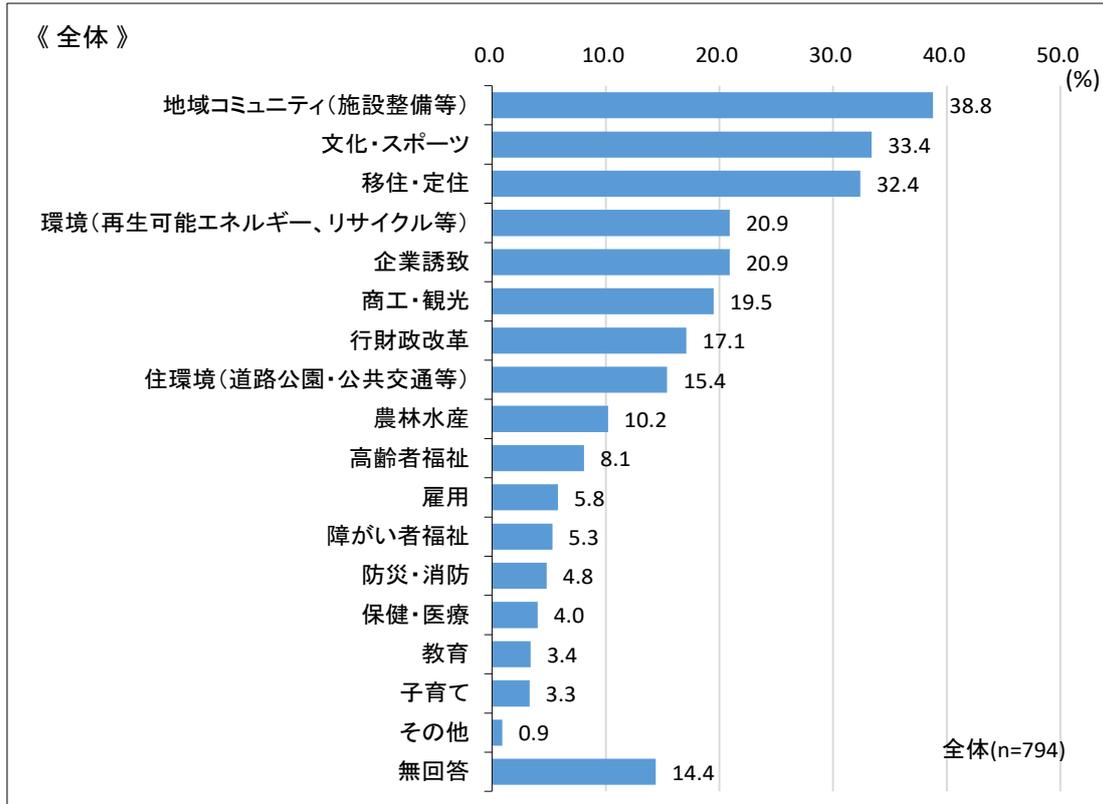
全体としては、「地域コミュニティ（施設整備等）」と答えた人が38.8%で最も多く、次いで「文化・スポーツ」(33.4%)と「移住・定住」(32.4%)が3割台で続き、この3分野の割合が高くなっている。以下は、「環境（再生可能エネルギー、リサイクル等）」、「企業誘致」(各20.9%)、「商工・観光」(19.5%)、「行財政改革」(17.1%)、「住環境（道路公園・公共交通等）」(15.4%)、「農林水産」(10.2%)の順となっている。一方、「子育て」(3.3%)、「教育」(3.4%)、「保健・医療」(4.0%)など、その他の各分野はいずれも1割未満と低い割合となっており、総じてみれば地域コミュニティの育成や文化・スポーツ活動の推進、移住・定住の推進、産業振興といった分野の優先度は低いとの意向がうかがえる。

これを属性別でみると、性別では、トップ3は、男性が「文化・スポーツ」(35.5%)、「地域コミュニティ（施設整備等）」(34.5%)、「移住・定住」(30.7%)の順で、一方、女性では「地域コミュニティ（施設整備等）」(43.6%)、「移住・定住」(34.3%)、「文化・スポーツ」(34.1%)の順となり、男女間で順位や割合に違いはあるものの、男女ともこの3分野が高い割合を示している。以下についても男女間で順位や割合に違いが見られる。

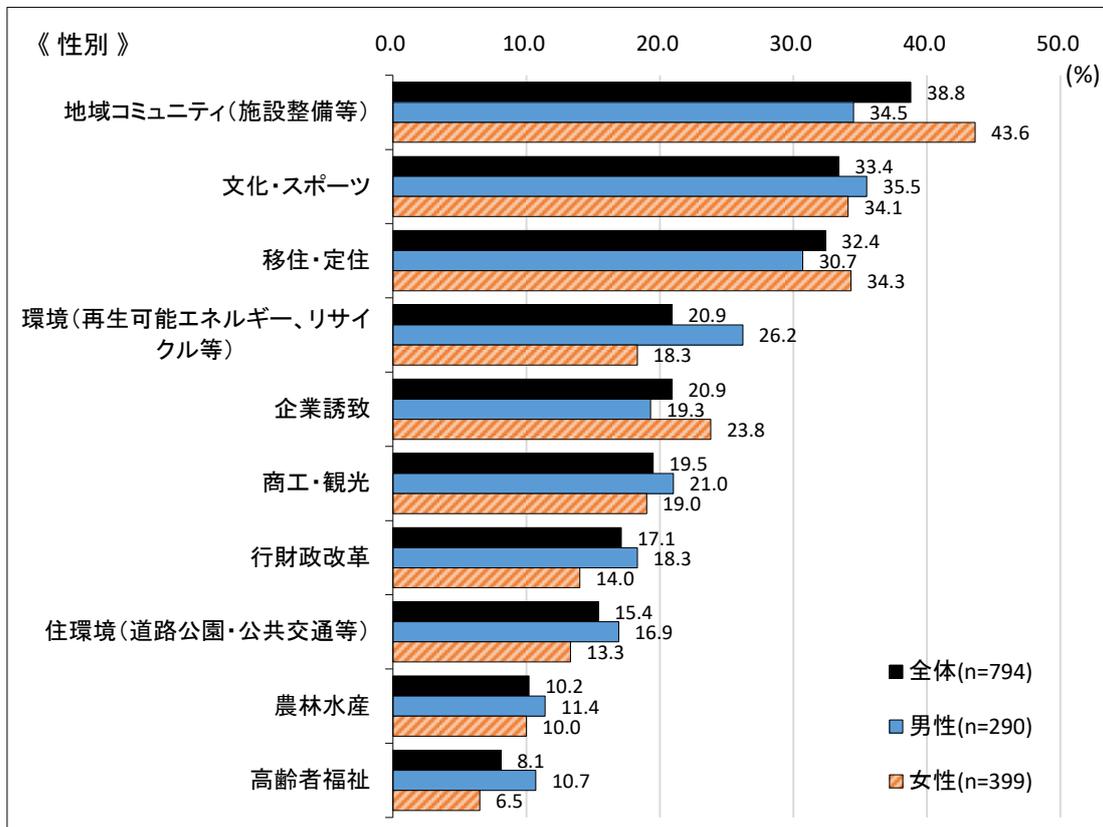
年齢でみると、全体のトップ3の分野については、「地域コミュニティ（施設整備等）」は50歳代(47.7%)、60歳代(45.6%)、70歳以上(31.0%)の各年代で最も割合が高く、「文化・スポーツ」は10・20歳代(44.7%)と30歳代(41.3%)で最も高い割合となり、「移住・定住」は40歳代(43.2%)で割合が最も高くなっている。また、この3分野ではその他の各年代も2割台から4割台前半と総じて高めの割合を示している。なお、その他の分野では、「企業誘致」は30歳代(38.1%)と10・20歳代(36.8%)で3割台と他の年代より高い割合となっている。

居住地区でみると、天王本郷地区で「環境（再生可能エネルギー、リサイクル等）」(39.2%)がトップとなったほかは、「地域コミュニティ（施設整備等）」が天王追分地区(47.5%)、天王二田、湖岸地区等(38.9%)、昭和地区(38.1%)、天王出戸地区(37.9%)の4地区でトップとなり、「移住・定住」は飯田川地区(35.5%)で最も割合が高く、「文化・スポーツ」は天王出戸地区(37.9%)で「地域コミュニティ（施設整備等）」と同率トップとなっている。総じてみれば各地区において、全体トップ3の分野が高い割合を示しており、優先度は低いとの認識がうかがえる。[図表 83～86 参照]

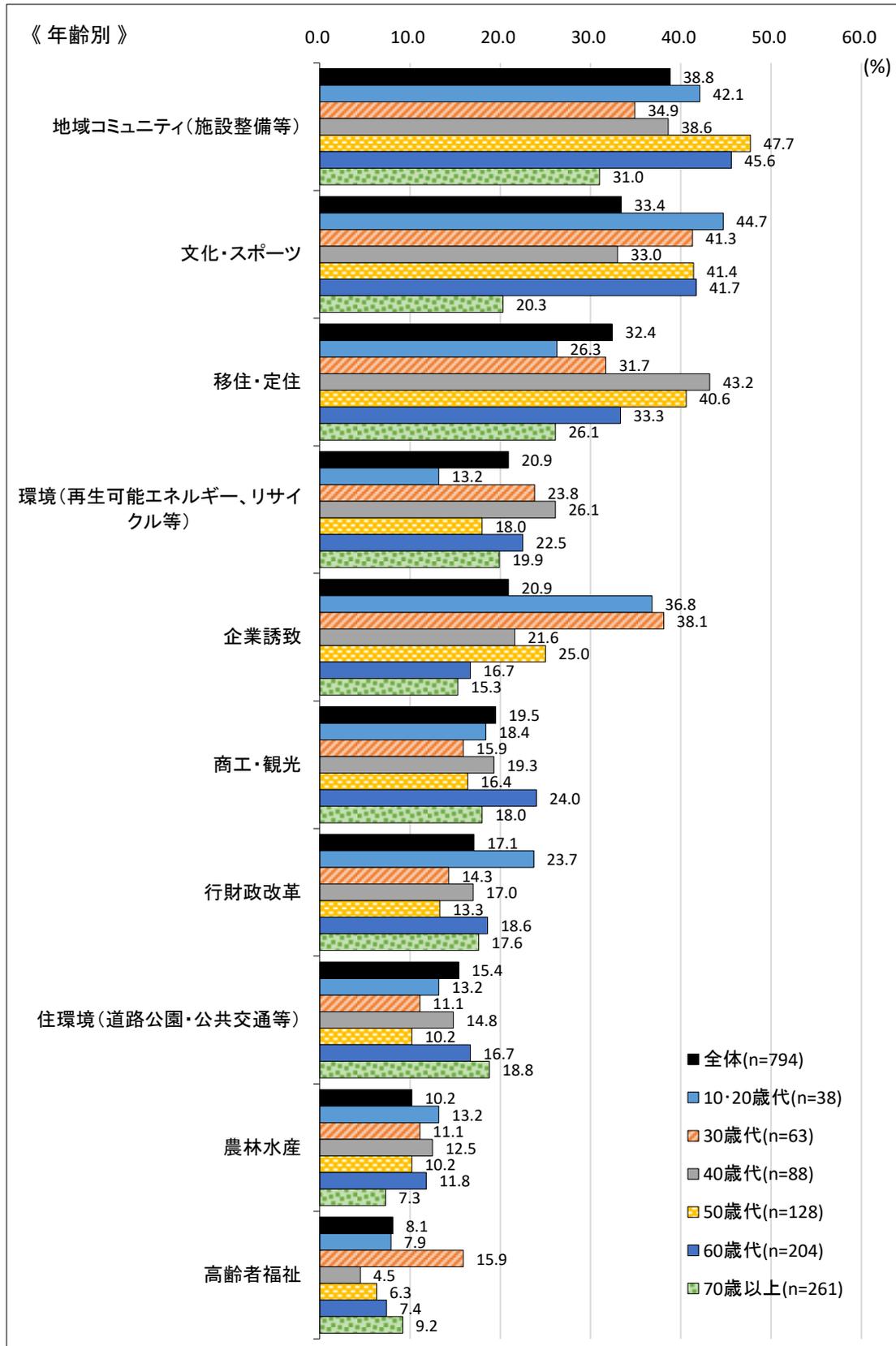
図表 84 取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野（全体）



図表 85 取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野 全体上位 10 項目（性別）



図表 86 取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野 全体上位 10 項目（年齢別）



図表 87 取り組みを少し後に回してもやむを得ないと思う分野  
全体上位 10 項目（居住地区別）

